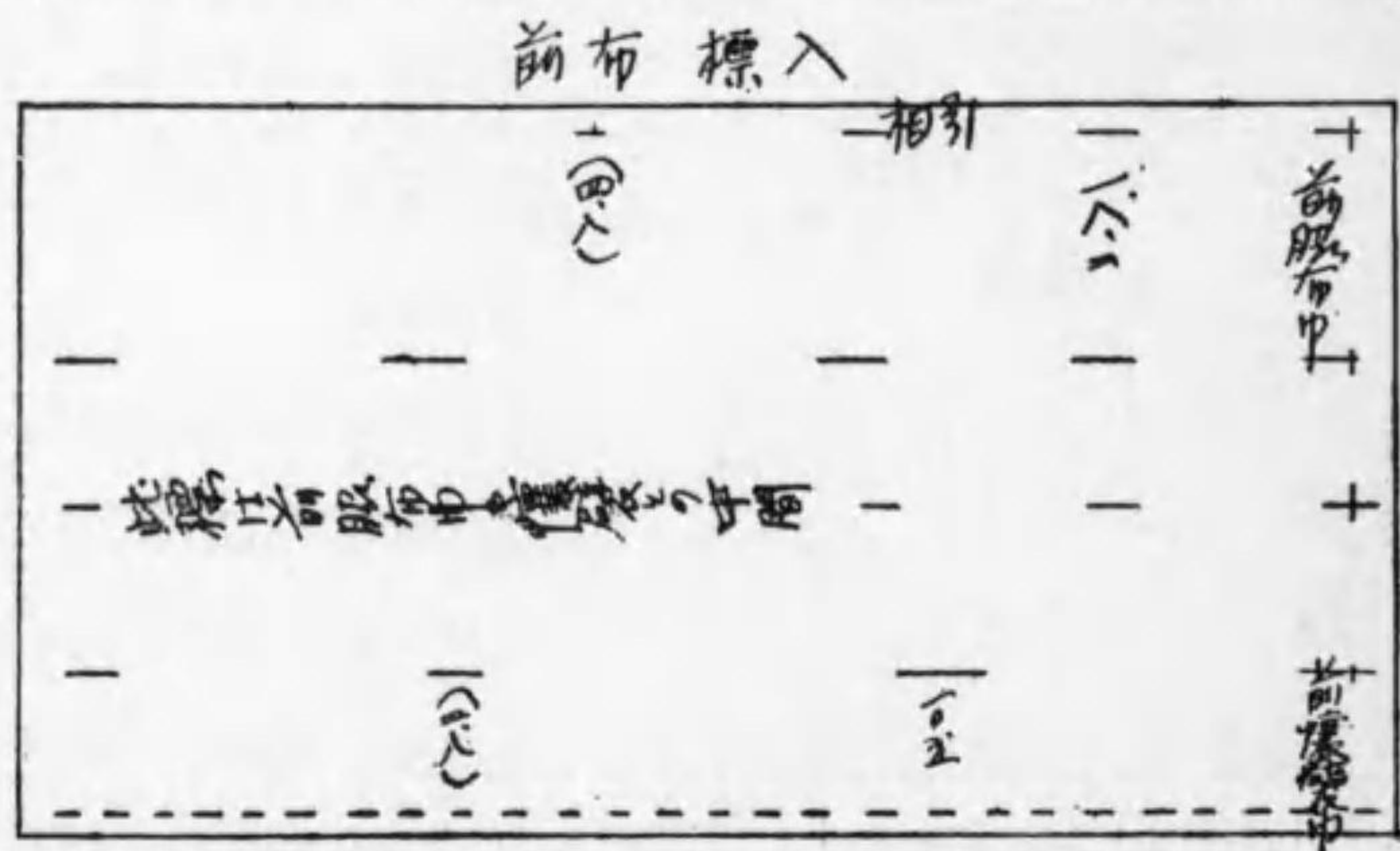
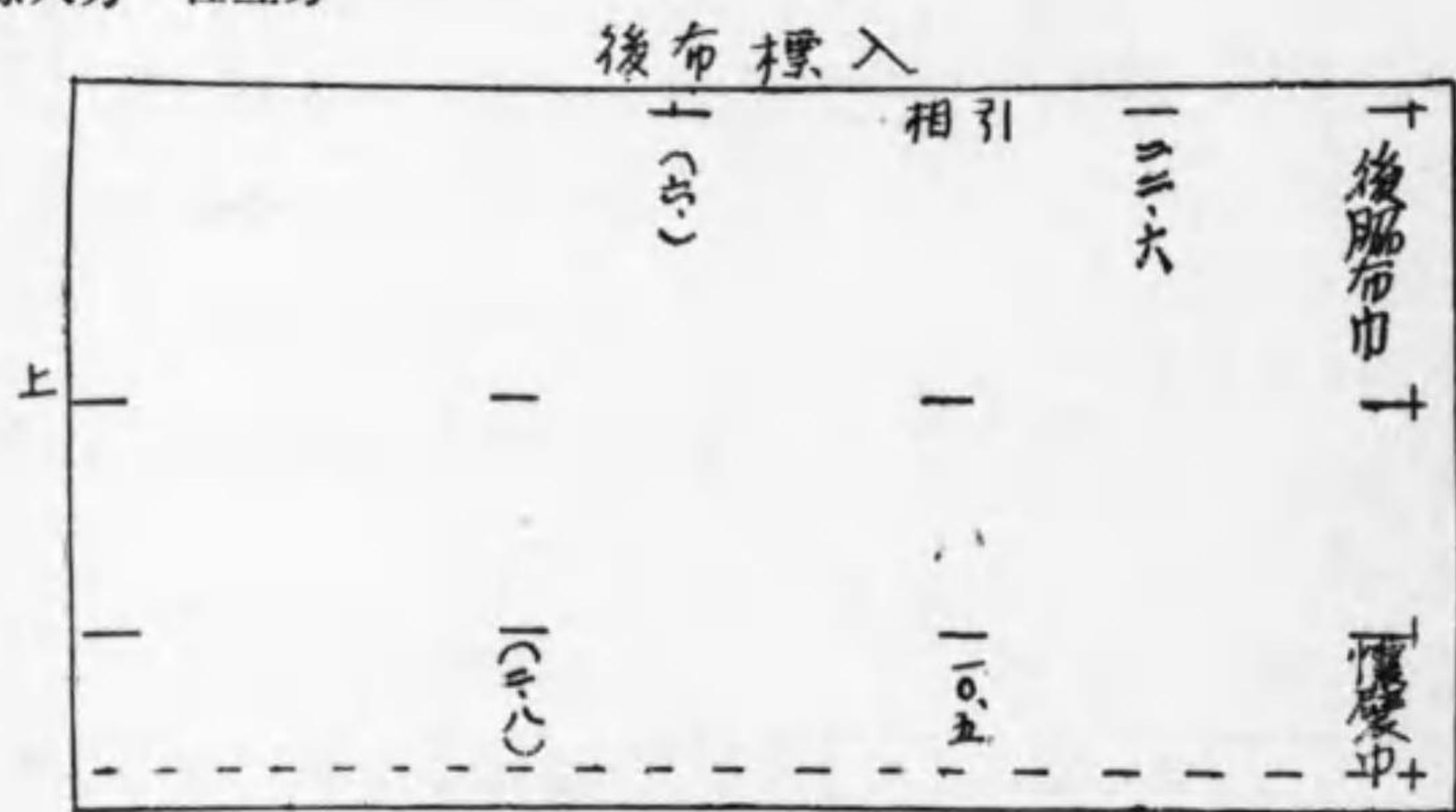




積方

後布丈×5=用布 100×5=500cm用布

標入方 仕立方



前後とも裁目の方を合せて袋縫になし左右の布を重ねて標入す。

後幅30.5cm(8寸)と假定して寸法記入。

蹴廻しにしづ布を附く幅は並幅の半幅又は竝布幅三ッ割を付ることあり。又男袴と同様1cmの三ッ折り衿になすことあり。

○縫方順序

- 1 紐衿(前後共真中40cm残して衿ける)
- 2 前後布相引縫合せ
- 3 蹴廻しづ付
- 4 後前襷取
- 6 前笹襷
- 7 後紐付
- 8 前紐付
- 9 仕上げ縫方

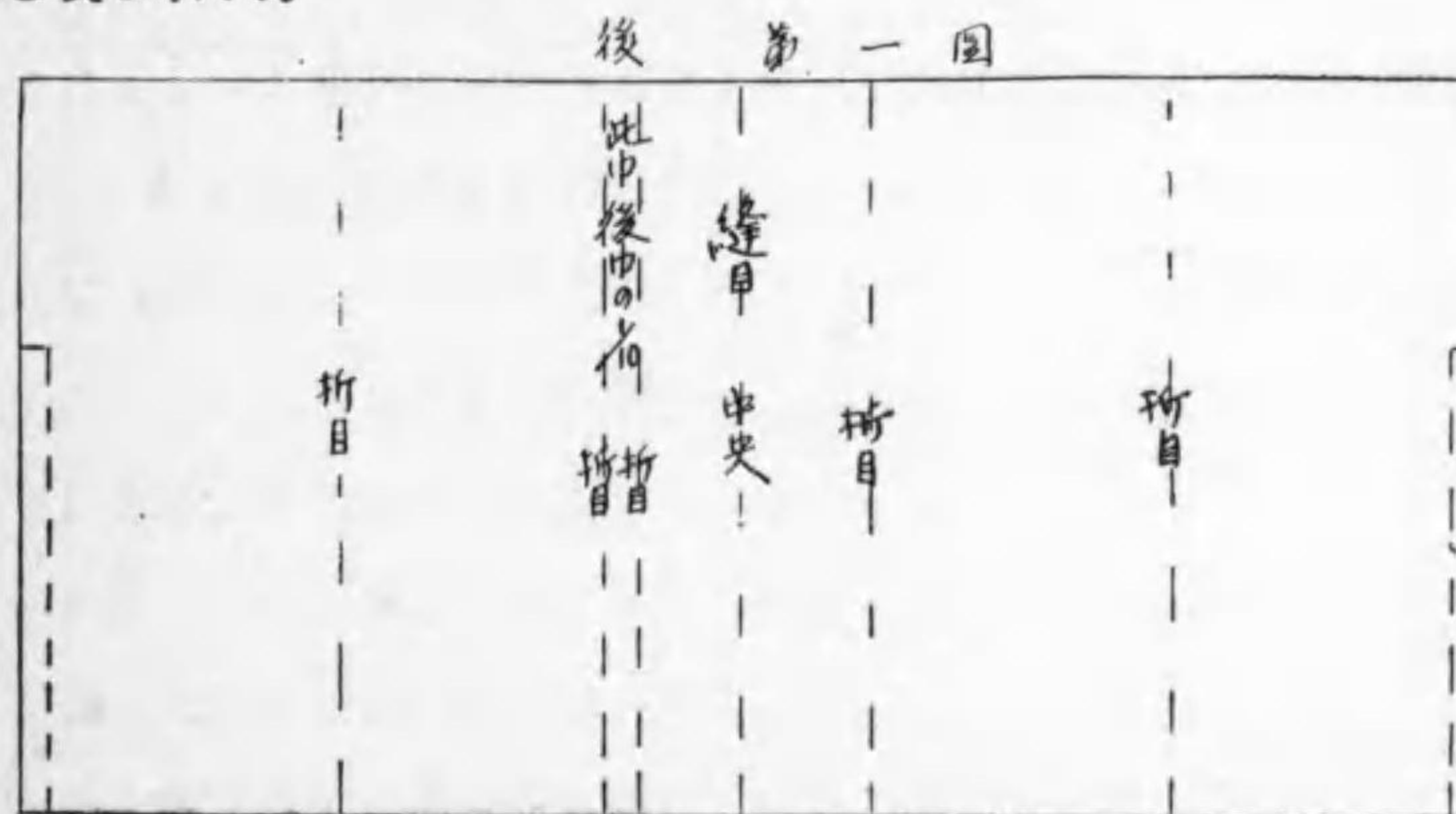
○紐衿 定め幅に折り紐の出来上りより1mm紐芯幅を控へて裁切少しく芯をゆるめ加減に中央40cm残して小針に衿ける。紐丈接合する時は割り接ぎとす。

○相引前後標を合せて縫ひ折りは前布に返す。

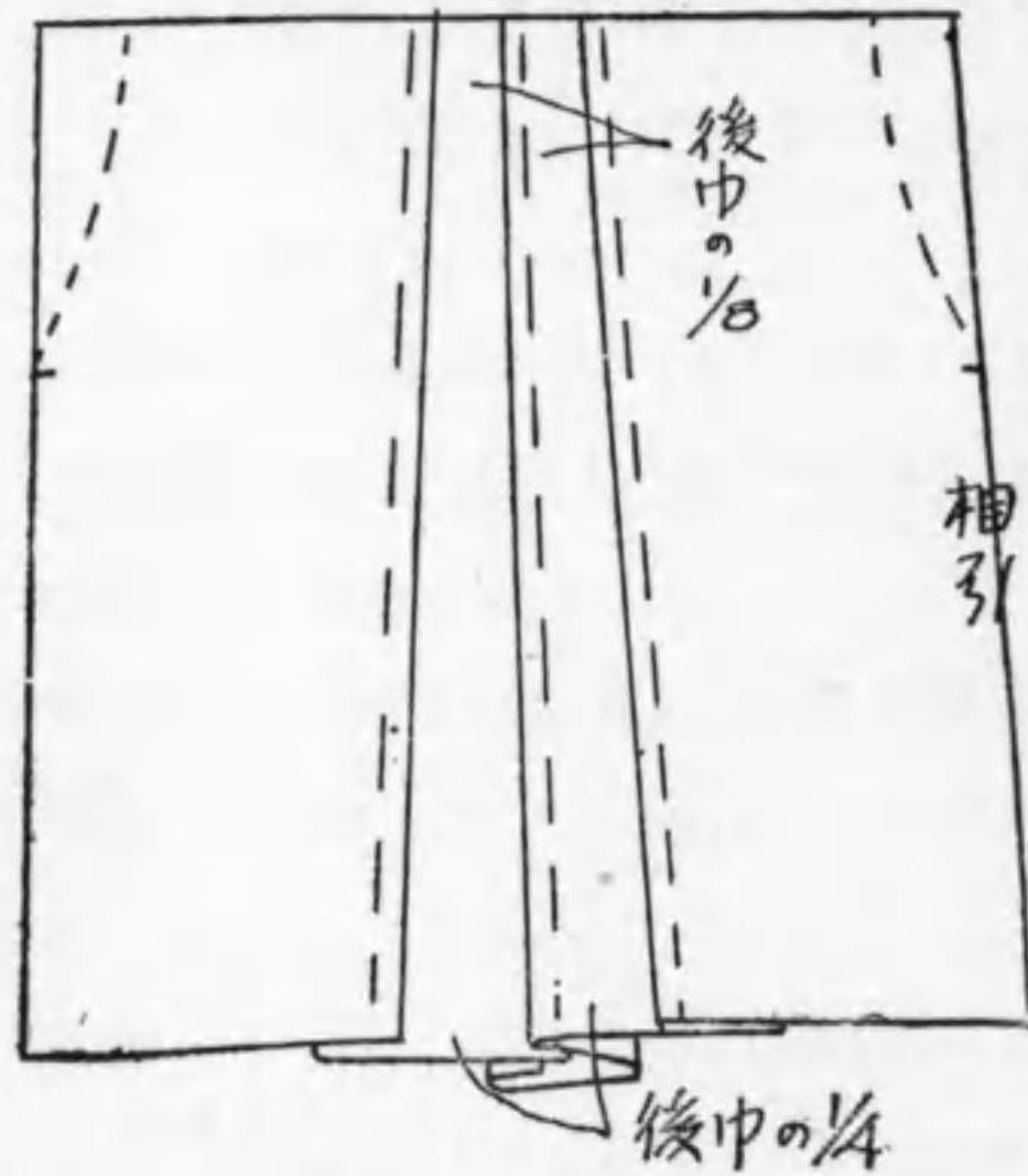
○蹴廻ししづ切を縫ひ合せ1mmのキセにてしづの方に折りを返し表布3mm裏に返してしづ幅一ばいに折りをつけ1cmの針目にて表布に衿け付ける。

○しづなき時は1cmの三ッ折り衿に針目細かく衿け付る。

○襷の取り方



第二圖



左脚懐襷の標より中へ後幅の $\frac{1}{10}$ を入りて布を折り候し
 右脚懐襷標を折りて左脚懐襷標に當て折り込みの深さは第2圖の如く $\frac{1}{10}$ を重ねて候す。

次に脇襷標を折りて上下の寄せ襷幅を離れた所に持ち行き左右とも候す。

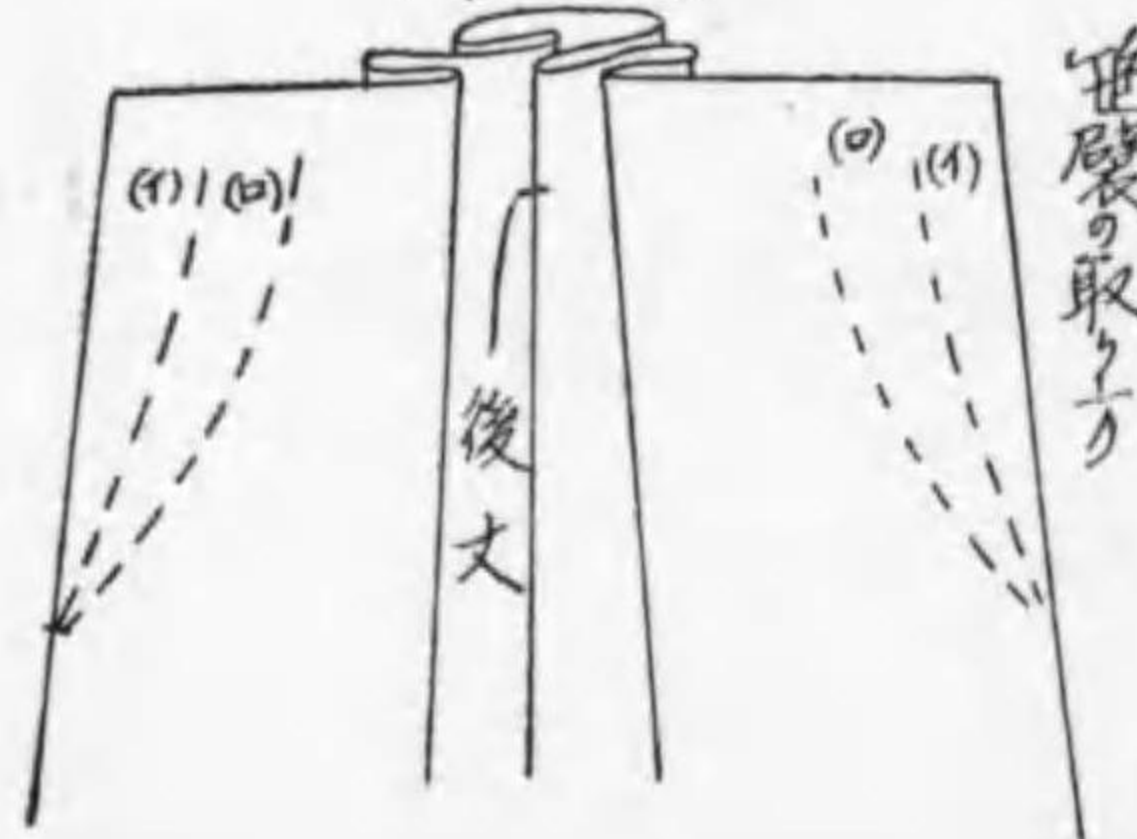
まづ第1圖布上端より(イ)まで脇布幅の $\frac{1}{4}$ に3mm加へたる所を相引の終りより

斜に折る。次に(イ)より(ロ)の幅を脇布幅の $\frac{1}{4}$ に折りて第2圖の如く疊み中央中襷より腰幅の $\frac{1}{2}$ に落付かせて候す。笹襷の形は丁度笹の葉の形なるを以て此の名稱あり。

○前紐附も寸法に相異なるのみ襷の取方後と同様。

○後紐縫附 後紐丈の中央を定めて紐幅の折山と丈標とをよく合せ

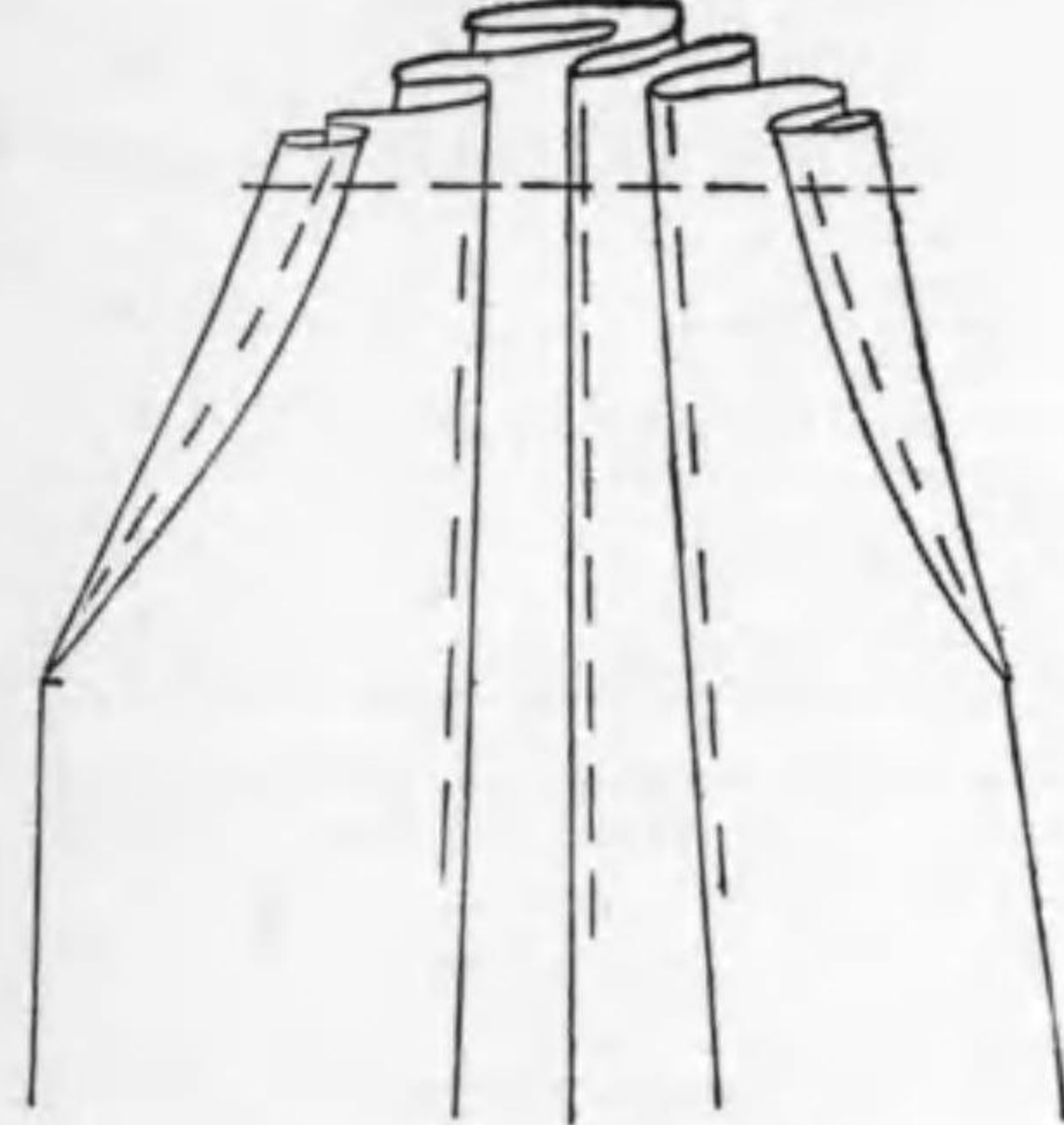
第一圖



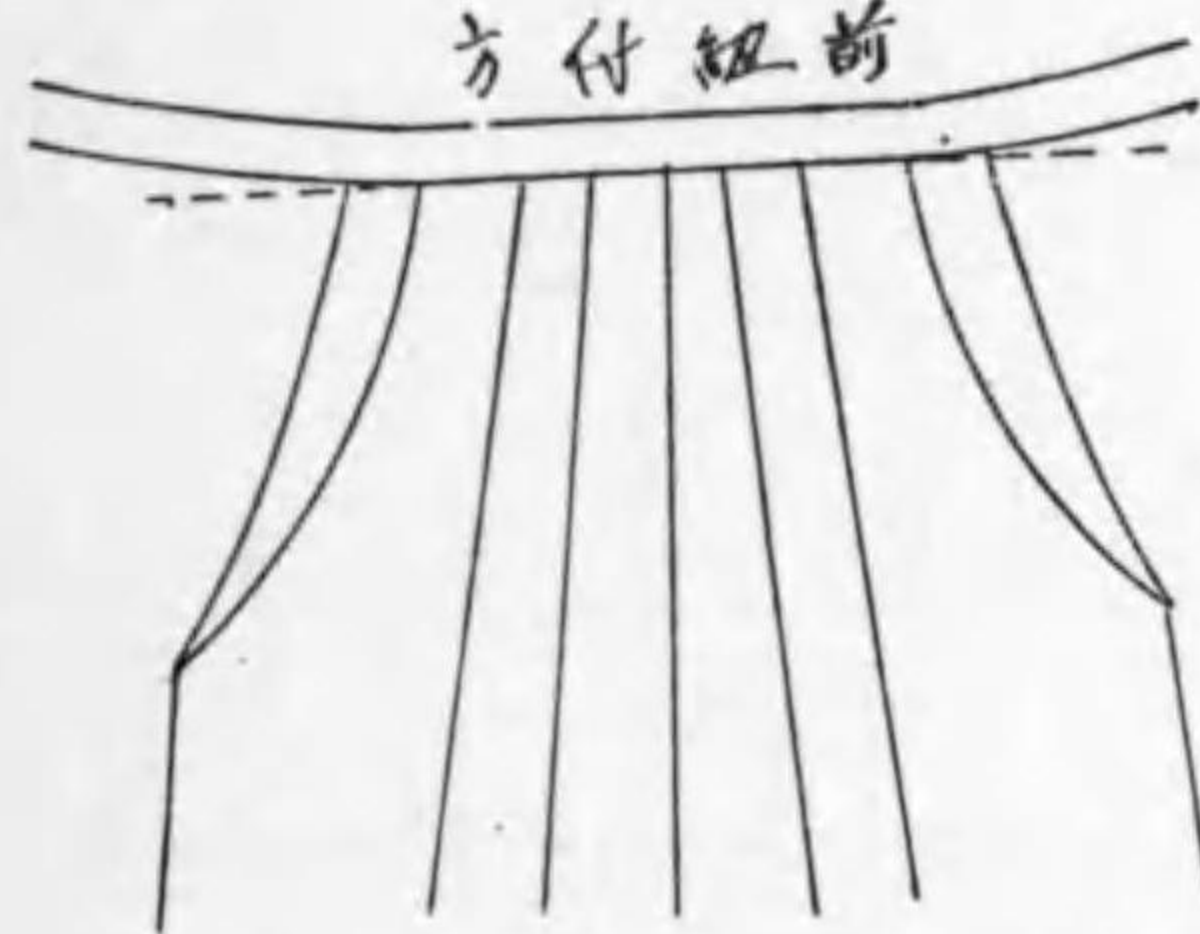
待針し紐幅の折山より3mm内を半返縫ひになす終りて腰幅に芯を入れる。

○芯は堅き布を三重又四重にてもよく又厚紙にしてもよろし
 芯は紐幅の2倍とし長さは腰幅に2cm加へて裁ち切り紐の

第二圖



前紐付方



輪になる兩を丸く裁ち落して着物三ツ衿芯の入方と同様紐の縫附目に3mm出して芯をゆるめて綴ちつく後裏にて拵け附く。

○前紐附 前は紐下の標を左右の笹襷の間は真直に笹襷幅は3mm上げて前紐附方圖の如く前紐の天標と中襷の紐下標を合せ紐のゆるまざる様注意して待針し紐芯に半紙又は美濃紙をもみて2枚乃至3枚を紐幅の2倍に切り稍ゆるめに當表紐縫附と同時に縫附る。次に襷の薄き所ある故外と同厚味になる様別の布端又は紙に

てもその薄き所の幅丈に切りて綴ちつけ紐の裏にて小針に拵けつける。

仕上げ

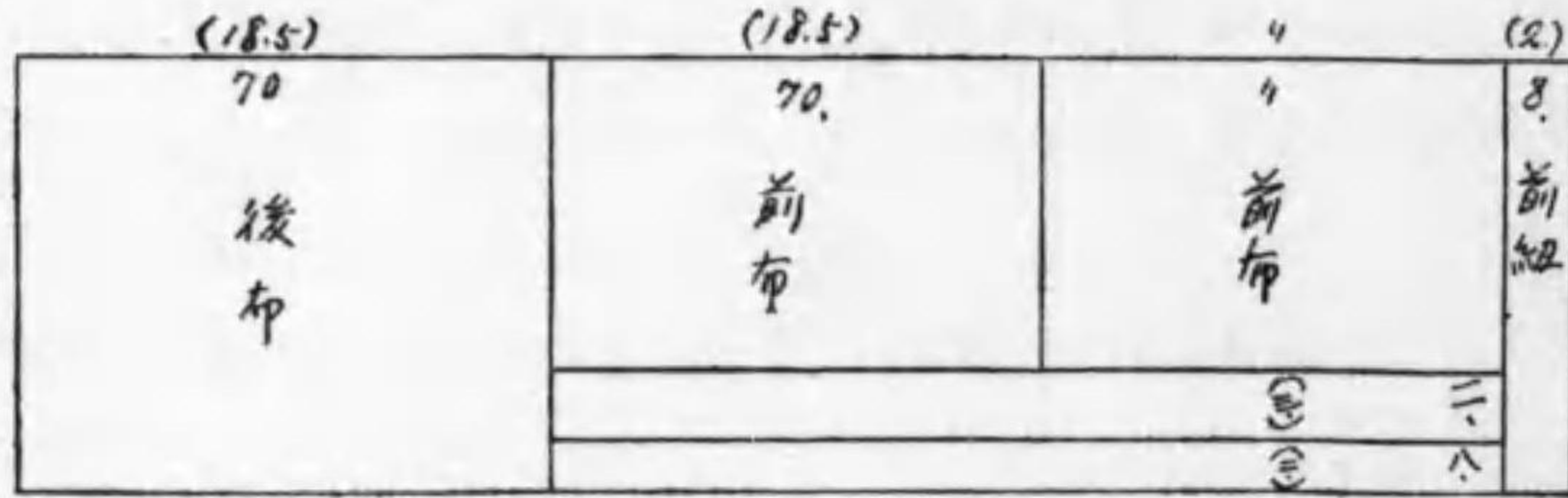
○相引の上に門留めをなす。

○終りて裾口より10cm(2寸5分)の所上の前紐附より10cm下りたる所に千鳥掛の飾候をなす中間には返し候にてよろし。

○毛織物なれば霧を吹き布を當てて軽くアイロン掛けて仕上す。

第二節 小裁, 中裁女袴

大幅物218cm(5尺7寸5分)の布を以て小裁女袴の裁方



積方

後布丈×3+前紐丈=用布 70×3+8cm=218cm

(用布-前紐丈)÷3=後布丈 (218cm-8)÷3=70cm後布丈

大幅340cm(9尺)の布を以て中裁女袴の裁方



積方

後布丈×4=用布 85×4=340cm

◎爾來女袴にも前布に切上を附布に前後の差をつけたるが仕立替の際布を上下になすに當り布地大いに不經濟なり且つ仕上の形に於て又着用上に於ても大した差支へなきを以てわざと裁方に於て形及び前後の差を附せず。

○標入 前記の割出し法に依りて各部の寸法を定め本裁女袴同様

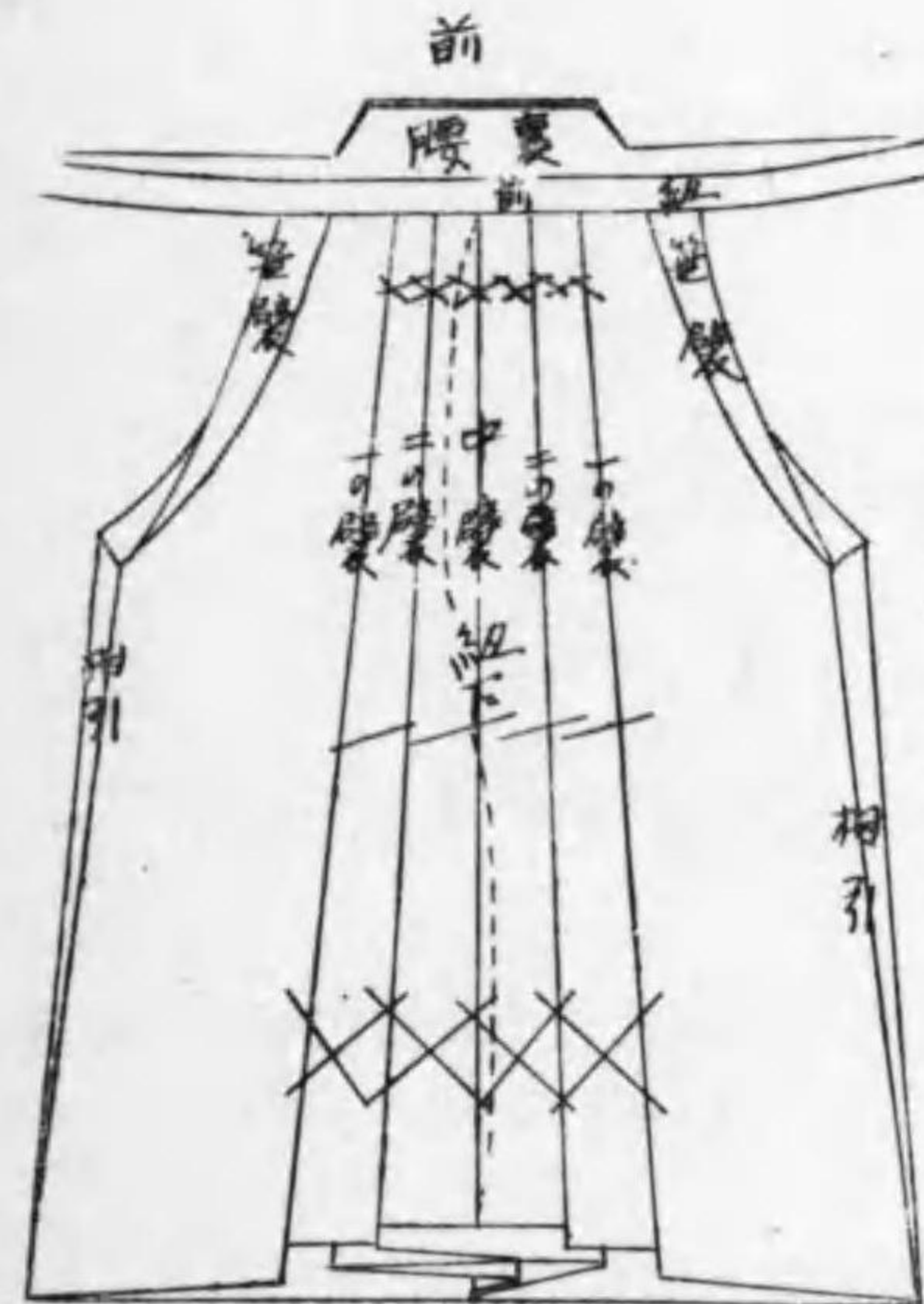
に標入れす。

○仕立方 縫合せ方及び襲取り方紐の附方等すべて前述の女袴の通りよく参照せられたし。

第十四章 男袴

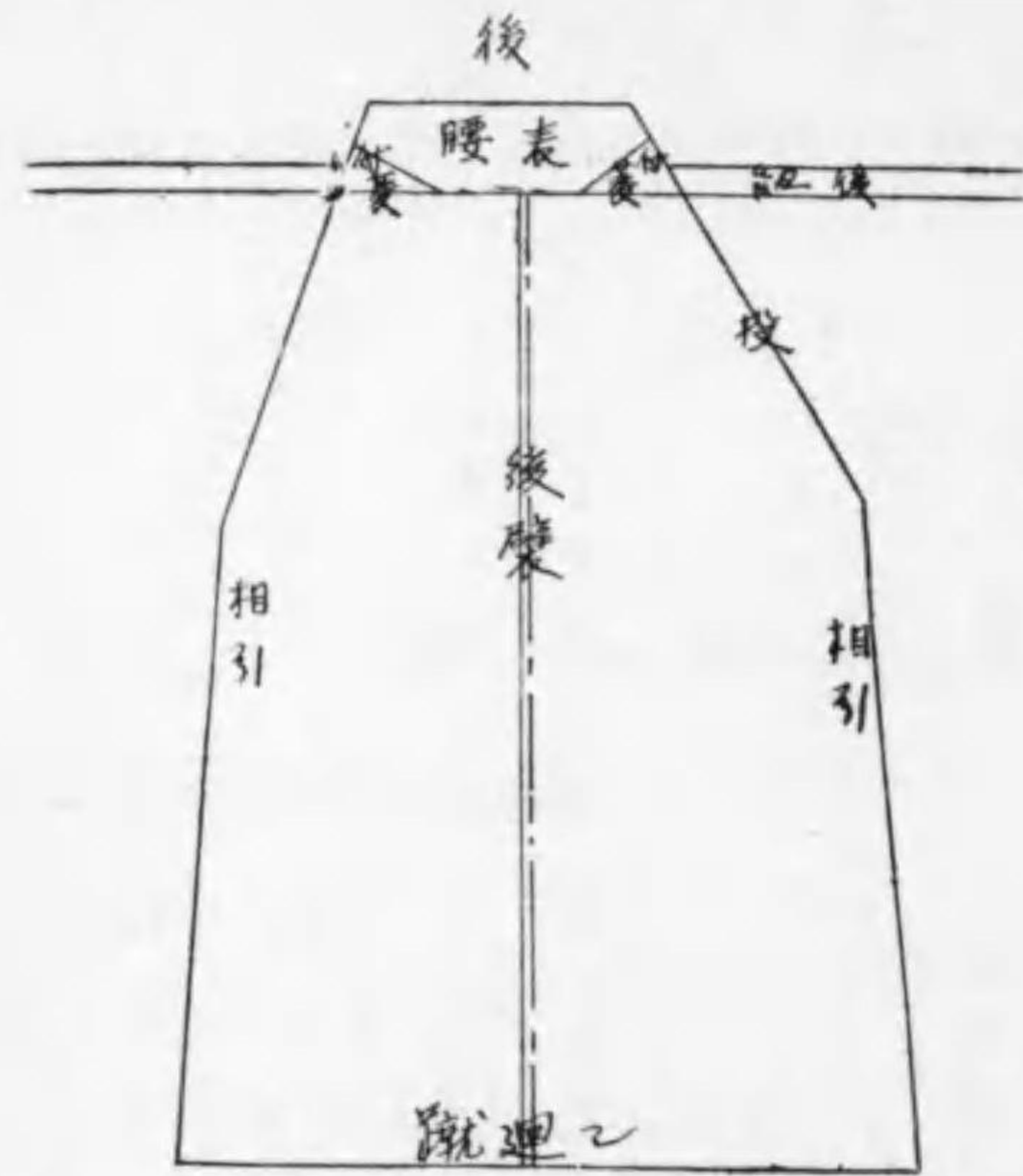
第一節 各部名稱

男袴各部寸法割出方



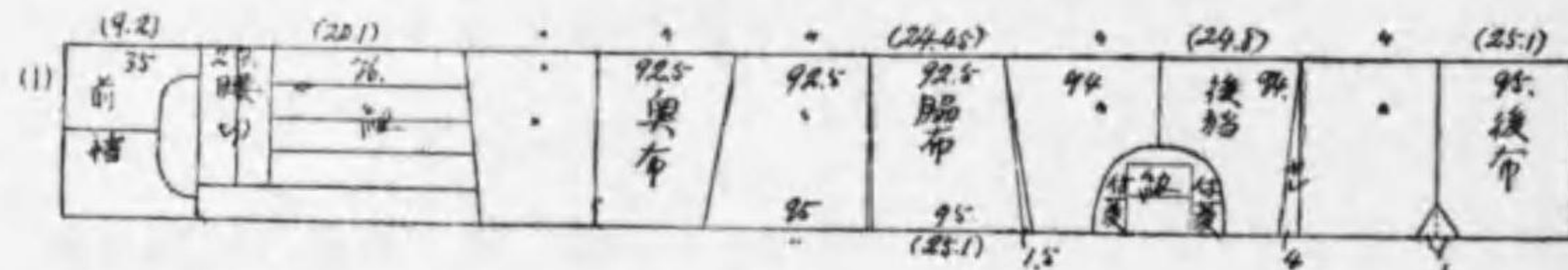
- 1. 紐下 衣服の着丈にコンマの6を乗じたるもの
- 1. 相引の高さ 紐下の $\frac{3}{4}$ に2cm乃至4cmを加ふ。
- 1. 裾の高さ 紐下の $\frac{1}{2}$ に4cmを加ふ。
- 1. 後幅 衣服の後幅と同様。
- 1. 後腰幅 後幅の $\frac{3}{4}$ に2cmを加ふ。
- 1. 前脇布幅 後幅の $\frac{3}{4}$

- 1. 寄襲幅 下は後幅の $\frac{1}{2}$ 上は $\frac{1}{10}$ とす。
- 1. 笹襲幅は脇布幅の $\frac{1}{4}$
- 1. 前腰幅 後幅と同寸もしくはこれに1cm乃至2cmを加ふ。
- 1. 腰板幅 後腰幅と同寸上の幅は腰幅の $\frac{1}{2}$ を左右斜に裁落したるもの。



- 1. 腰板の高さ 後腰幅の $\frac{1}{2}$ に3mm乃至5mm加へたるもの
- 1. 附菱幅 腰板幅の $\frac{1}{2}$ 高さは腰板の高さの $\frac{1}{2}$ に3mm乃至5mm加へたるもの

◎並幅の布を以て男物拾番馬乗袴の裁方及び積り方



後布丈裁切寸法を求むる法

紐下+蹴廻り三ッ折筋代+形+前後の差+上の縫代=後布丈裁切寸法
 假に紐下を80cmとして80cm+2+5+4+4=95cm

積 方

後布丈×8+前裾+腰切+紐布-形=用布

鯨 2丈5尺1寸×8+9尺2寸+6寸+2尺1分-3寸2

分=23尺6寸1分

米 95×8+35+23+76-12cm=882cm

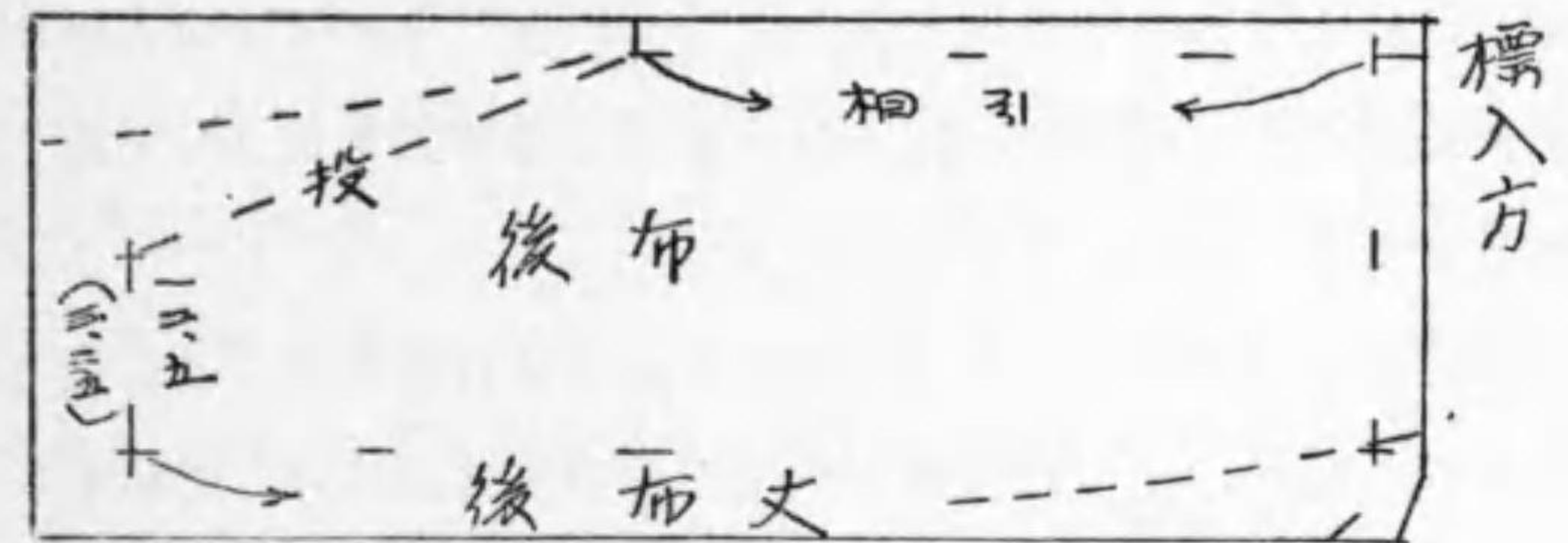
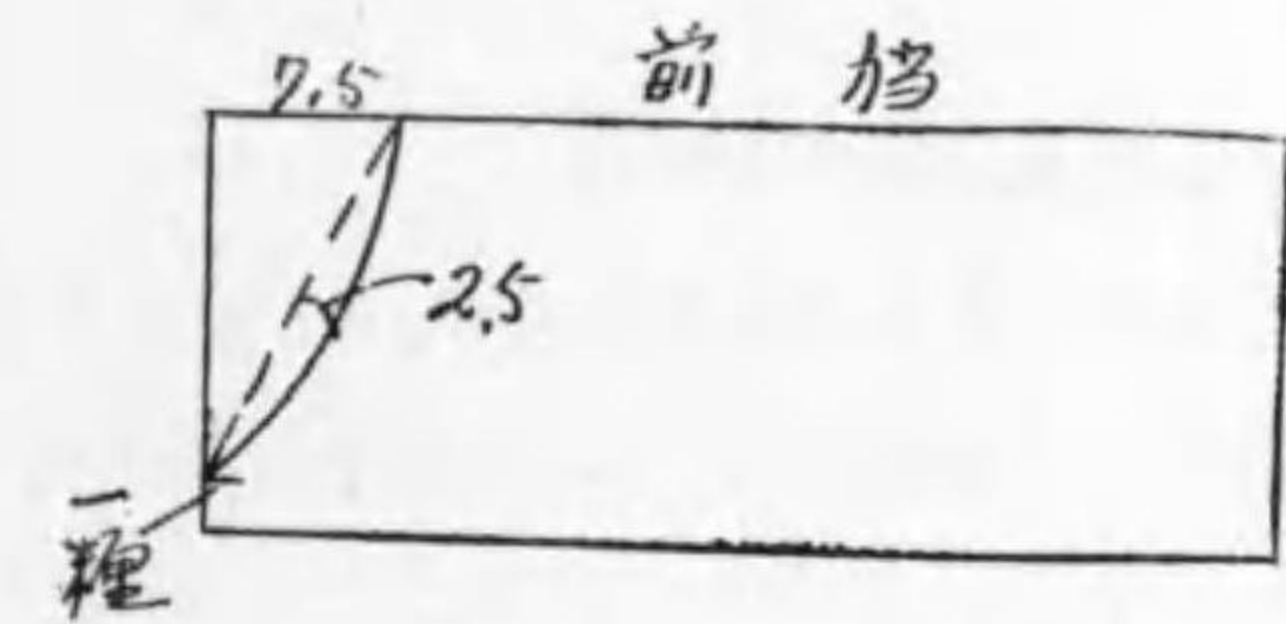
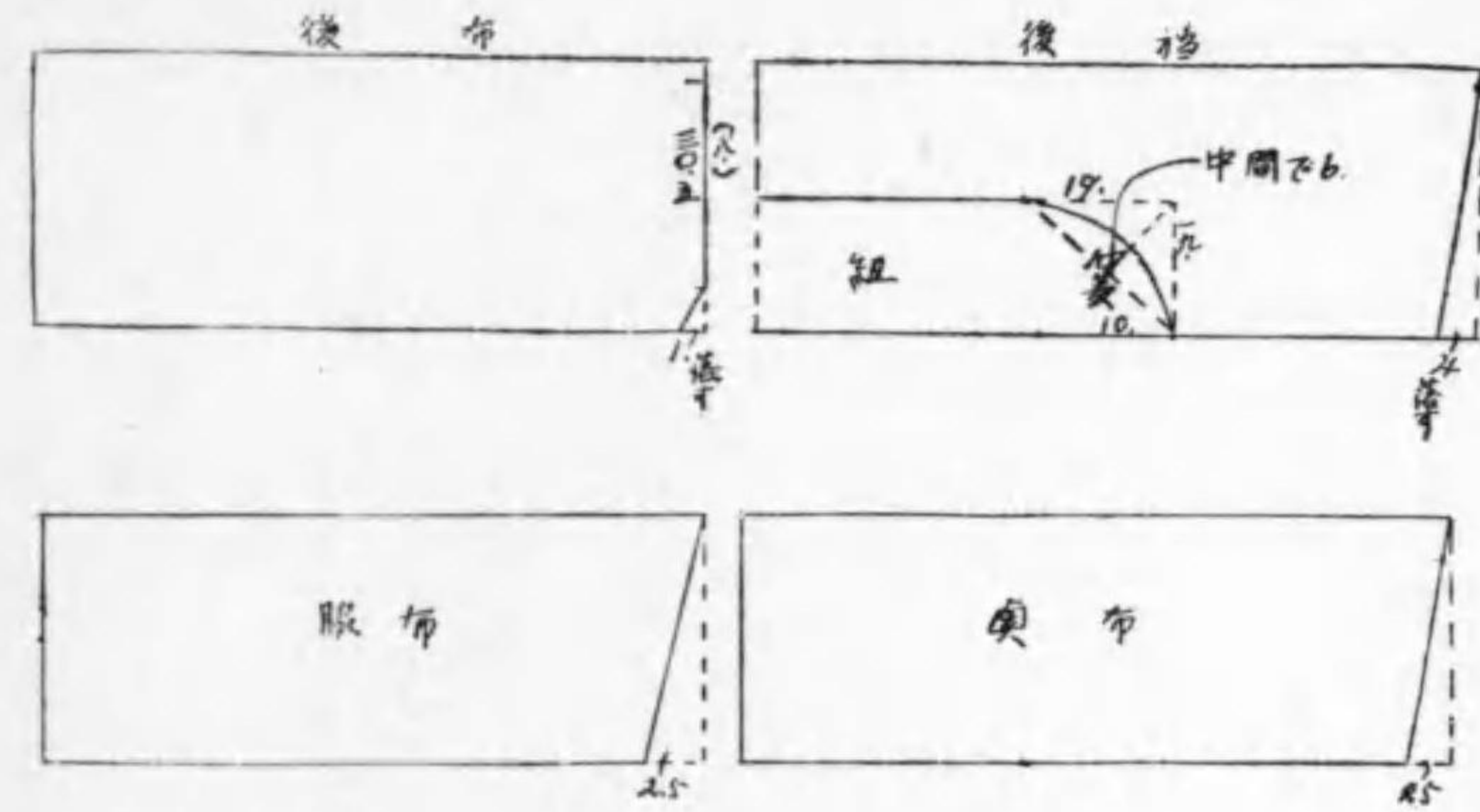
(形) 切上寸法

後裾切上×2+脇布奥布切上×4=裁違ひ

鯨 3分×2+6分5厘×4=3寸2分

米 1×2+2.5cm×4=12cm

分解裁方



後布丈標入寸法

紐下+形+前後の差+蹴廻り筋代

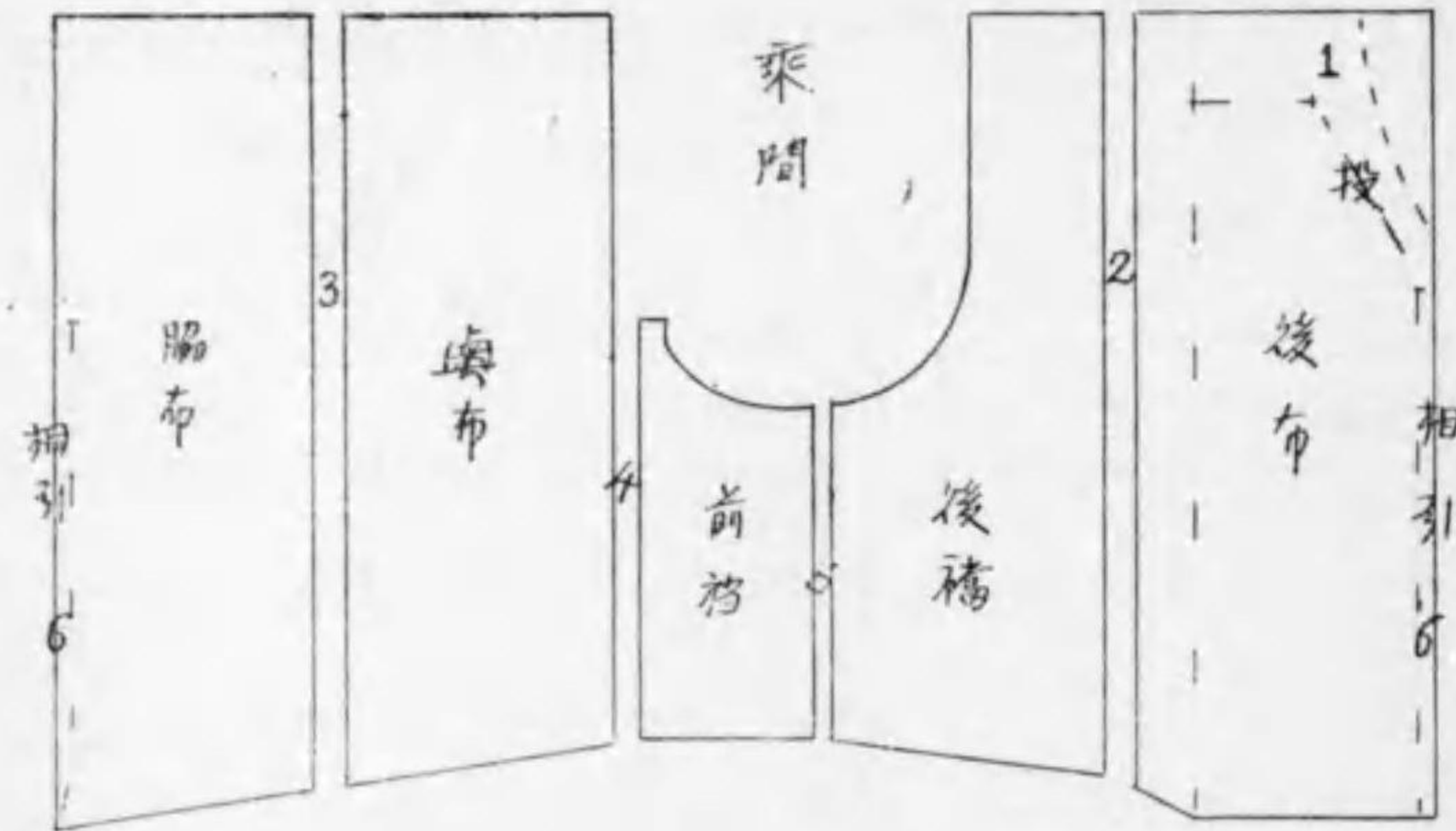
假=紐下81.5cm(2尺1寸5分)として

米 81.5+5+4+2=92.5cm

鯨 2丈1尺5寸+1寸3分+1寸+5分=

2尺4寸3分後布丈標入寸法

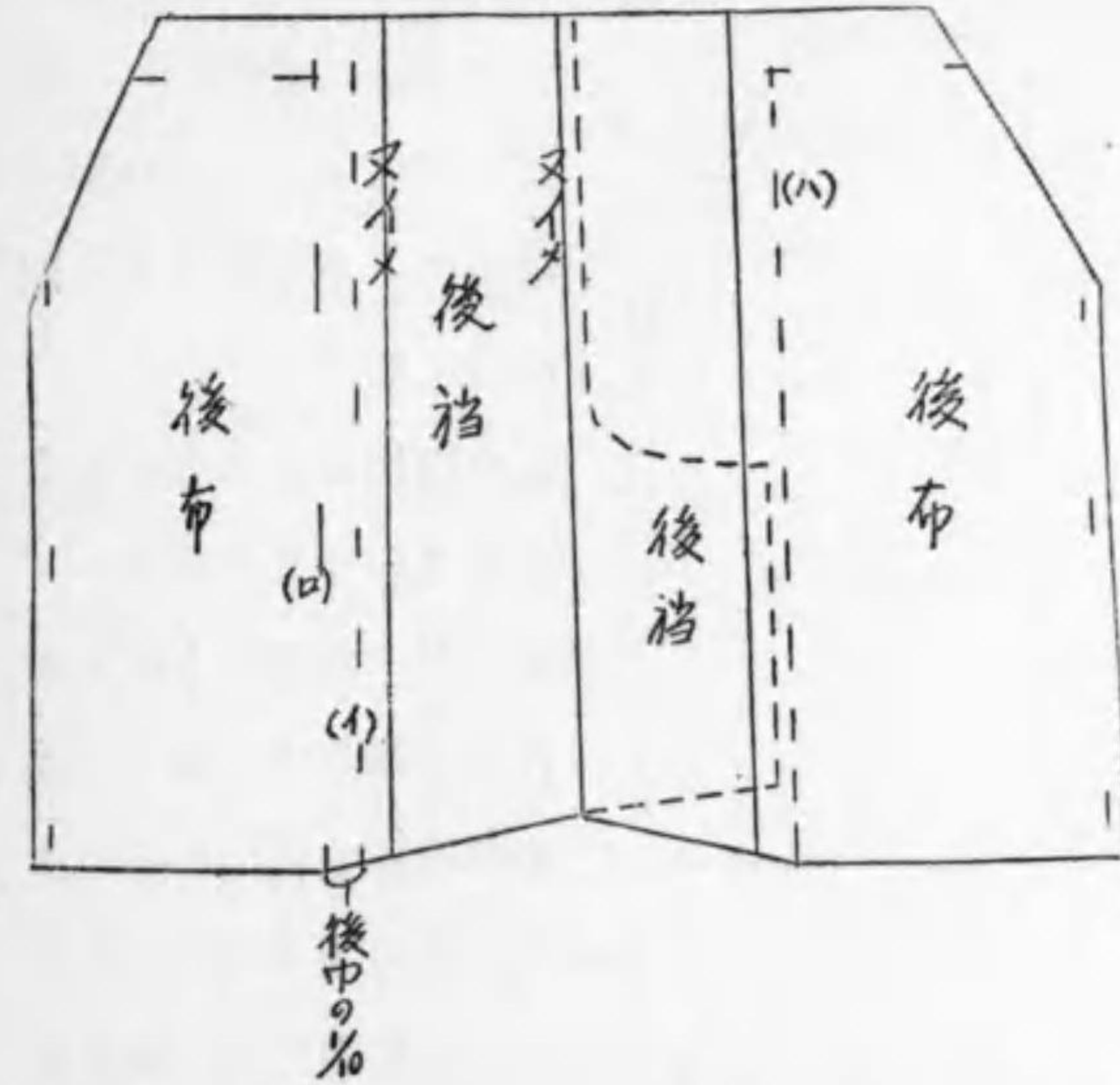
布縫合せ方及び順序



拾番馬乗袴仕立方順序

- 紐 紵 前紐は接ぎのある場合はなるべき縞目を合せて接ぎ芯入方は帯と同様ゆるめ如減にして入れ前中央35cm(9寸2分)程残して紵ける。
- 後紐は左右とも片方の端を7cm(1寸8分)残して紵る尙紐の折山は比較的損じ安き故初めは紵代を一方に片寄せ置き仕立替に際し折山を繰りかへる様になすを可とす。
- 投標入に示せる如く左右を三ッ折りになす針目大きく表に出る目は小さく布斜の所なれば伸びやすし伸びざる様注意して紵付く。
- 後布と後袴と縫合せ裾口10cm位(2寸5分)半返縫ひになし此の縫目は後袴に返す。
- 脇布と奥布と縫合せ折りは奥布に返す。
- 後袴と前袴を縫合せ折りは前袴に返す。

図一第



- 前袴と奥布 縫合せ折は前袴に返す
- 後相引と前脇布相引を縫合せ折は脇布に返す以上何れも裾口は後袴と縫合せたる通り裾口は半返になす。

蹴廻し紵 丈夫な紙を2cm(5分)幅に切り芯とす。初め1cm(2分5厘)折り又2分5厘折り三ッ折りとなして1cm(2分5厘)の針目にて表には小さく出して紵け附る。(綿布には芯を入れる要なし)

○乗間 左右脚の乗間を初め表より3mmの縫代にて次に裏に返して8mm位の縫代にて袋縫になす。

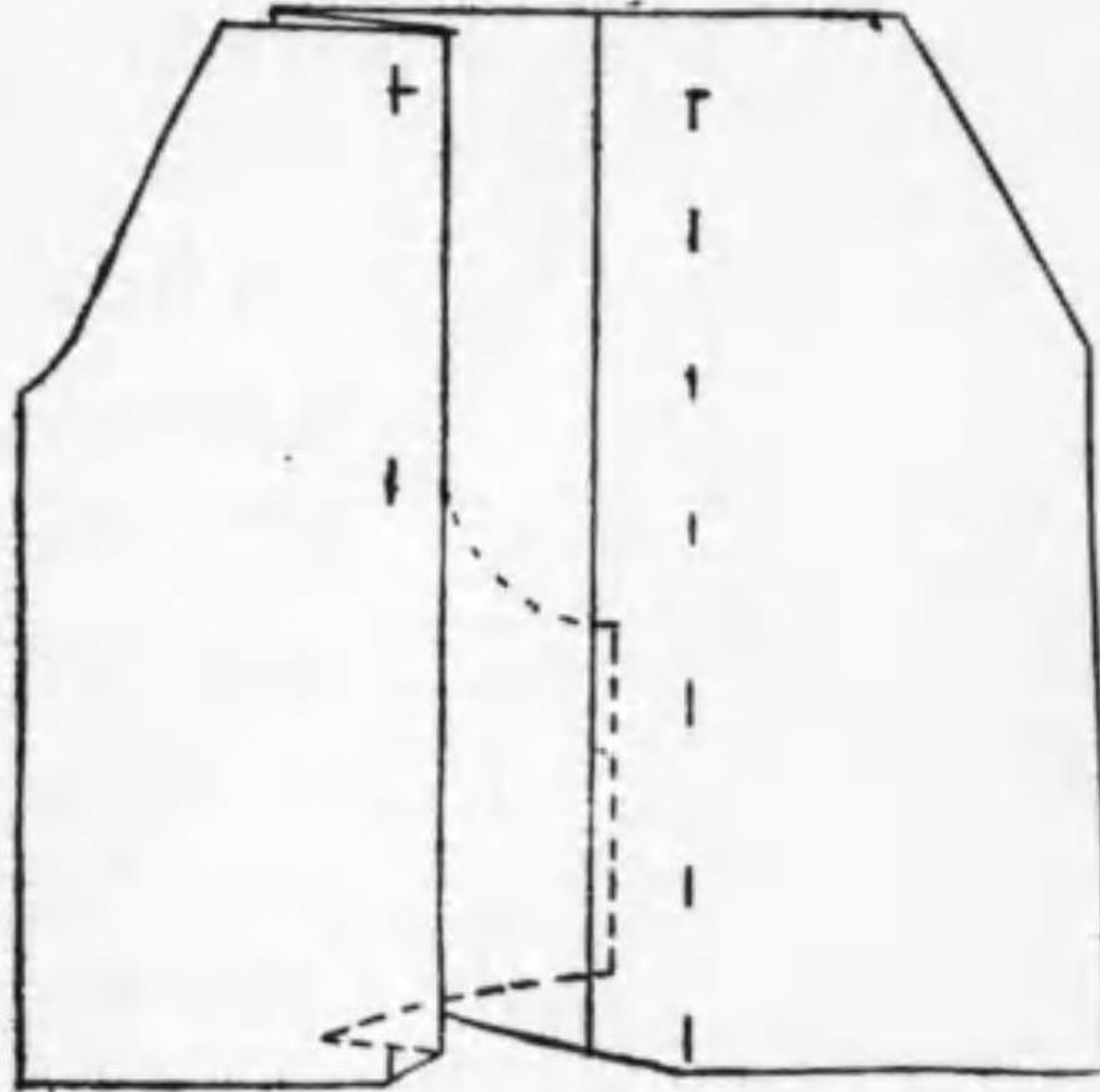
此の際乗間の縫目を包むために共切4cm(1寸)幅の布を手前に當て縫込みを包みにて端は向ふの縫目に紵け附く又真綿などにて縫目を包みその真綿の動かざる様千鳥掛けに綴ち附ることあり。

○後襲取り方

左圖に示せる如く前布を下に後布を上置き乗間の縫目は右脚に折り其の折り通り裾口まで真直に折る。

上圖の如く右脚は標通(ハ)点を折り左脚は(ロ)点より後幅の $\frac{1}{6}$ 後

図一第

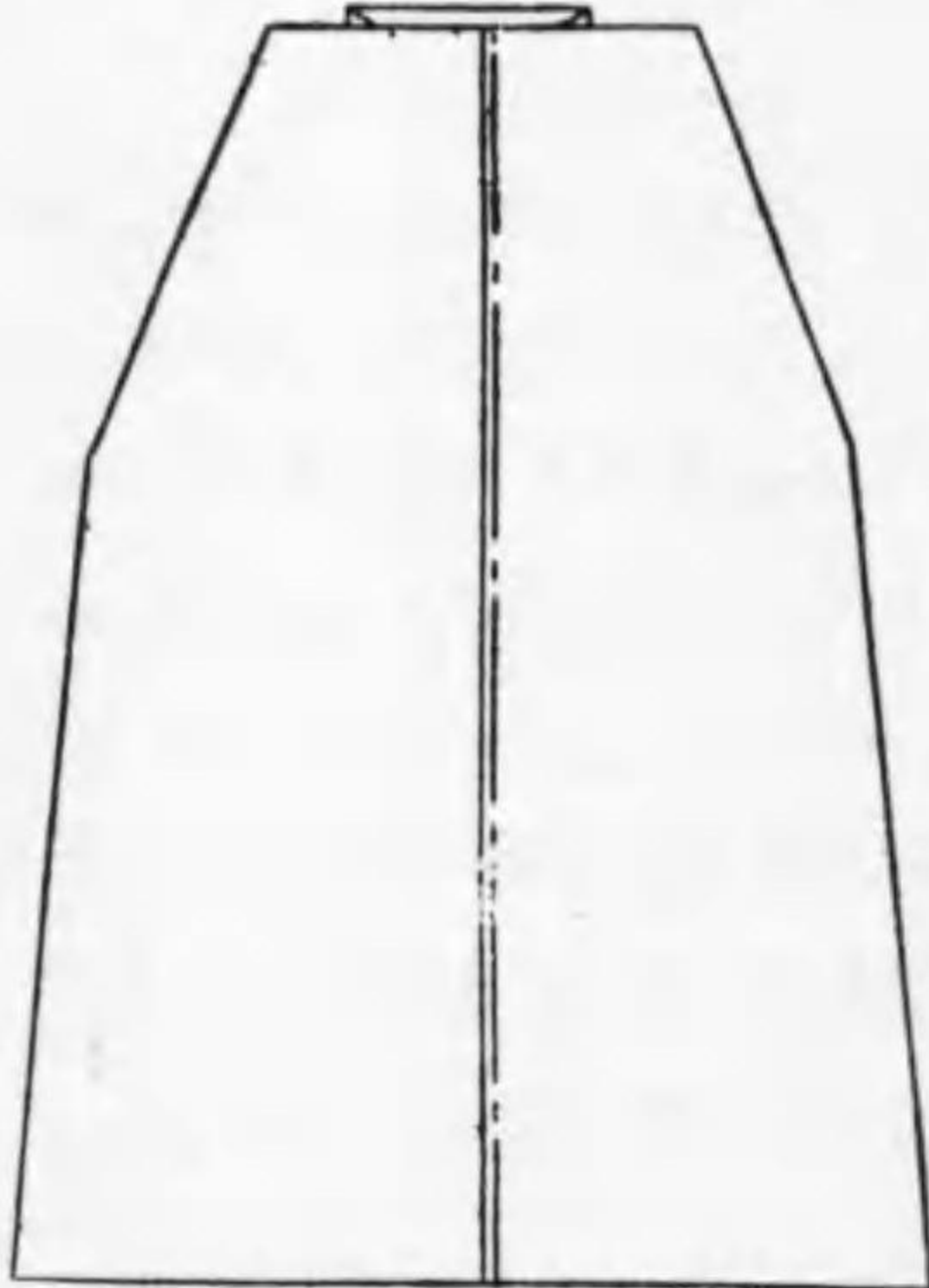


襠に寄りたる方即ち(イ) 点を折りて右脚の(ハ) 点を折りたるを(ロ) 点に乗せ 後幅の $\frac{1}{10}$ を重ねて第3圖 の如く袷す。

圖中點線は中にて袷の疊 みたるを示せるなり。

○前 襷 後襷取り終りた れば前布を上になす。此 の際襠は右脚にある。次

図三第



に前乗間の縫目より左右の布を 2枚共合せ前奥布の方へ襠襷の 深さ後幅の $\frac{3}{4}$ より1.5cm(4分)減 じたる寸法を中襷の折山と定め 左脚を上重ねて乗間の縫目と 合せて二ツに折り中襷の折山を 縞目真直に裾口まで後襷と同様 平襷をなす。

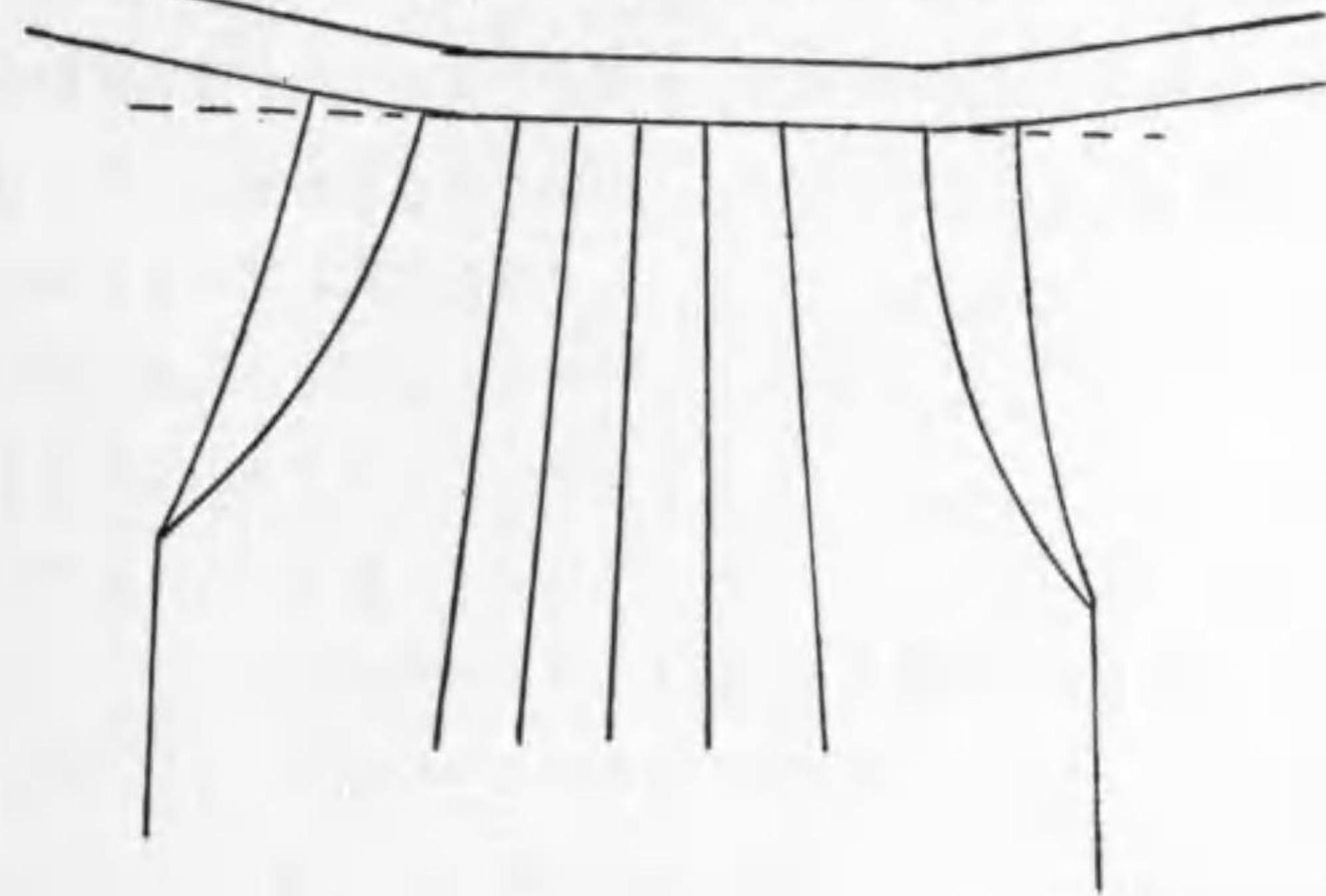
後と前との中央を重ね揃へて紐 下を度りて標なしおく。

○前紐縫附方

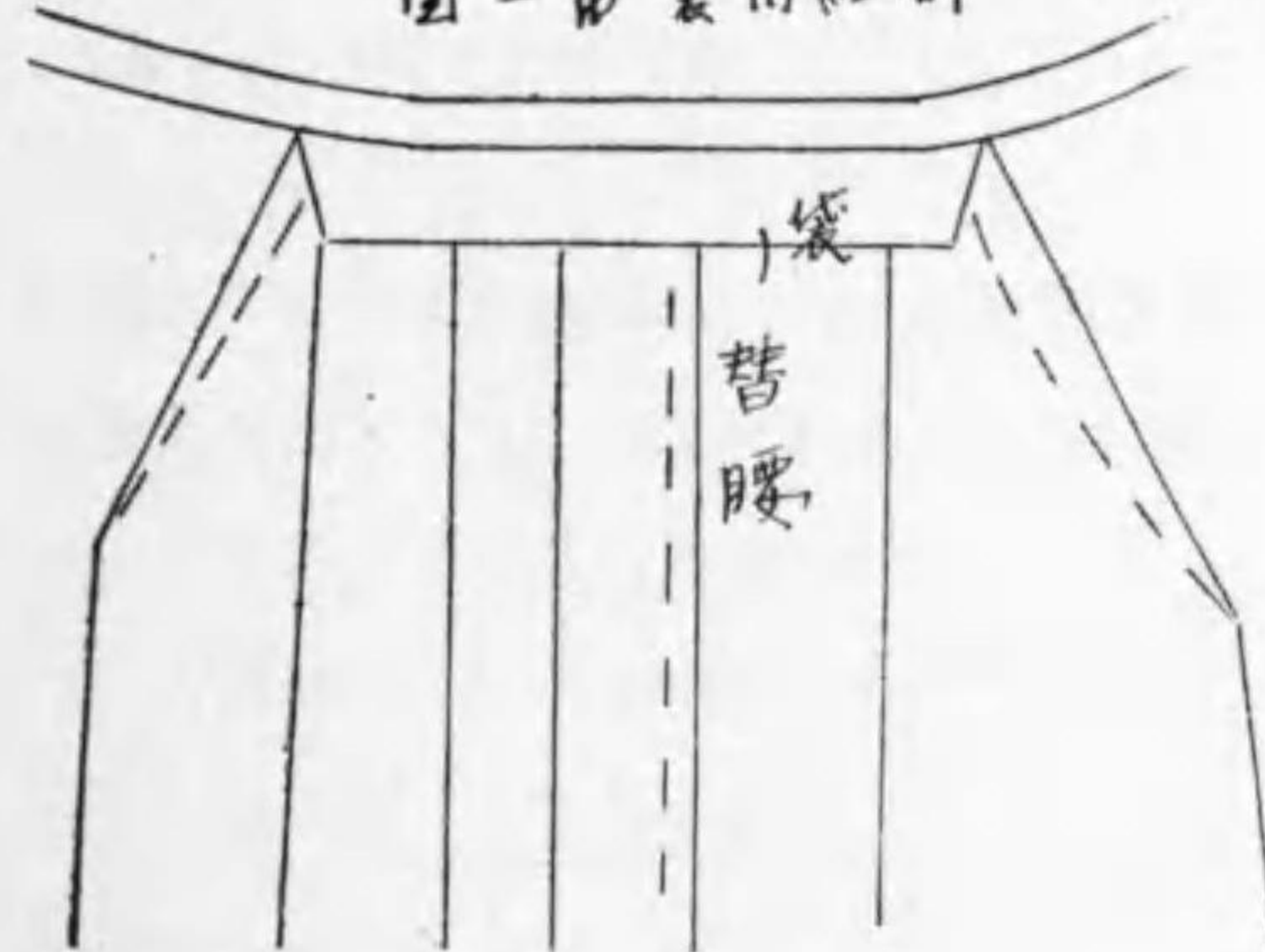
前紐附は紐下附標を襠襷より襠襷まで真直に襠襷幅は3mm程上へ 上げて標付け紐の中央を前腰の中央に當て尙其上に美濃紙2枚又 半紙にてもよしよくもみ紐幅の2倍に折り同時に半返縫にて縫附

る此の際返し針の針目は襷の折山を外さぬ様注意して縫ふ。

図一第方附紐前



図二第裏附紐前

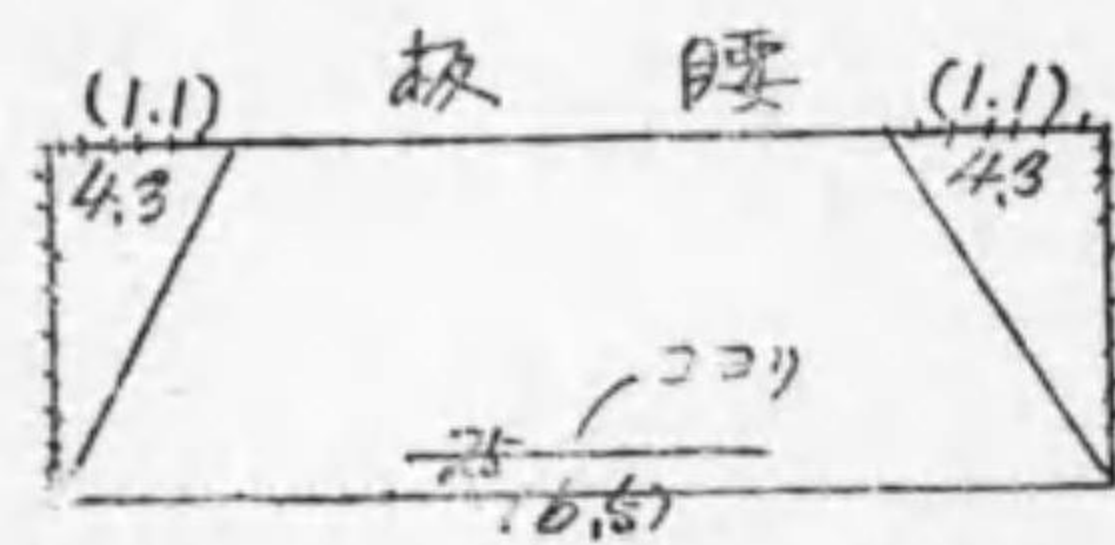


襷の重なり少なき 所は襷幅丈の布切 を當て厚さを平均 ならしめ紐幅に合 せ縫込みを折り返 し此の縫込みを替 腰切にて包み第2 圖の如く紐附の縫 込みに縦ちつけて 紐裏を衽け附る。

かくすれば他日腰板を取替へる際他の部分と褪色の度を等しくし 且つ紛失の憂もなく便利なり。

○次に上下の寄襷を取り左右終りたれば裾より10cm(2寸5分)上紐附より10cm(2寸5分)の所に千鳥掛の飾り襷をなし中央には一文字の襷をなす。

(注意) 襷取りは1の襷及び3の襷山を定めて2の襷は其の間を襷山とするが普通なれどこの裁方による時は脇布と奥布と縫

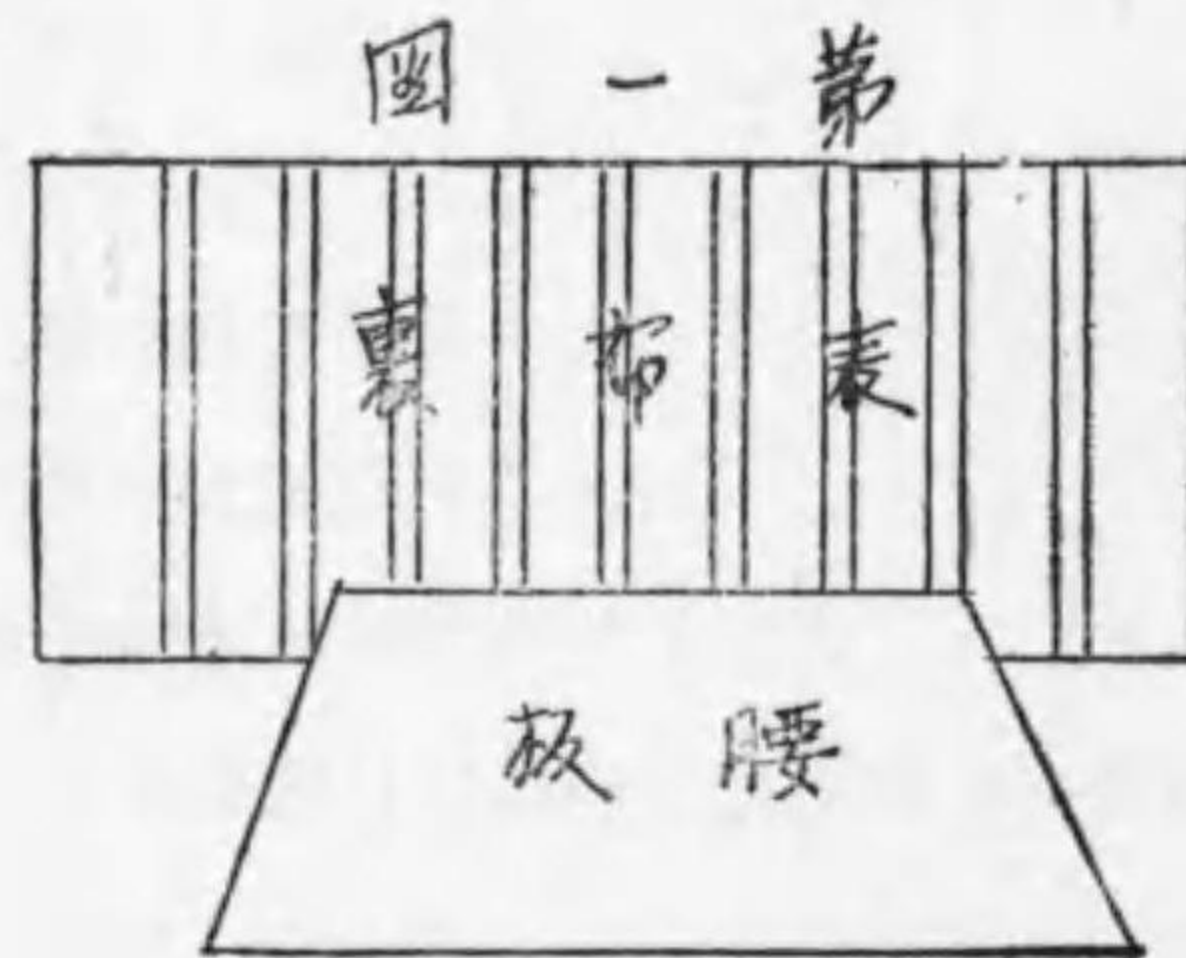


合せ目が表面に来たるを以て之を外面に表はさる様脇布奥布と縫合せ目より脇布へ1cm寄りたる所を2の襷山となすを可とす

- 笹襷 前述女袴の割出し及び折り方と同様なれば省く。
- 腰板の切方 腰板には美濃紙又は半紙の15枚張位の厚紙を用ふ。腰板切方圖に示せる如く普通寸法割出に依りて下の幅25cm(6寸5分)とし高さは下幅の $\frac{1}{2}$ に3mm(1分)乃至6mm(2分)を加へたる即ち8.7cm(2寸3分)とし上の左右に於て腰幅の $\frac{1}{2}$ を斜に裁ち切る。

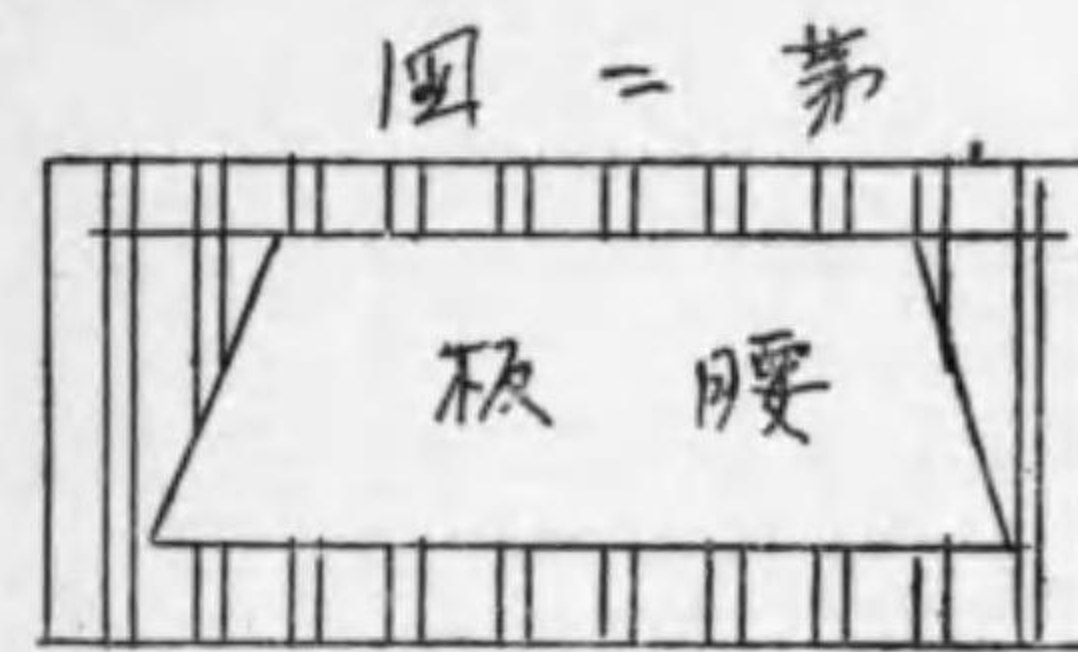
○前紐縫附

○表腰貼り方及裏腰布附菱布裏紙貼り方 裏腰布及附菱布とも布の端3mm位に糊をつけて裏打の紙に貼り付ける。裏打の紙は大抵美



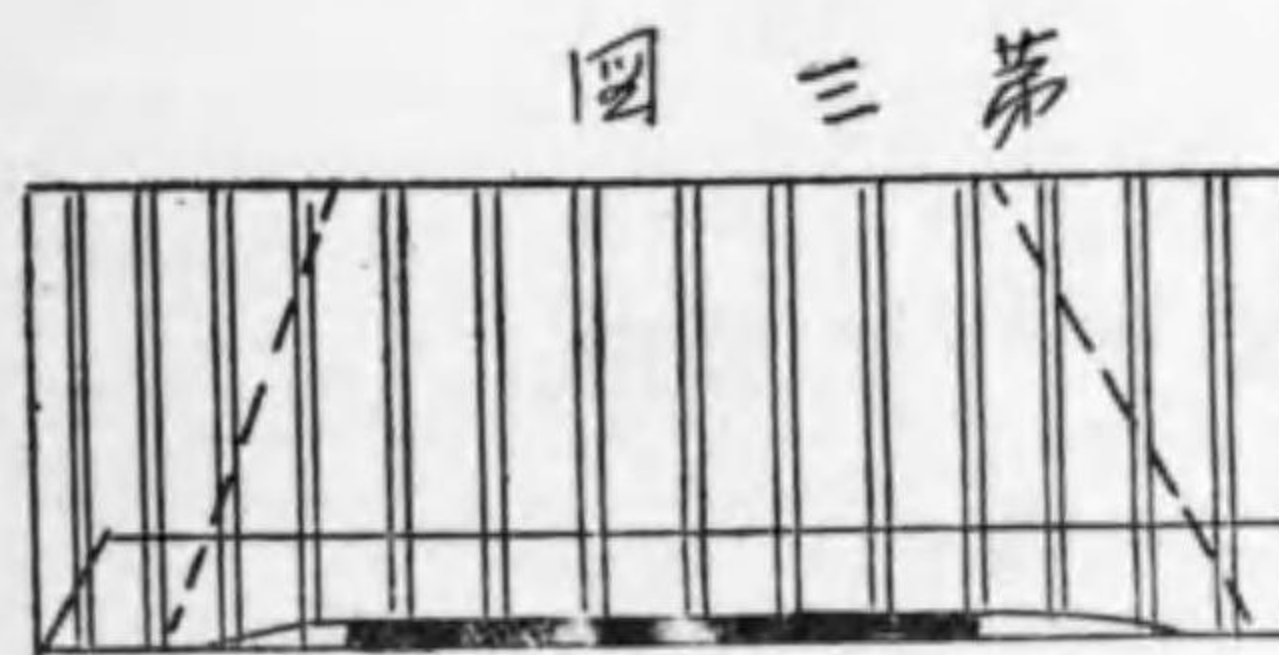
濃紙を用ひまづ紙をよくもみ皺を伸ばして後貼る。

○表腰の貼方 第1圖に示せる如く腰板の上端1cm程糊をつけて表腰布裏の端に貼る。次に第2圖の如くして腰板の下腰幅の方先きと反

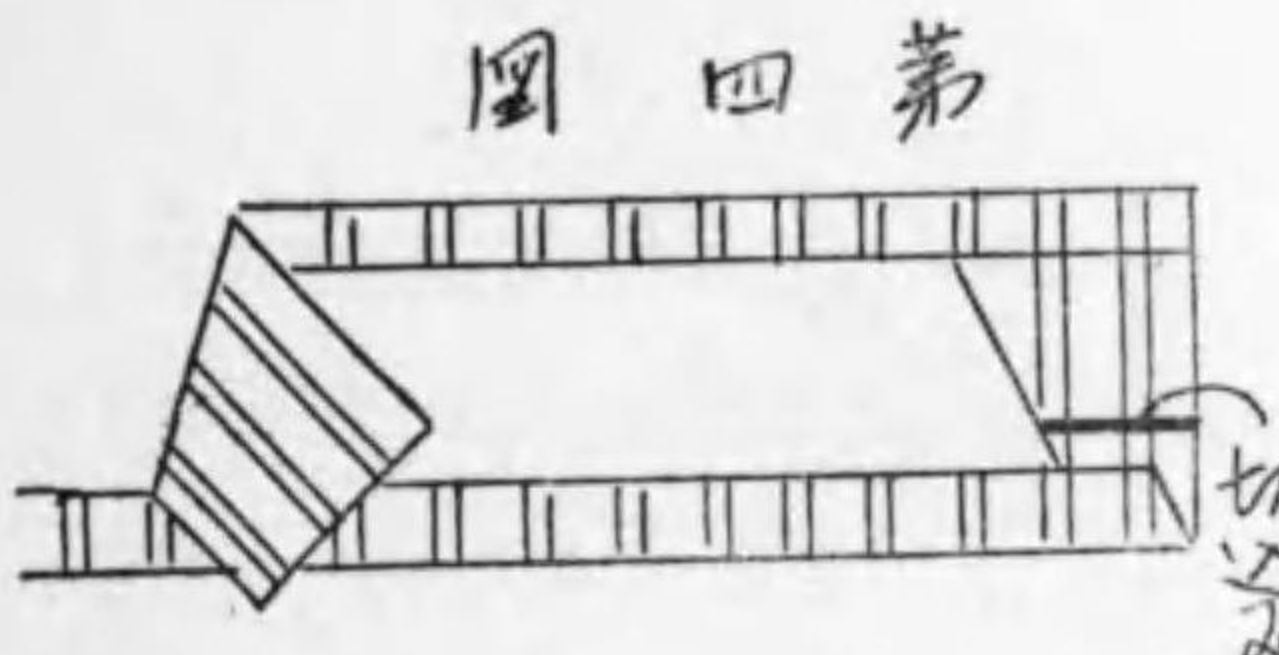


對の側に糊をつけて一旦はよく拭ひ表の布縞目を正しく表布を貼り付ける。

○第三圖の如く一旦表腰板腰幅の所へ貼附た表布を腰板の中

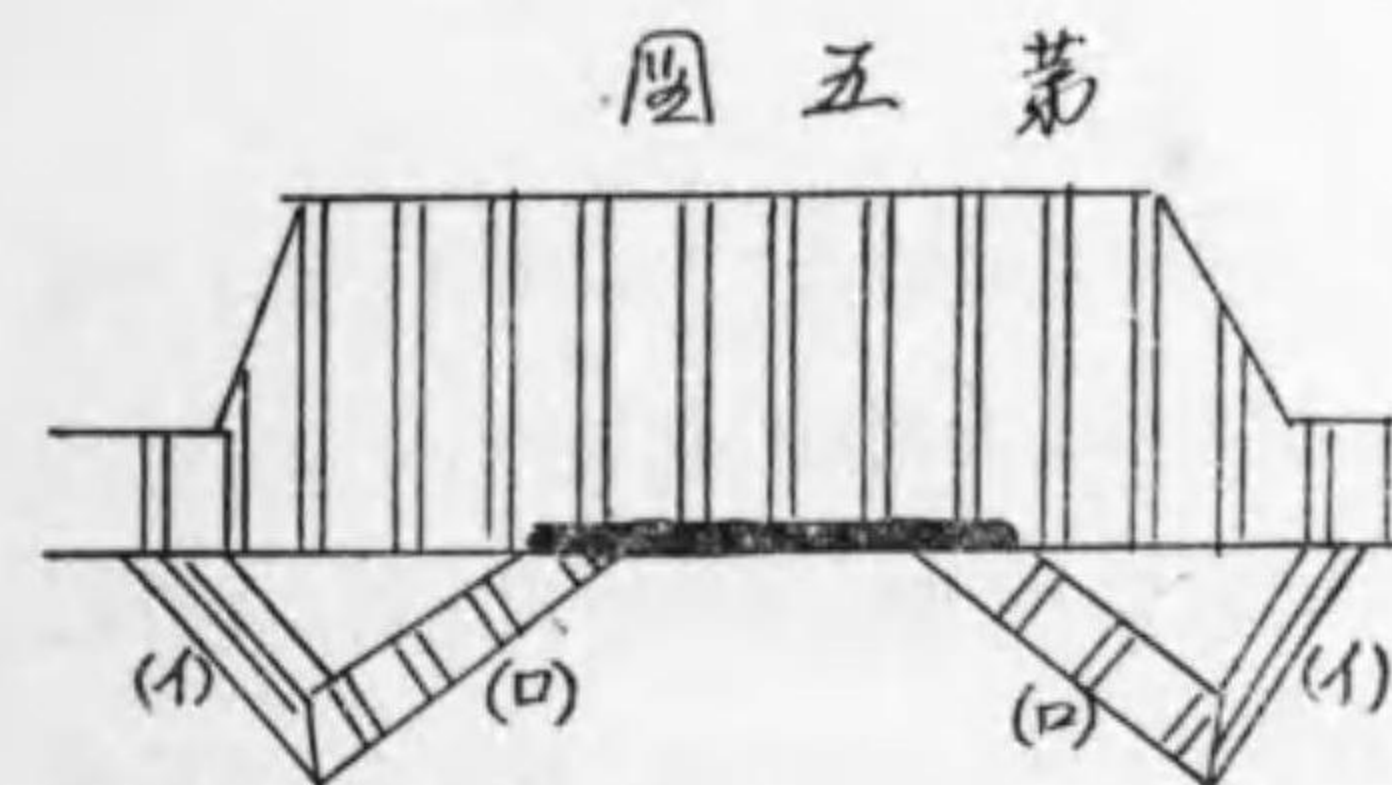


央 $\frac{1}{2}$ の間小燃りの入る間折り返して爪先きにてよく筋をつけ紙1cm位の幅の小よりを作り其の端に當て第四圖の如く裏腰板に貼り付けて切込みを入れ横の表布を裏腰板に貼り付ける。



○次に第五圖の如く附菱切を初め豎に折り次に斜の

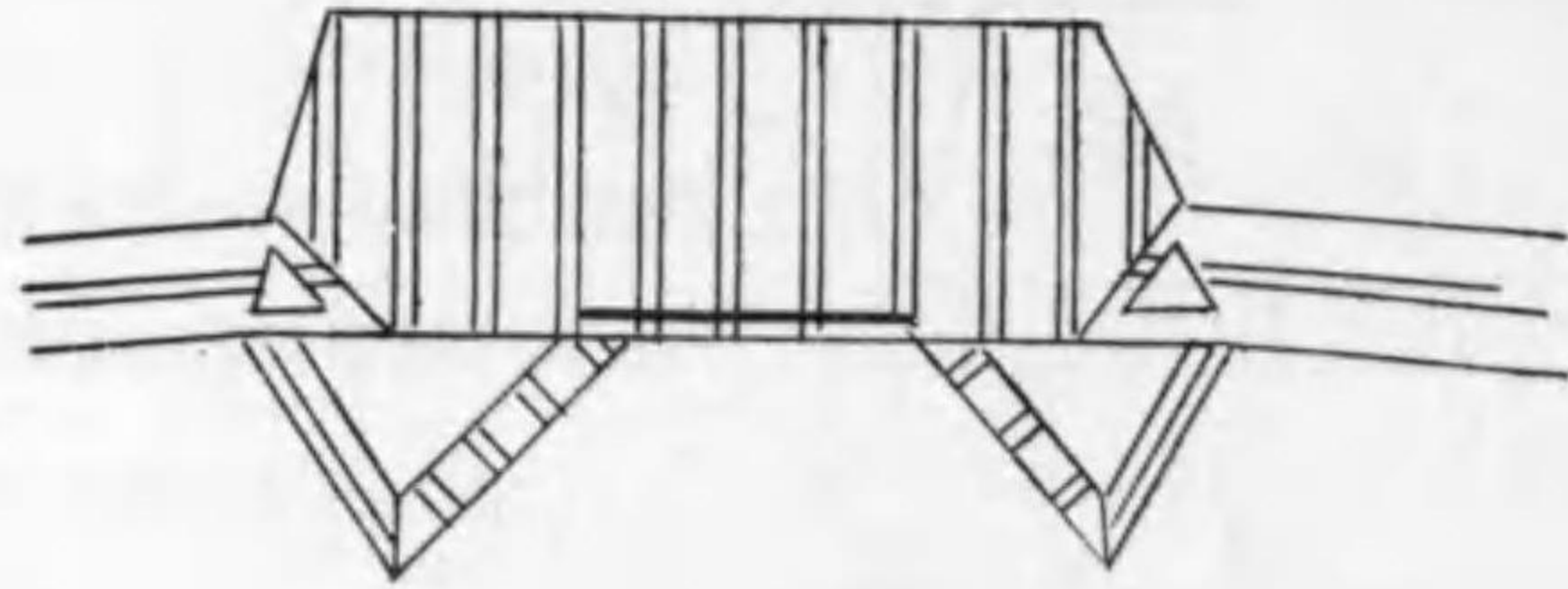
所を折りて腰幅の兩端に寸法の通り裏に貼り付ける。



○第六圖の如く腰板の斜の所に後紐の端を1cm輪の方を切り込

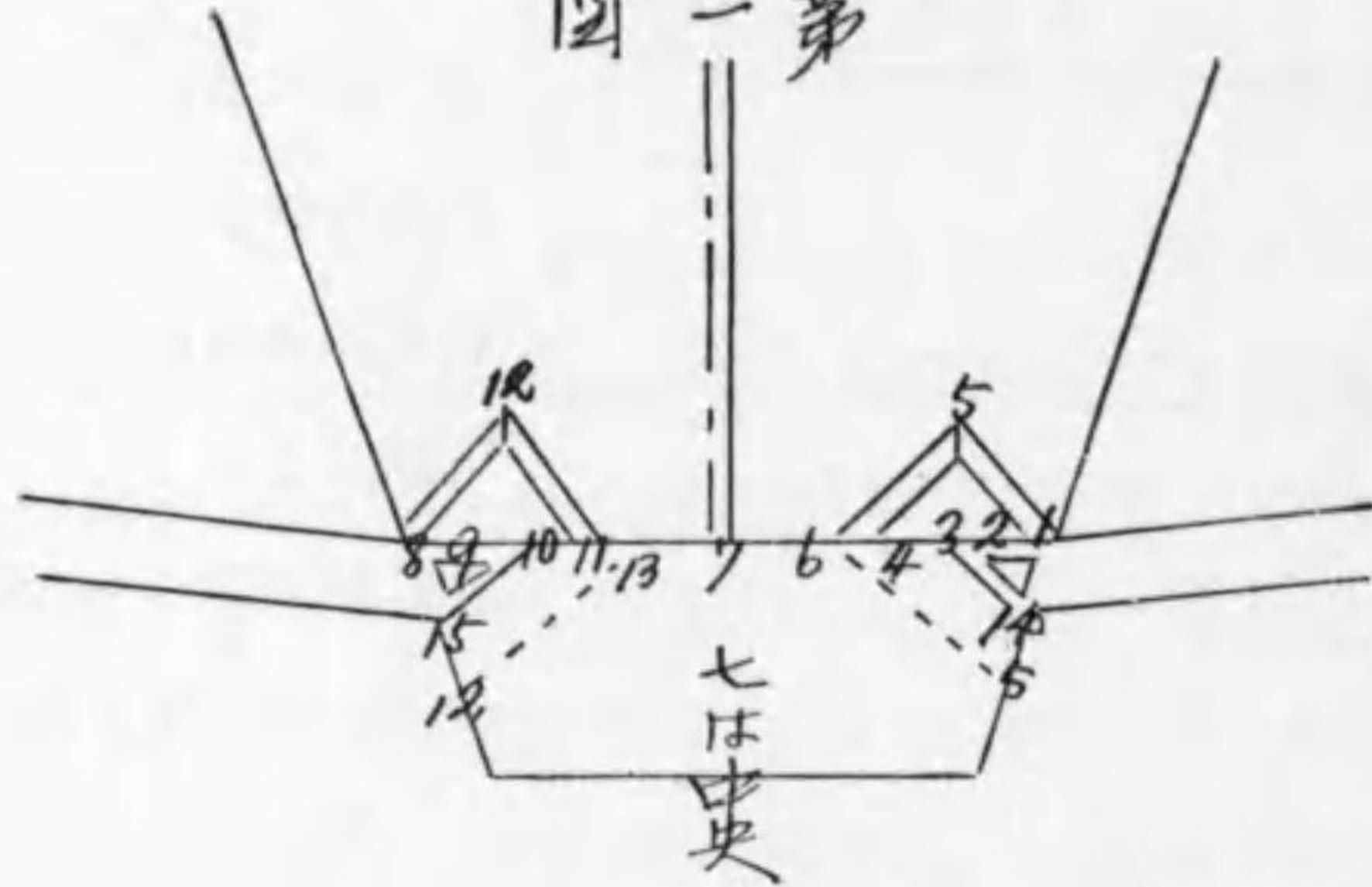
みて宛て中にて丈夫に留め表は圖の如く三角に糸を拭けて真糸にて残し置きし紐の端を締める。

圖六第



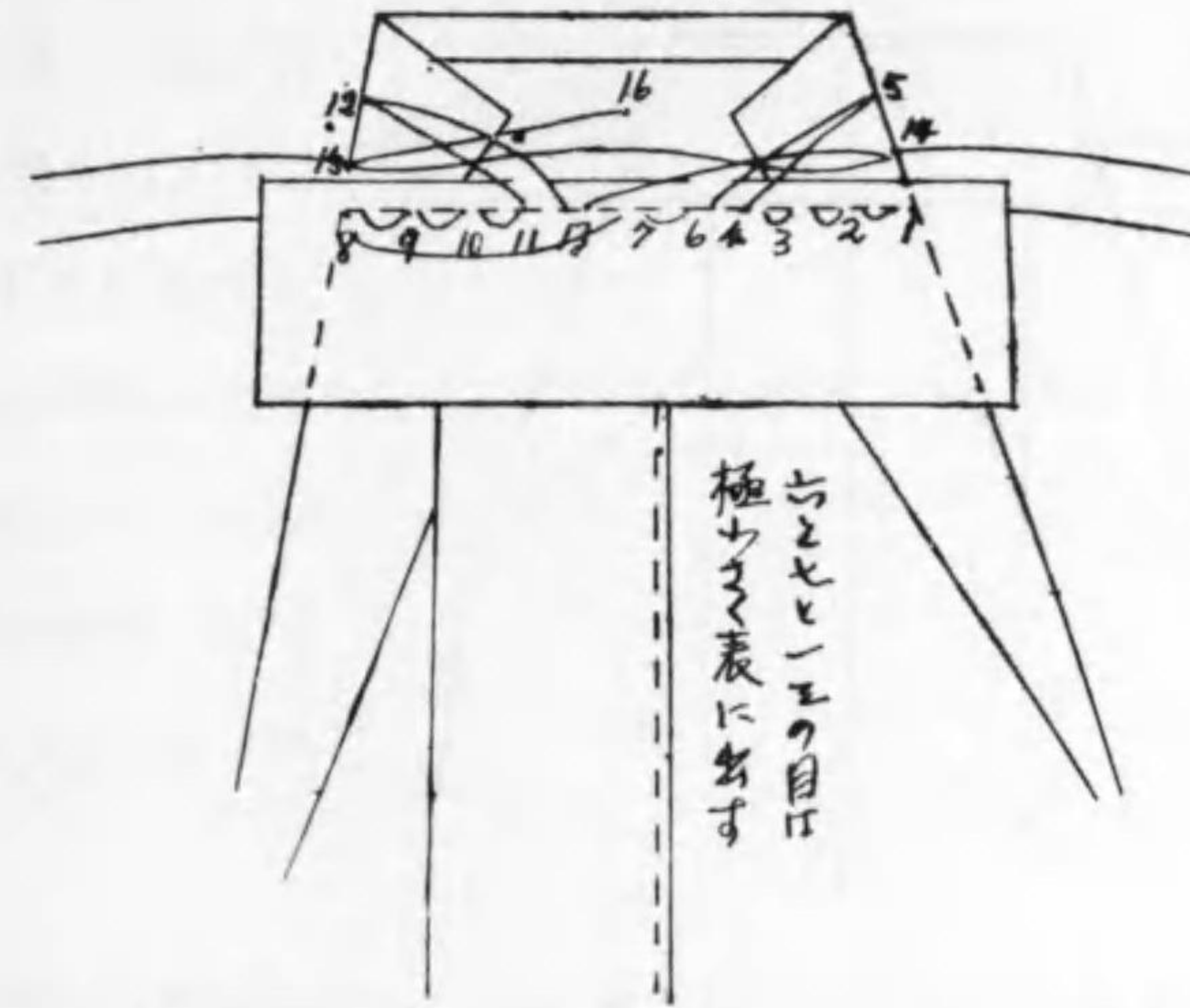
序順方振のお付板腰

圖一第



表腰を第一圖の如く丈標と合せ中心に待針し次に後布を引き加減に附菱の所に針を打ち第二圖の如く番號順に糸を掛く。
 但し掛糸は長さ 266cm (7 尺) を 2 本に撚り合せて用ふ腰の中央七と其の兩方六と十三の 3 針は表に出し其他は表に表はさざる様縫附る縫附終らば第三圖の如く裏腰を兩端及び上 2mm (5 厘) 控へソクイにて貼り附ける。

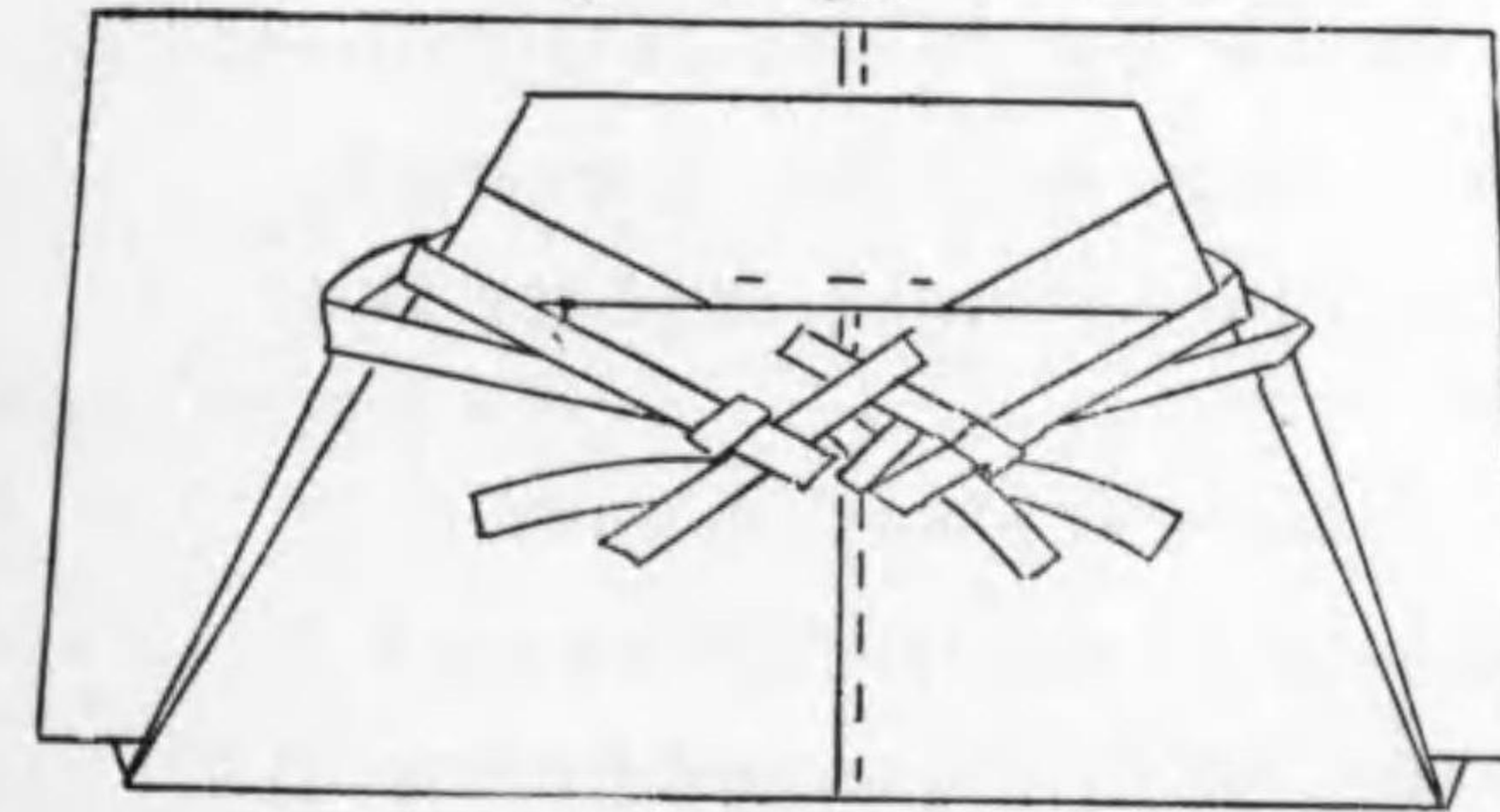
圖二第



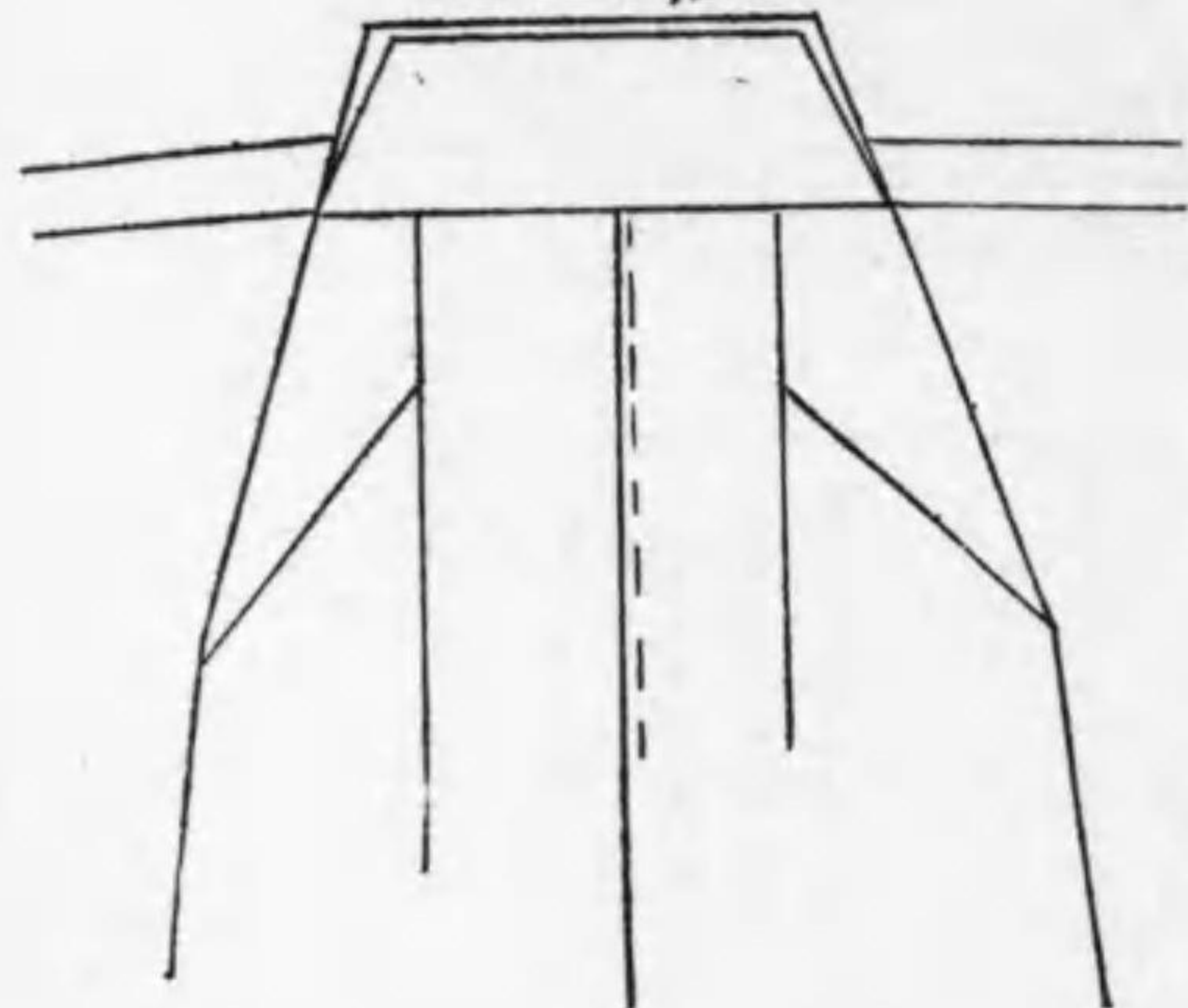
仕立上

袴地は普通衣服の地質より厚き故に従つて仕上困難なりアイロン下に地厚き風呂敷大の布を當て地質に依りては霧を吹き緩やかにアイロン掛をなす。
 かくて仕上終らば圖の如く疊み紐は前紐を四ツ折り疊み後紐にて

方み疊上立仕

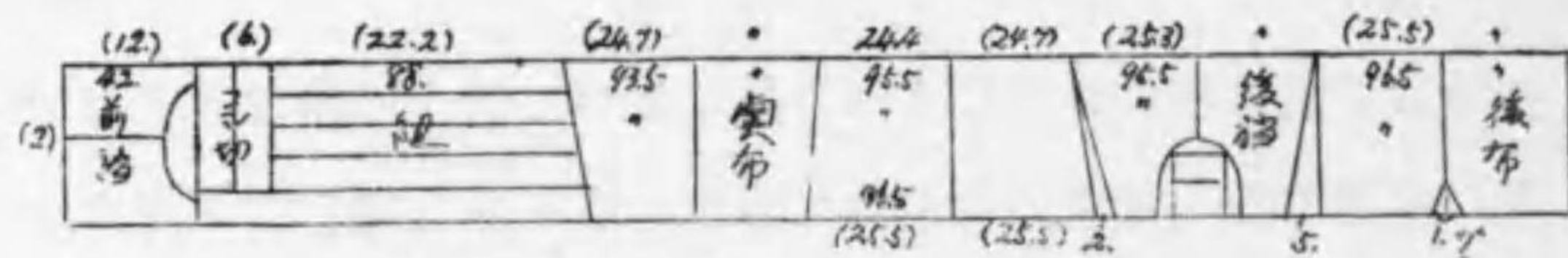


図三第



圖の如く石疊に結ぶ
又一法には前後よく揃へて折り畳み中央美濃紙にて幅3cm(8分)両端10cm(2寸5分)入りたる所2cm(5分)の幅の紙にて巻き封じ壓をかく。

◎並幅の布長さ910.5cm(2丈4尺2分)を以て十番馬乗袴の裁方



{用布-(前襠+腰切+紐切)+形}÷8=後布丈
 鯨 {2丈4尺2分-(1尺2寸+6寸+2尺2寸2分)+3寸8分}÷8分=2尺5寸5分
 米 {9105cm-(42+23+88cm)+14.5cm}÷8=96.5cm
 後布丈×8-裁交+紐丈+腰切+前襠=總用布
 鯨 2尺5寸5分×8-3寸8分+2尺2寸2分+6寸+1尺2寸=2丈4尺2分
 米 910.5cm-14.5+88+23+42=968cm

(1)の裁方と異なることなけれど只切上多きのみ

◎並幅1023.5cm(2丈7尺2寸)を以て拾布遺馬乗袴の裁方

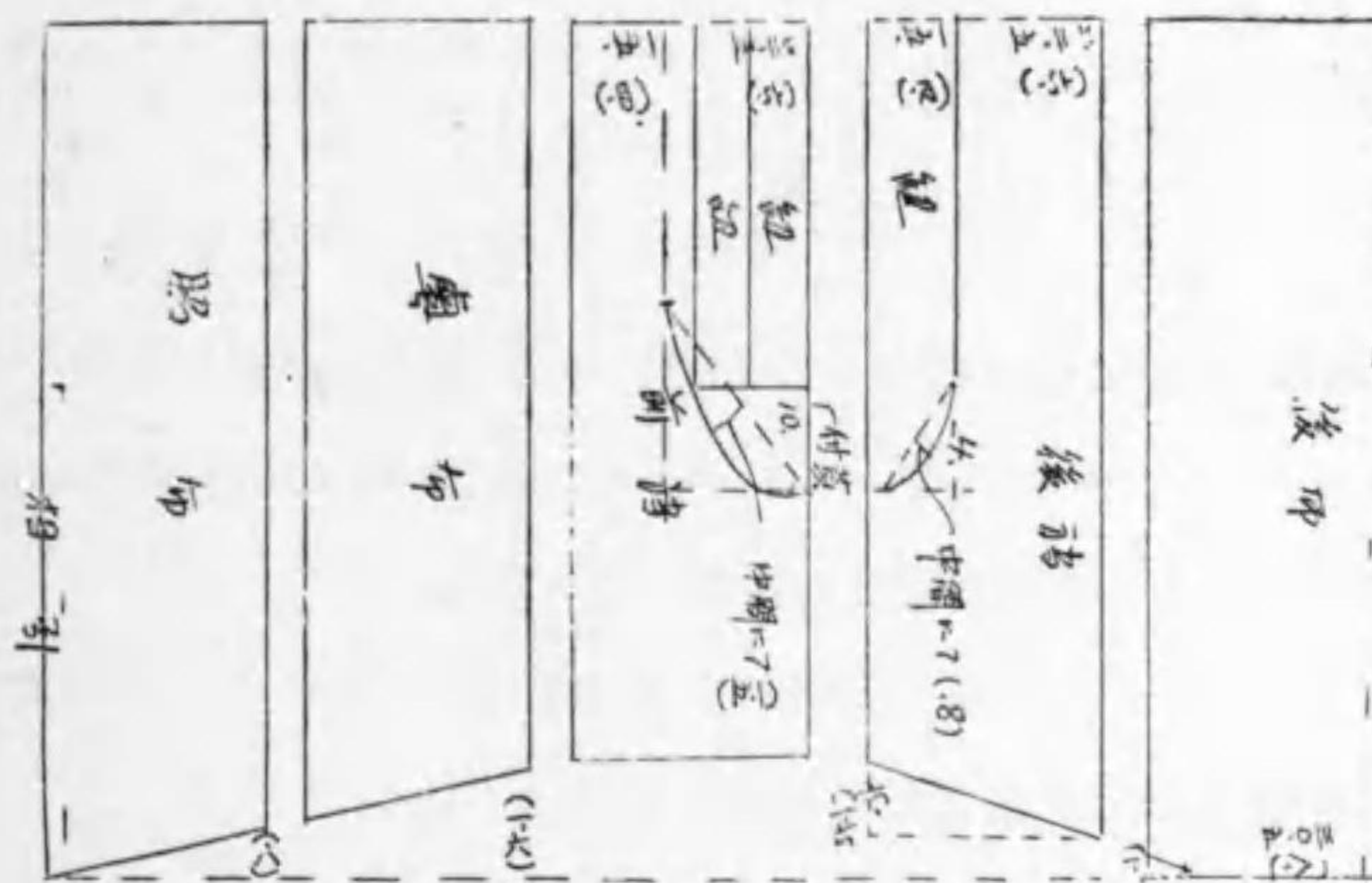


積方

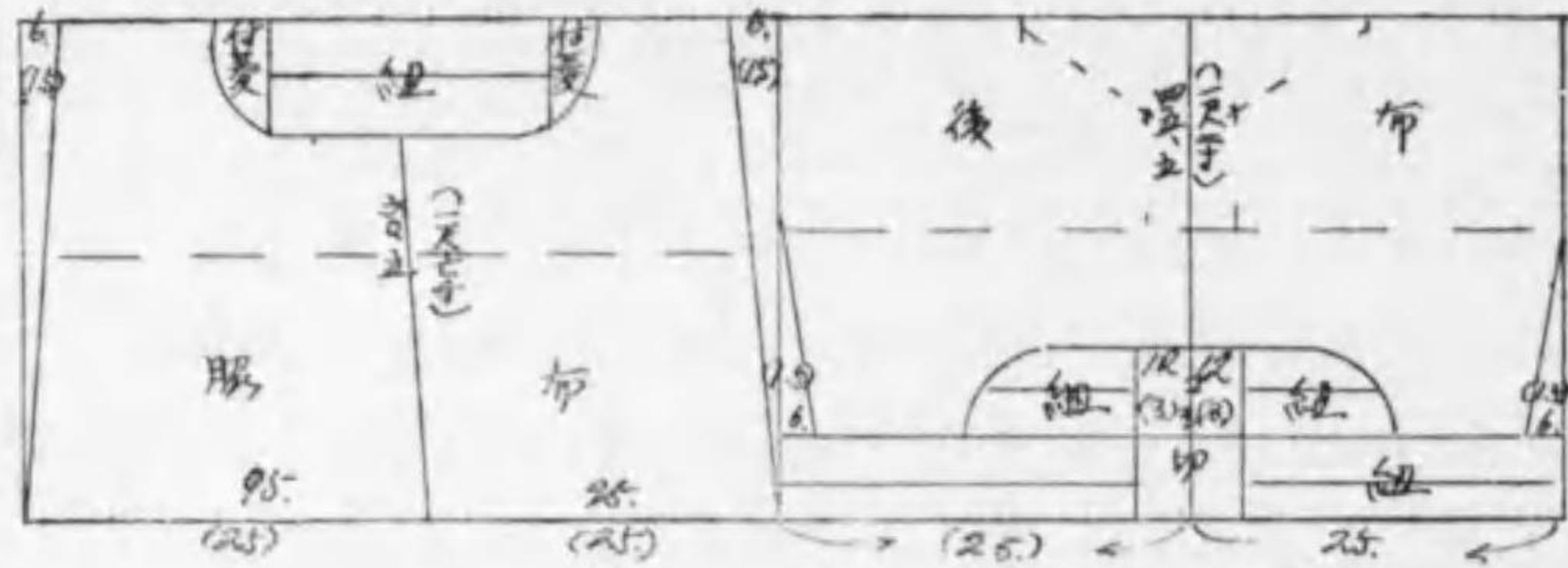
鯨 2尺5寸3分×10-7寸+2尺6寸=2丈7尺2寸用布
 後布丈 形 紐+腰切
 (2丈7尺2寸-2尺6寸-7分)÷10=後布丈
 用布 形 布數
 米 95cm×10-26.5cm+100cm=1023.5cm用布
 (1023.5-100-26.5cm)÷10=95cm

右拾布遺袴は布地長き時に用ゆる裁方にして拾番馬乗袴に比し襷深し。

分解裁方



二幅物380cm (1丈) の布を以て馬乗袴の裁方



後布丈×4=用布 96cm×4=380cm 鯨 2尺5寸×4=1丈

第三節 袴

袴は現今あまり多く用ひざれど其の大意を左に。

裁方 單袴と同様なれど裾にて表を3mm裏に返す故に表布は裏よりも返り分の2倍を長くす。

裏の裁方は表の裁方と同様只紐切を取らするのみ。

仕立方

○まづ表裏共單袴と同様。後布丈腰幅相引投と標入し投は表布標を3mm外を裏布は3mm内側を合せて縫ふ折は裏に返し表布3mm裏へ返して候す。

○裾口の標も投と同様表を3mm外裏は3mm内を縫合せ折は裏に返す。後布後襠前襠脇布奥布とも皆裾合せなし後布は後襠にてはさみ脇布は奥布にて奥布は前襠にて後襠は前襠にて相引きは脇布にて何れもはさみて四ッ縫になす。最後に前襠丈表裏別々に縫ひ乘間を左脚にてはさみ四ッ縫ひにし襠の上丈三ッ縫にして裏にて新ける前襠襷も相引を四ッ縫になし終りたらば相引上を留めて其糸にて襷襷割出し標を表布は3mm外を裏布は3mm内を合せて縫ふ。

○襲取方其の腰の作方紐縫付方法單袴と變ることなし。故にここには省く。

第十五章 小袖

第一節 普通長着二枚重ねの寸法下着の詰方模様合せ模様の種類

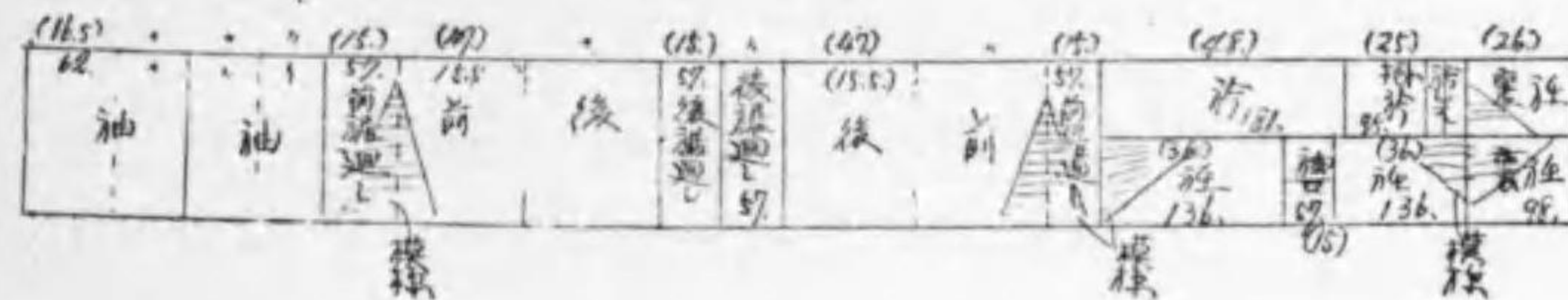
○小袖とは表裏共に絹布を以て仕立たる長着の稱にして女物小袖には禮服に用ふる紋附を通常服に用ふる縞物友仙模様物等あり。而してこれ等には又二枚重三枚重等の種類あり紋附には裾模様、袖模様及び肩模様ありて種類多し。

○紋附裾廻しは普通表と共布を用ふるなれど略服等別布を用ふる場合も多し。

裁方積方

1. 裁切寸法 普通長着裁切寸法と同じ。

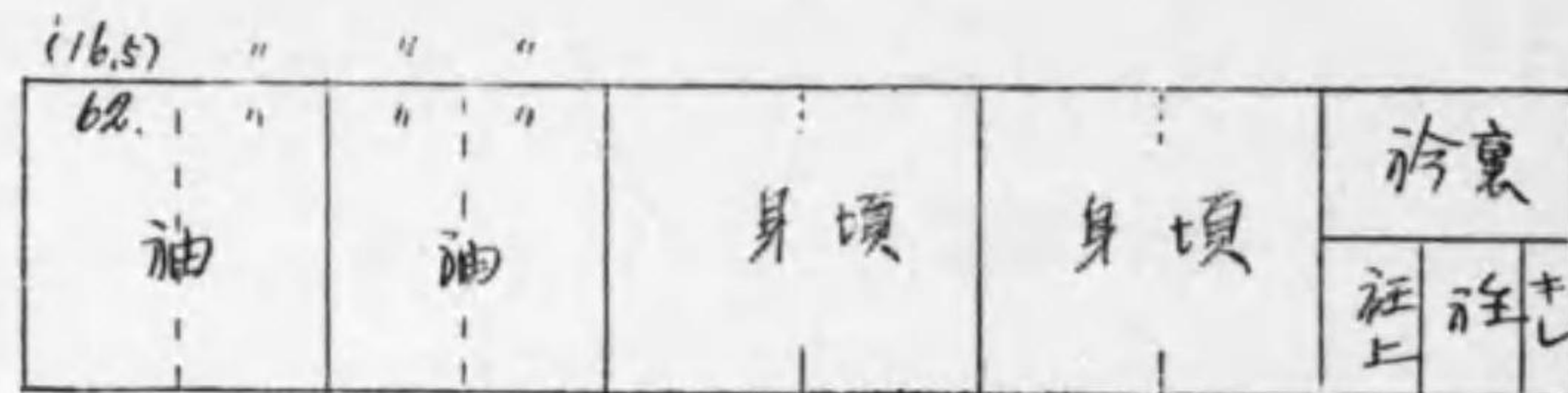
並幅1523cm(4丈3寸)の布を以て裾模様共裾廻し小袖の裁方



積方

鯨 1尺6寸5分×4+4尺1寸×4+1尺5寸×4+3尺6寸
 袖丈 身丈 裾廻丈 衽丈
 ×2+1尺5寸+2尺6寸=4丈3寸用布
 袖口 裏衽丈
 米 62cm×4+155×4+57×4+136
 ×2+57+98=1523cm用布

並幅807cm(210cm)の布を以て胴裏の裁方

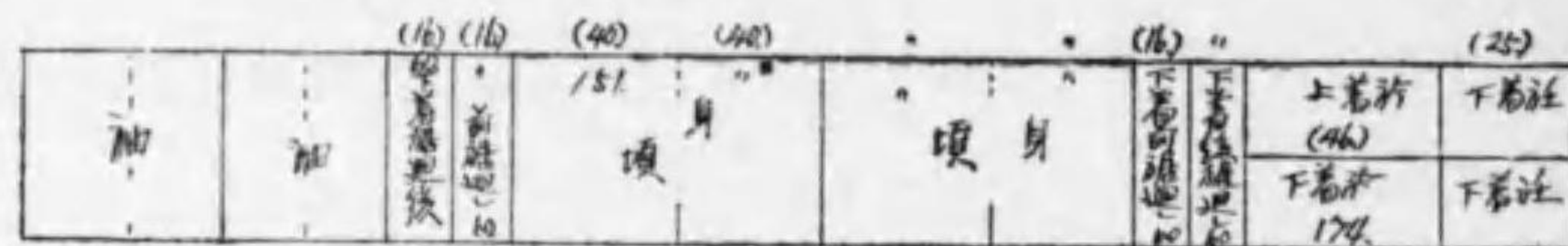


鯨 (4尺1寸-1尺5寸+2寸+1尺6寸5分) × 4 + (4尺7寸
表身丈 裾廻 衿及胴接代 袖丈 表衿丈
-6寸5分 × 2) + 2寸 = 2丈1尺4寸
衿先 衿接代 總用布

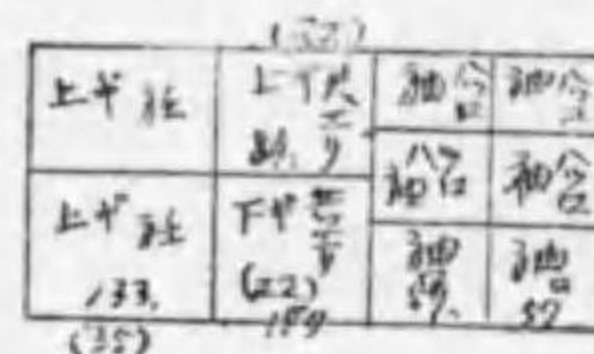
米 (155-57+8+62cm) × 4 + (177-25cm × 2) + 8 = 807cm

並幅1692cm(450cm)の布を以て二枚重ねの裁方

但し裾廻し別にて下着胴拔とす。



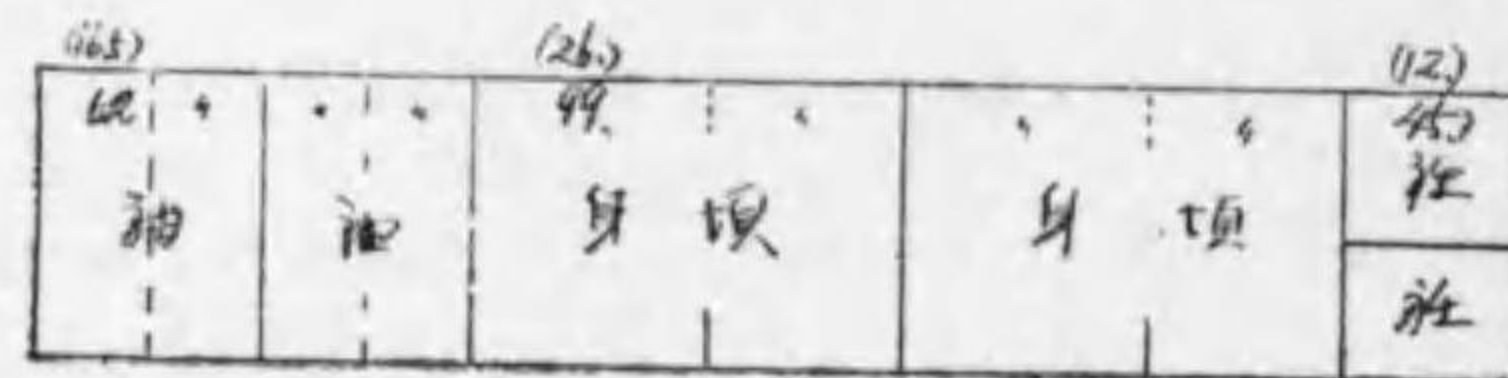
積方



鯨 (1尺6寸5分+4尺+1尺6寸) × 4 + 3尺5寸+4尺
袖丈 身丈 下着裾廻 上着衿丈 衿丈
6寸+2尺5寸+2寸2分+(1尺5寸×2) = 4丈4尺2寸
下着衿丈 掛衿丈 袖口 總用布

米 (62+151+60cm) × 4 + 174+133+84+95cm
+ (57cm × 2) = 1692cm

並幅690cm(1丈8尺2寸)の布を以て同下着胴裏の裁方

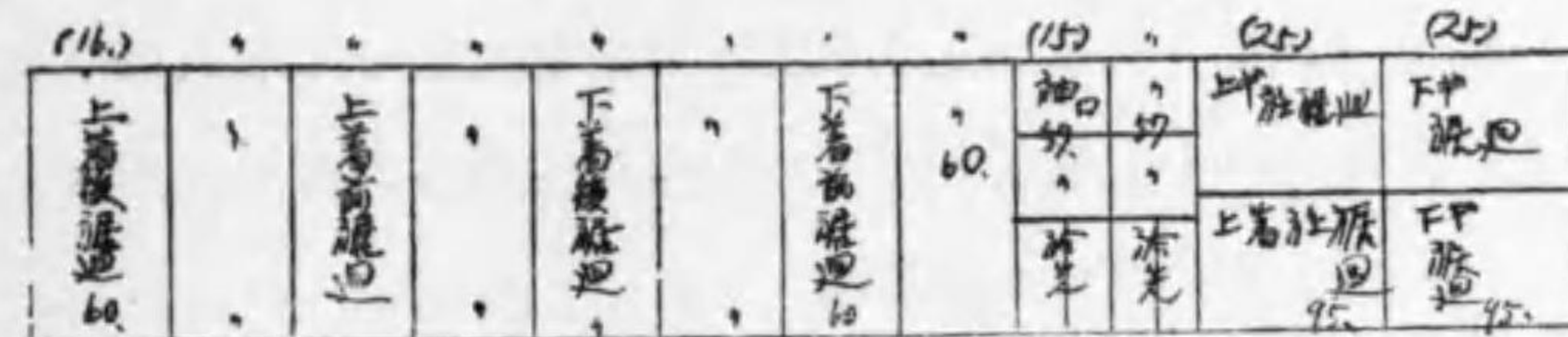


積方

鯨 (4尺-1尺6寸+2寸+1尺6寸5分) × 4 + 3尺5寸-2尺5寸
表身丈 表裾廻し丈 縫代 袖丈 表衿丈 下着裾廻し丈
+2寸 = 1丈8尺2寸
縫代

米 (651-60+8+62cm) × 4 + 133-95+8 = 690cm

並幅785cm(2丈1尺)の布を以て同裾廻二枚の裁方

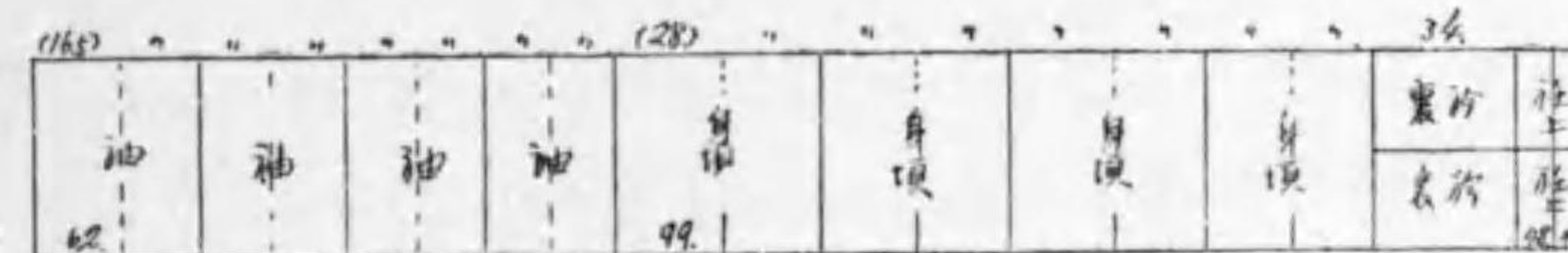


積方

鯨 1尺6寸 × 8 + 3尺5寸 × 2 + 1尺5寸 × 2 = 2丈1尺
身頃裾廻 裾廻 袖口切 用布

米 60 × 8 + 95 × 2 + 57 × 2 = 785cm

並幅1517cm(4丈)の布を以て同胴裏2枚裁合方



積方

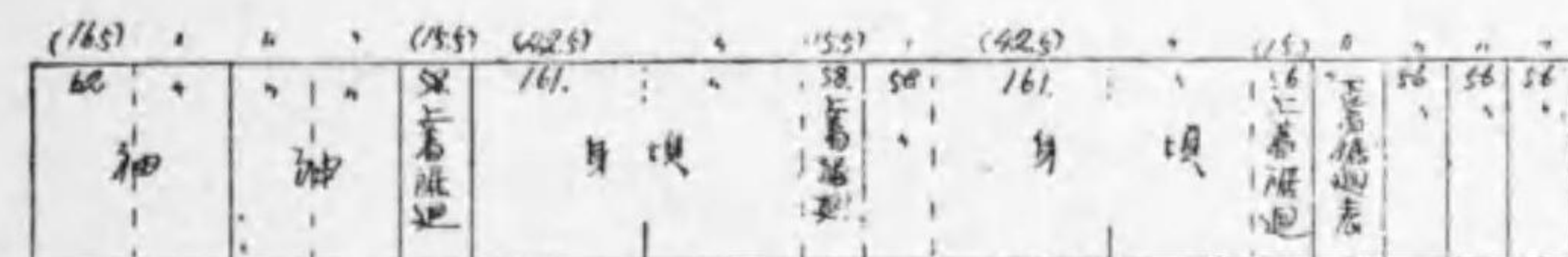
鯨 (4尺-1尺6寸+4寸) = 2尺8寸胴裏身頃丈

3尺5寸-2尺5寸+2寸 = 1尺2寸
表衿丈 裏裾廻衿丈 縫丈 裏衿上

(1尺6寸5分+2尺8寸) × 8 + 3尺4寸+1尺2寸 × 2 = 4丈
袖丈 身頃裏 裏衿 衿上 總用布

米 (62+99cm) × 8 + 124+48 × 2 = 1517cm

並幅2506cm(6丈6尺4寸)の布を以て二枚重裁方(下着は胴拔とす)



(15)	・	・	・	(18)	(16)	(15)	・	・	(32)	(25)	(25)	(25)
袖口	・	・	・	上着	上着	下着	・	・	上着	下着	上着	下着
袖口	・	・	・	上着	上着	下着	・	・	上着	下着	上着	下着
袖口	・	・	・	上着	上着	下着	・	・	上着	下着	上着	下着

積方

鯨 (袖丈+身丈+上着裾廻+下着裾廻表+下着八掛+袖口) × 4 + 上着表衿+下着表衿+上着衿八掛+下着衿八掛+衿+掛衿=總用布
 (1尺6寸5分+1尺5寸5分+ 4尺2寸5分+1尺5寸+1尺5寸5分+袖口) × 4 + 3尺7寸+ 2尺5寸 + 2尺5寸5分+ 2尺5寸5分+ 4尺6寸5分+ 1尺2寸=6丈6尺4寸
 米 (62+58+161+ 58+ 56+ 57(m) × 4 + 146+ 91+ 93 + 93+ 176+ 87=2506:m

仕立上寸法

○仕上寸注は普通長着と同様
 二枚重 此の場合は上着を普通長着と同寸法にして下着を詰める。
 三枚重の場合は中着を普通長着と同寸にして下着はこれより詰め
 上着は詰める割合を以て廣くす。

下着各部詰方寸法

袖 丈	8mm(2分)
袖 口	3mm(1分)
袖 幅	3mm(1分)
袖 附	3mm(1分)
身 丈	3mm(1分)
後 幅	8mm(2分)

前 幅 8mm(2分)
 衿 肩 明 上着を3mm多く。
 衿 丈 6mm(1分5厘)
 肩 衿 〃(袖幅3mm控へたれば肩幅は其の反對に廣くなる)
 裾 下 〃
 衿 幅 〃

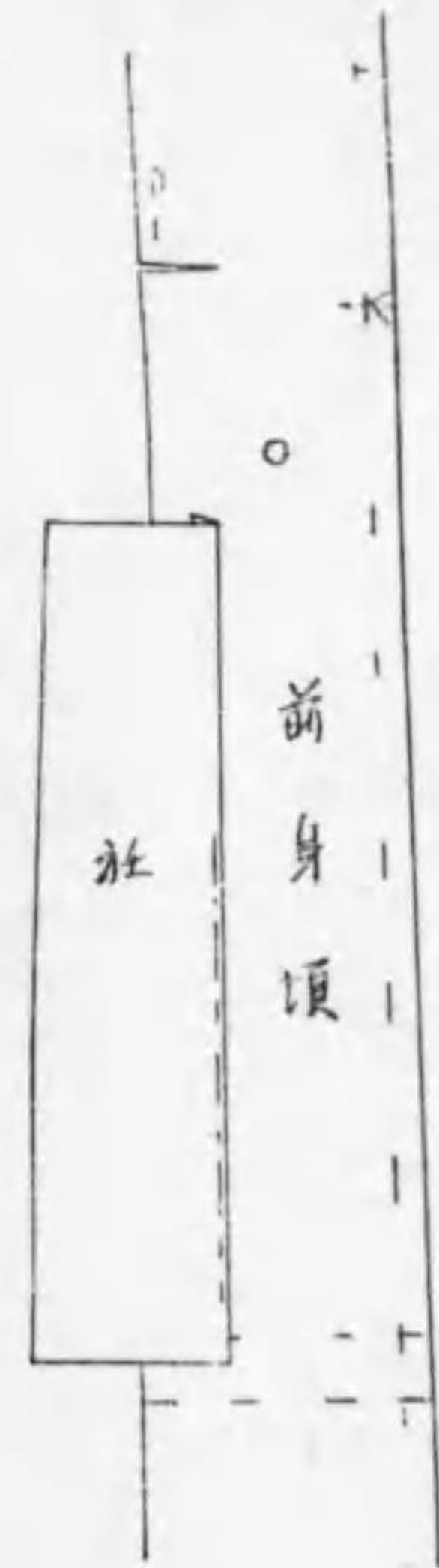
(注意) 以上は大體の標準なれども其の地質に依りて詰方寸法異なるは勿論にして例へば縮緬の上着に羽二重の下着を附る場合はまづ上着のだけ代を検べ其の寸法だけ下着を長くす。又同じ縮緬にても其の地質異なりたるものは垂代も亦異なる故に標入をなすまでに充分検べ其の地質に應じて加減す。

模様合せ及び標入

模様合せ まづ衿と前身の模様を合せ待針して後に前幅を定む地質によりては待針の所を折山を定めて躰す。裾廻しも同じ方法にて前身衿も襷も裾幅の模様も合せて同様躰す。

標入方

標入方は大部分普通長着と同様なれども其の異なる點のみ左に。
 ○まづ脊紋を合せ身頃を四ツ折りにして最初身丈肩幅袖附身八ツ口を前後とも通して標入す次に後身幅は前身頃に標の寫らぬ様後身幅のみに標入す。
 ○圖の如く後身頃を取りよけて前身頃衿附の標入をなす。
 ○若し左右前身頃及び布の双方前後等の身丈異なりたる場合少々の時はアイロン又は火熨斗等にて延ばし工夫す。尙1cm 以上も相違せる時は身頃八ツ口より 4mm (1寸) 下りたる所に腰揚をなす。



○衿標入表裏各裾口丈標を合せ衿幅もさきに模様を合せ標したる標を合せて裏には衿上を置き共に普通長着と同様に標す模様の都合により合襷幅は普通長着より多少廣くなるも差支へなし。

仕 立 方

仕立方は普通長着と同様。
 模様ものには多く縮緬類を用ふ好みにより袖口衿附裾廻り等に絹袋糸を以て飾縫をなす。
 飾縫は折山より一分五厘の所を針目細かくよく揃へざれば見苦し最も注意を要す。

模 様 の 種 類

模様の種類甚だ多く又其の寸法など流行にも依り着用者の年齢に依りて一定し難けれども概略を左に。

1. 總 模 様

○袖の前後肩の前後身頃裾廻し等衿及び衿先き等全體に模様あるものにして主に若人向振袖に多し。

2. 裾 模 様

○衿は衿先きまで高く 80cm (2尺1寸)内外後幅に至りて自然に低く有るものもあり好みにより袖下の部分に模様を置くこともあり。
 年齢に依りては裾先 20cm (5寸)位の高さにて前幅にかけてのみ低く模様を置くことあり。

3. 片 襷 模 様

○下前の衿 50cm (1尺3寸)位の高さにて前身にかけて模様を附するもの。

○熨斗目模様

○主として男物小袖及び下着用として胸より腰の邊及び袂にかけて模様あるもの。

なほ男兒の初着祝用として腰廻り及び袖下半分位なほ紐にも同様模様を附ることあり。

振 袖

振袖とは普通長着の袖丈を長く仕立たるものを云ふ。

振袖と云ふ内にも袖丈の長短あり小振袖中振袖大振袖等の別あり

振袖仕立上寸法

- 小振袖 84cm(2尺2寸)乃至87cm(2尺3寸)
- 中振袖 95cm(2尺5寸)乃至1.02m(2尺7寸)
- 大振袖 1.06m(2尺7寸)乃至1.15m(3尺)

仕 立 方

○仕立方は普通長着と同じく好みに依りて袂の丸味を大きく 4cm (1寸)乃至12cm (3寸2分)位になす場合あり大きくなす時は元祿袖の作り方の方法を以てなす。

第十六章 襦 襦

第一節 裁方仕立方

仕立上寸法

袖 丈 着物袖丈より8mm(2分)長く

- 袖 幅 着物袖幅より3mm廣く
- 袖 口 着物袖口より3mm多く
- 袖 附 着物の袖附より3mm多く
- 袖口 襷 8mm(2分)
- 身 丈 1.63m(4尺3寸)乃至1.70m(4尺5寸)
- 後 幅 着物の後幅1cm(3分)廣く
- 前 幅 普通着物前幅と同じ
- 衤 幅 17cm(4寸5分)乃至19cm(5寸)
- 襷 下 95cm(2尺5寸)乃至1.02m(2尺7寸)
- 裾 襷 7cm(1寸8分)乃至10cm(2寸5分)

同じく裁方

衤襷の裁方は寸法の異なるのみにて其の順序方法は長着と同じ裏は通し裏にし袖口布は其の布を用ひ又別布を用ゆる時は裏と同色の布を用ゆるものとす。

標 入 方

- 袖 普通長着袖と同じく丸味は年齢好みに依りて異なれども大抵12cm(3寸)内外とし振袖には袖入ッ口に表布と同じ布にて振口布を付けることあり。此の場合には裏袖幅を廣くして3mm(1分)位襷を出すことあり。
- 身頃 普通長着と異なることなし。
- 衤 衤は寸法の異なるのみで普通長着と同一なれども襷多ければ襷先き切下げ多し故に縫代不足なき様注意を要す。

衤襷襷標入方 裏表4枚揃へておく。

図 一 第

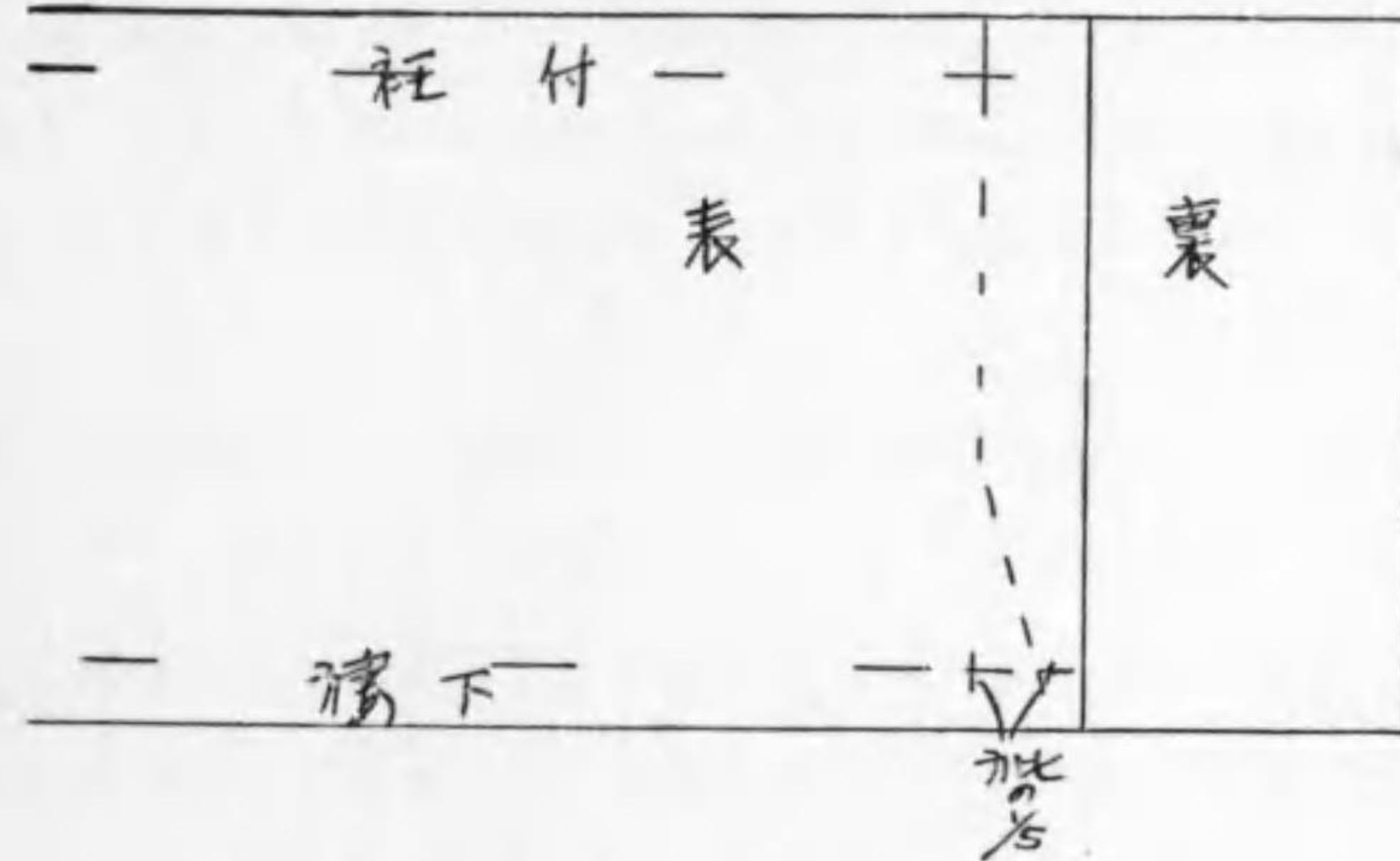


図 二 第



裏の衤幅裾にて襷の寸縫込むは襷大き故に裏に弛み多く襷を作るに困難なれば襷先縫易き爲なり。

同 仕 立 方

- 衤襷には裕にする時と綿入れの場合とあり。裕の場合は裕長着と同様綿入の場合は綿入長着と同様其の特に異なる點のみを左に。

○袖 袖の丸味 元祿袖と同一の方法にて作る。

袖八ツ口に襷を出す時は裏袖幅を襷の2倍広く袖附際の所にて襷の形になす。

○身頃 總模様の際は模様を注意して模様の並ばさる様工夫を要す

○裾縫合せ方 表裏の縫目をよく合せ縦縫の縫目には返し針し針目は大針の方却つてよろし。

○襷の縫方 裏の縫標(襷の形)より5厘離れて外を真綿の引伸ばしたる糸か又は餘りなめらかならざる糸を以て下縫ひをなし襷形の斜の所を斜に引きて表衿幅と同寸まで縫縮む後表布の標を裏と合せて縫ひ表の縫代には釣れぬ様切り込み入れて3mmのキセをかけて表布に返しキセ山より5mmの所にかくし袂をなす。

綿の入れ方

全體に縫を弛めて入れ襷先綿の入方綿含め方等普通長着の裾及び襷を同一の方法とす。

第十七章 單本重ね

第一節 本裁單本重ね

○裁方 上着下着とも普通單長着と同様。但し袖口布衿先布は取り得らるる様積る。

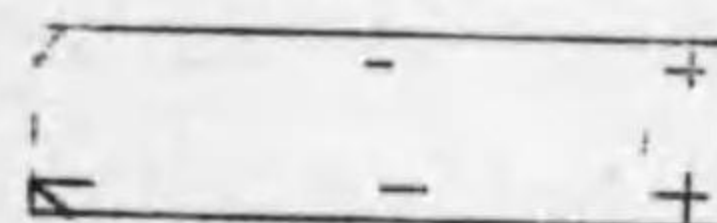
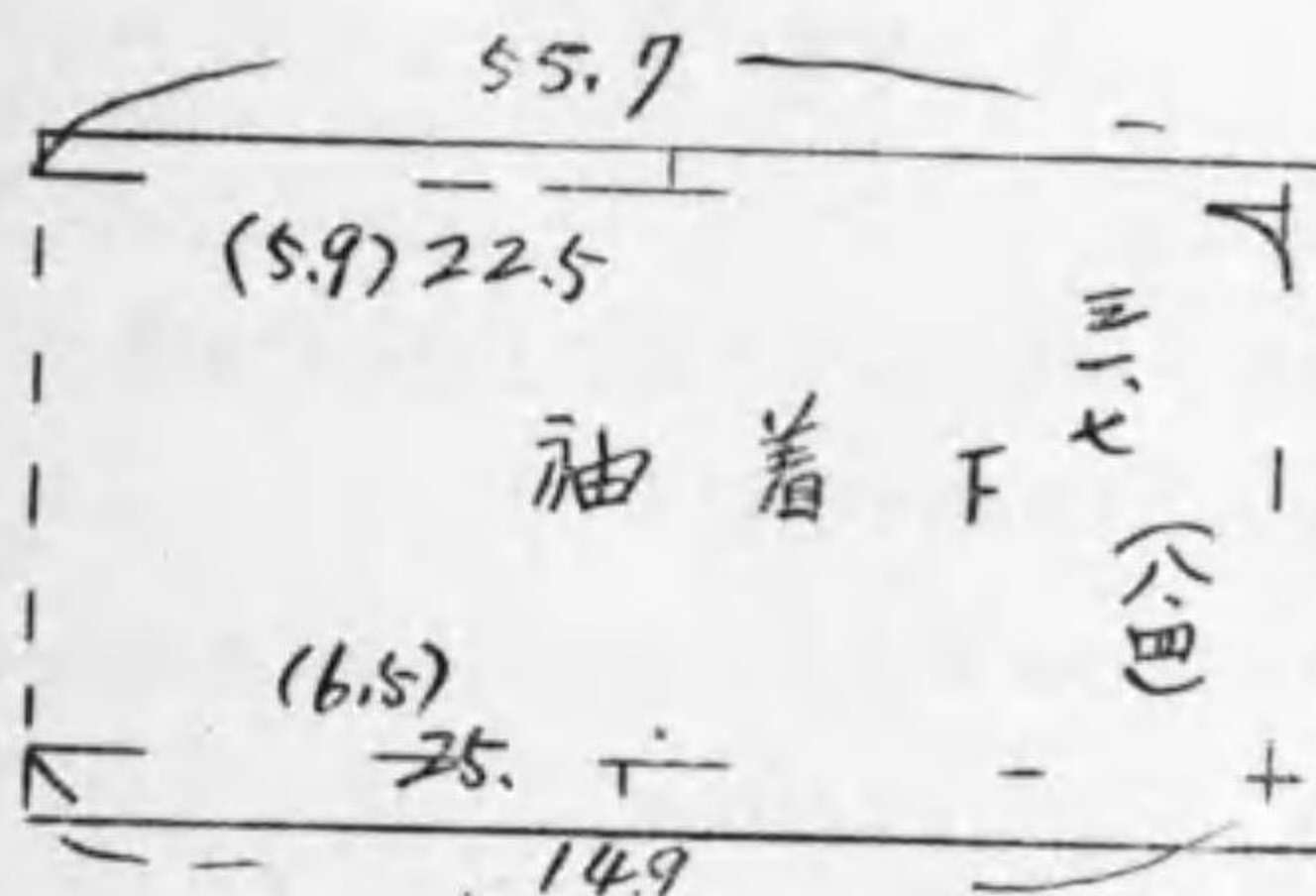
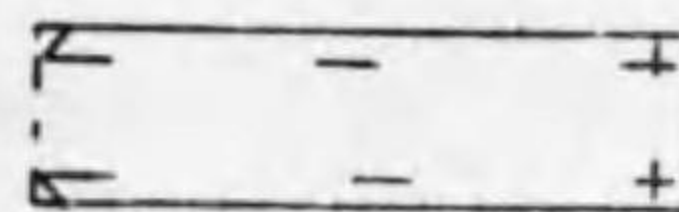
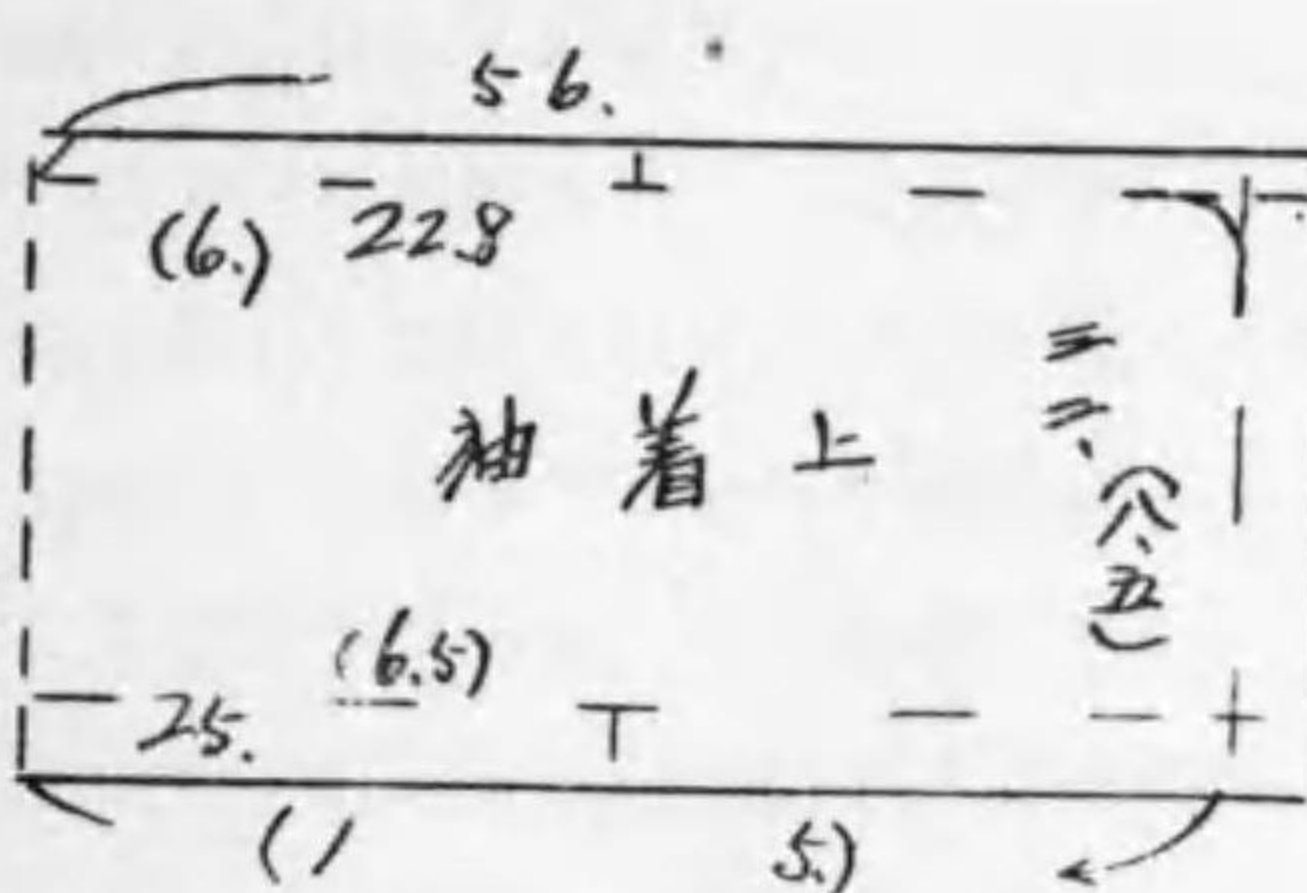
○仕立上寸法 普通單長着に同じ。

標入

袖の標入は單羽織の標入と同様。

下着は袖口明及び幅丈ともに3mm詰める。

單本重標入



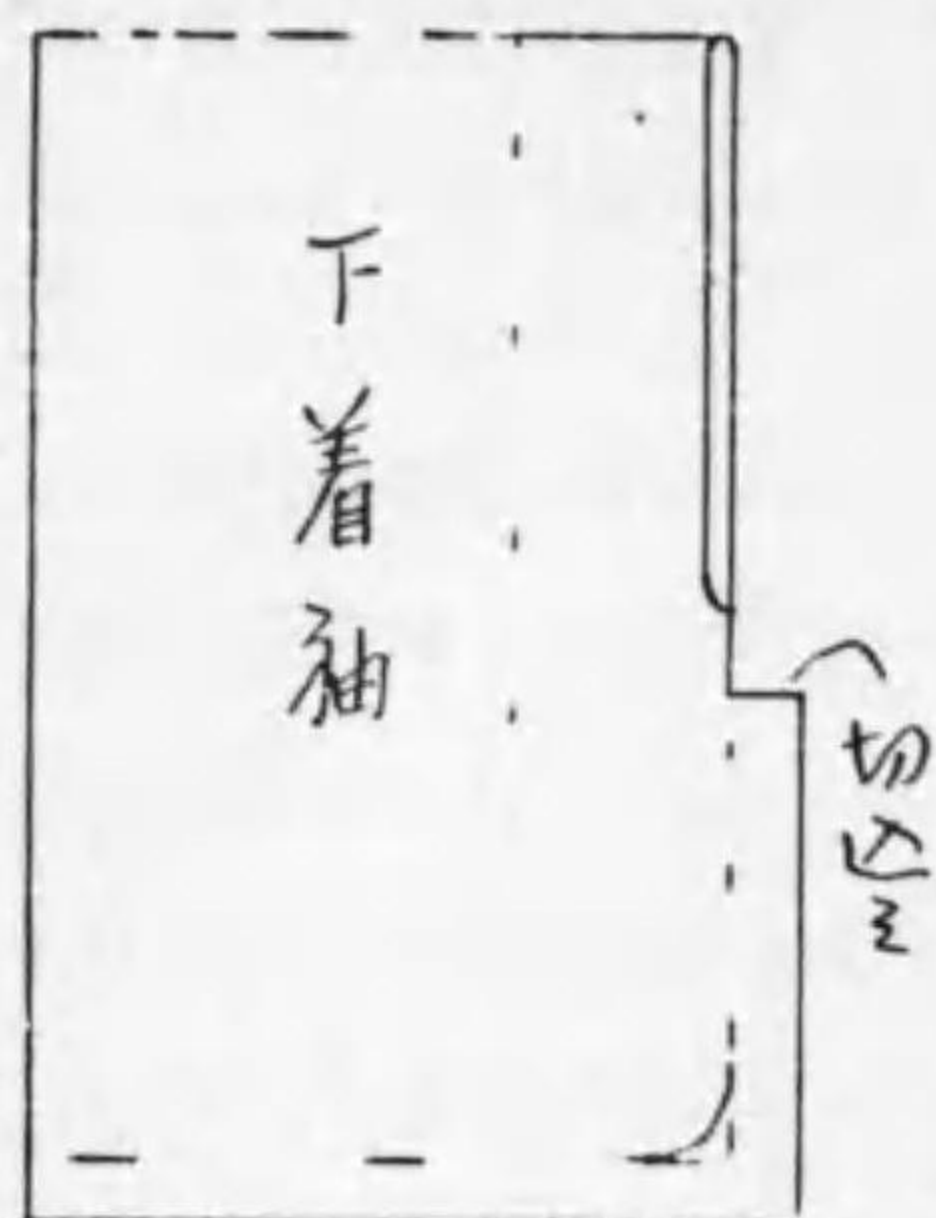
○身頃 其の方法は普通單長着と同一にして下着の詰方は衿長着の裏の詰方と同一故省く。
○衿及び衿の標入も上着下着共揃へて衿長着と同様只裾襷なきのみ。

仕立方

- 1 袖 2 上着 下着前後身頃裾縫 3 上着下着共脇縫衿附 4 脊脇衿の中綴 5 身八ツ口縫 6 袖附 7 襷下縫 8 衿附及び衿縫 9 仕上

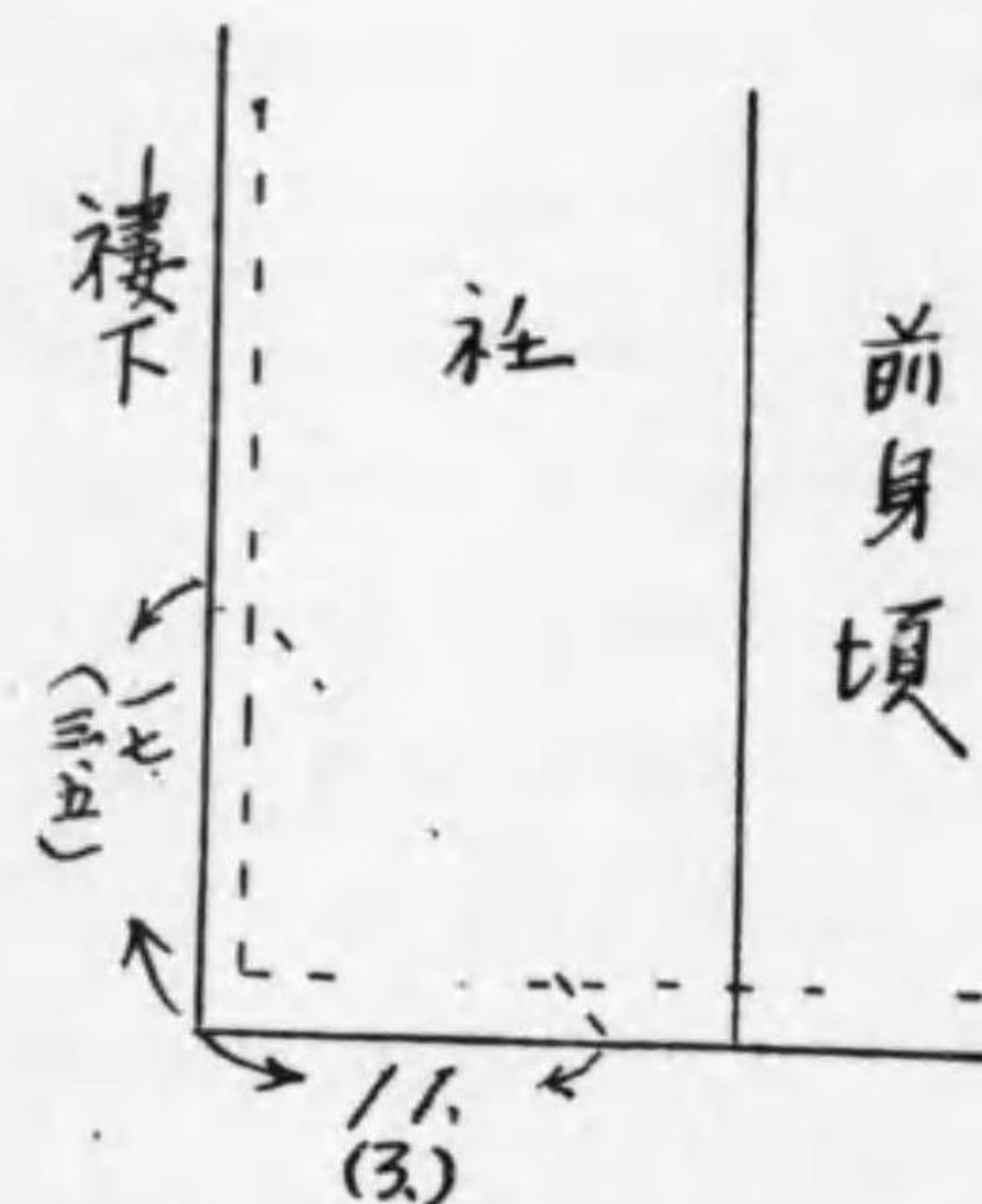
○袖 上着下着ともに袖口布を縫合せ折は表布に返して單羽織の袖と同様に上下着とも袖口切の終まで四ツ留をなして別に縫ふ袖口は單には襷なし故毛抜き合にして袂す。袖口布の端標の通り伏て小針を表に出して縫ける。

下着袖も同様 袖口下にて袖口布終り際に下着袖に切込みを入れて上圖の如く袖口下の縫代を下着袖の表に出し上着の袖口下より衿と同様四ツ縫になす。



- 袖振り口の仕方は袷袖と同じ。
- 上着下着身頃裾縮 上着下着共後身幅は續けて前身頃は別に裾口小針にて1cmの三ッ折縮をなす。
- 上着脊下着脊縫代を合せて中綴す次に脇縫も上下着合せ中綴を入れる
- 身頃八ツ口の縫合せ。

- 上下着とも袖附 袷袖附と同じ。
- 衤布 上下とも裾口を襷先も普通單と同様縮け上着の衤と下着の衤にて身頃上着下着を狭み衤附をなす。



- 衤附上着の標と下着の標を合せて綴を入れる。
- 襷下は上下各別に1分5厘の縮代にて縮ける。
- 下着の衤先きを寸法の通り縫ひ衤幅も寸法通り仕立てて身頃の下着の方に當て上着の衤裏と上着表衤にて狭み衤附す終りて衤幅の寸法通り裏衤幅を3mm控へて縮け附ける。

上圖の如く襷先き上下着を重ねて隠し綴ちを入れる。

第二節 本裁單半重ね

- 半重は帛布の經濟上及び衛生上より上部を1枚に他は裾廻り衤袖

口等を2枚になし本重の如く仕立つるものにして其の仕立方は本重と大差なし差異ある點のみを記す。

- 袖 本重と同様。
- 身頃 上着は本重の上着と同じく下着は普裾廻り丈95cm(2尺5寸)内外を附するものにして其の縫方は本重と同じく上部は1,2cm内へ折りて細かく表に小針を出して縮け附く。
- 衤附 襷下縮 衤附等いづれも本重と同様につき省く。

第十八章 本裁比翼

第一節 本比翼及び附比翼

比翼は胴廻りを1枚になし袖口袖振、衤、裾廻り等を本重ねの如く仕立つるものにして本比翼附比翼の二種あり。

- 本比翼とは袖口、袖振、裾廻り等各部分の上着の裏と下着の表とを中に挟みて縫ひ1枚の表及び胴裏を以て2枚重ねの如く仕立つるを云ふ。
- 附比翼とは上着を普通長着に仕立上袖口、袖振、裾廻、衤等を別に作りこれを各部に縮け附くるものを云ふ。
- 總て比翼は着用するに便利なれども取り外し難き點に於て不便なると又其の仕立も複雑にして且つ用布も小さく裁斷するを以て不經濟なり。然れども禮服の如く殆ど取り外す必要なきものは着心地よく又便なり。
- 仕立上寸法
- 仕立上寸法は普通長着に同じ。

○裁方 積方

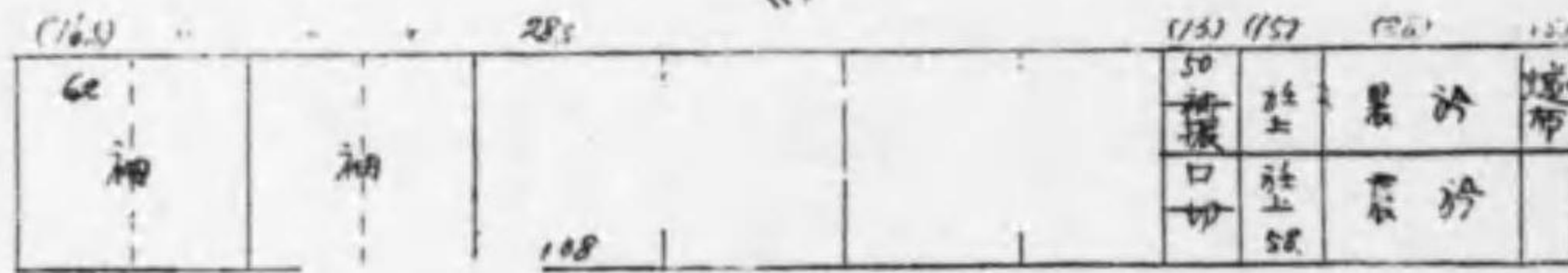
裁方は縞物と模様物とに依り其の裁方一様ならず。又上着下着の裾廻しを表の共布を用ふる場合と別布を用ふる場合とに依りても亦異なる。

裾廻しに共布を用ふる時は24.60m(6丈5尺)を要す。

裾廻し別布なる時は17m餘(4丈5尺)内外を要す。

裁方積り方は小袖の裁方と同様なれば省く。

並幅9.50m(2丈5尺)の布を以て比翼胴裏の裁方



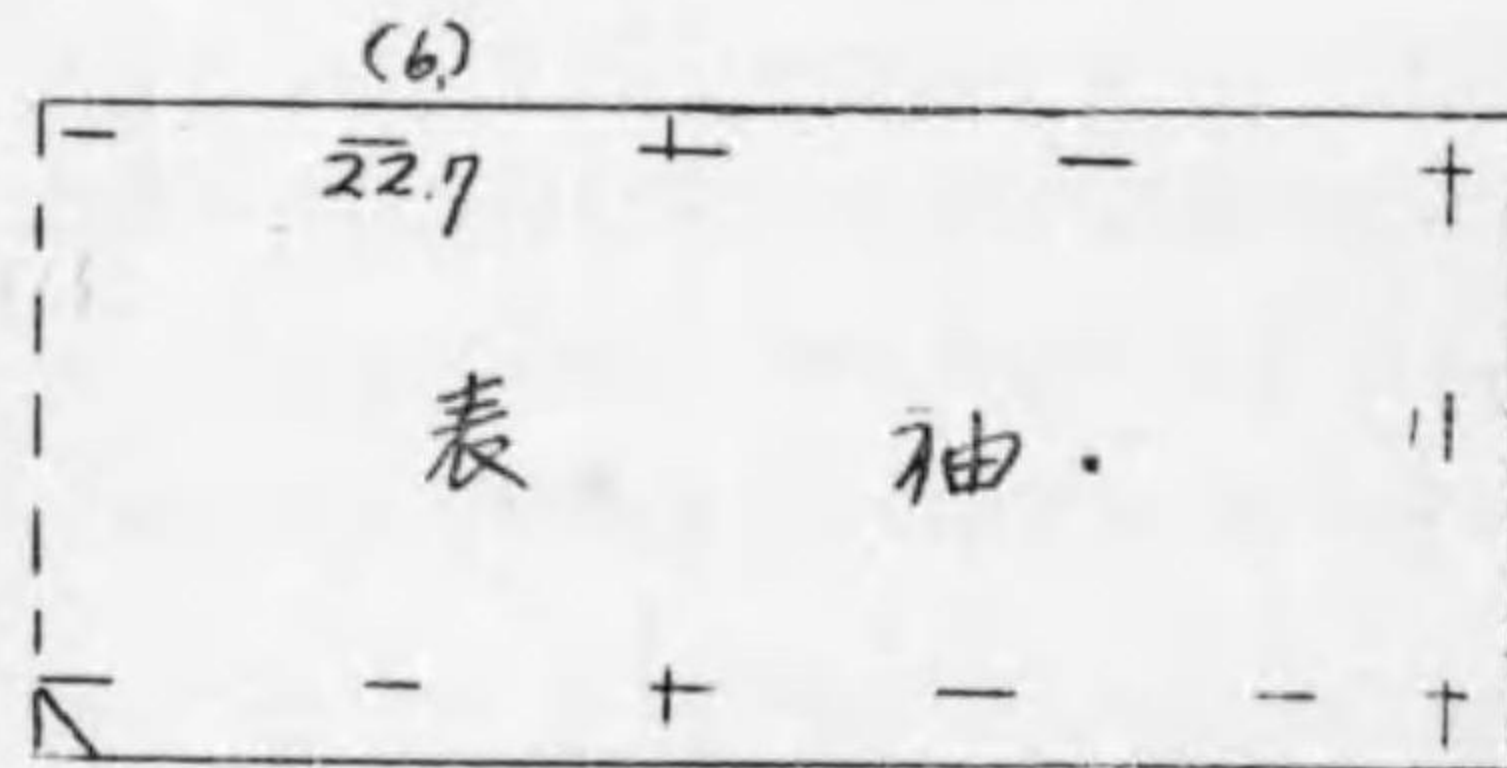
(袖丈 + 胴裏丈) × 4 + 袖振切 + 衿上 + 裏衿布 + 燧布 - 總布

鯨 (1尺6寸5分 + 2尺8寸5分) × 4 + 1尺3寸 + 1尺5寸

+ 3尺8寸 + 5寸 = 2丈5尺

同じく標入方

袖 表袖は女物袷袖表に同じ。



○上着袖に裏は表袖

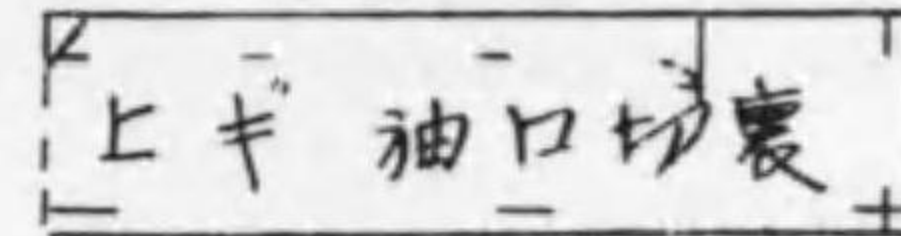
口明きより3mm 詰める。

○下着袖口表は上着

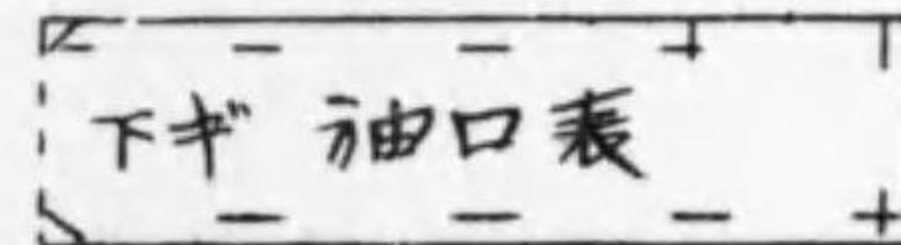
袖口裏より3mm 詰める。

○下着袖口裏即ち裏袖に縫附たる分は又3mm詰める。

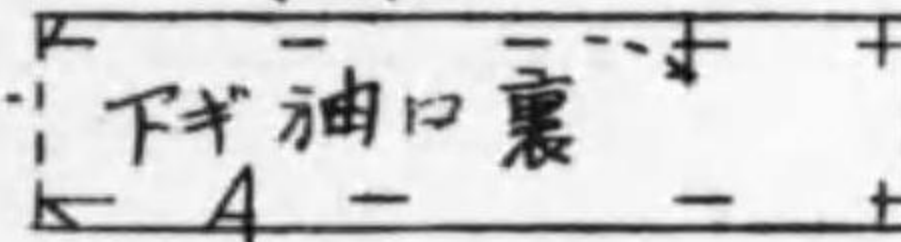
(5.9)



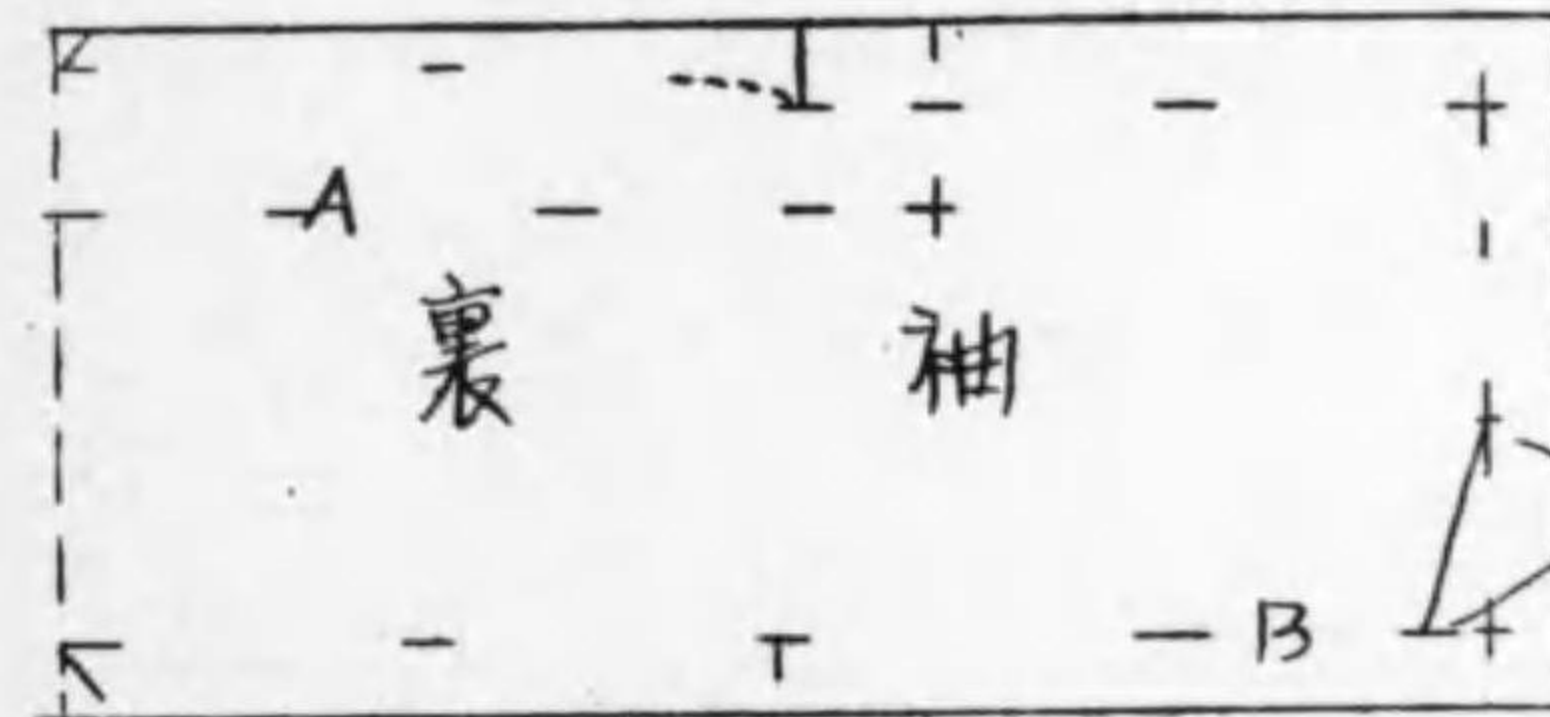
(5.8)



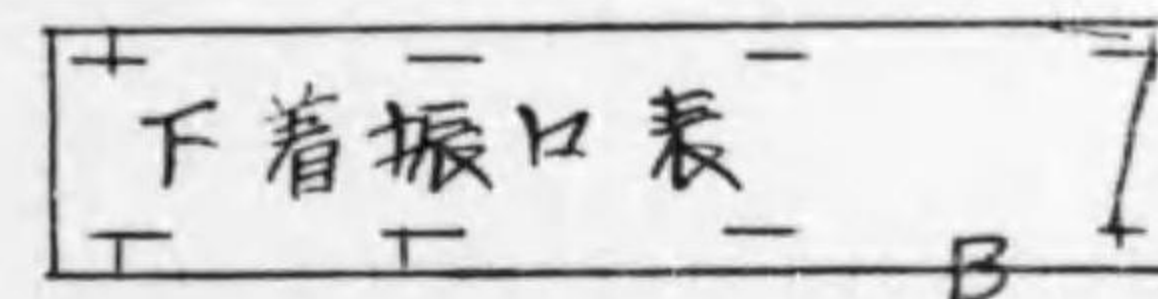
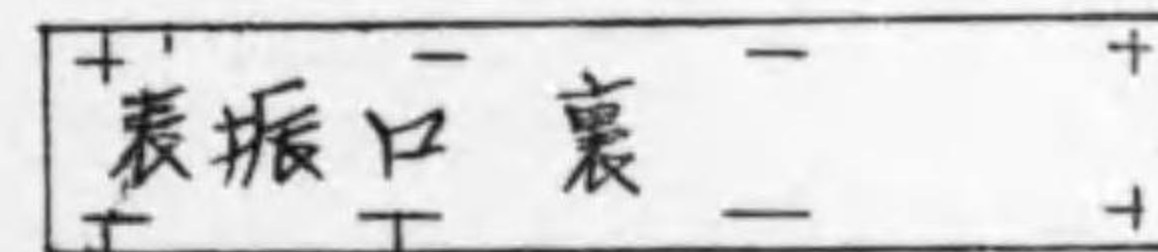
(5.7)



此布は裏袖と普通袖口と向様縫付る



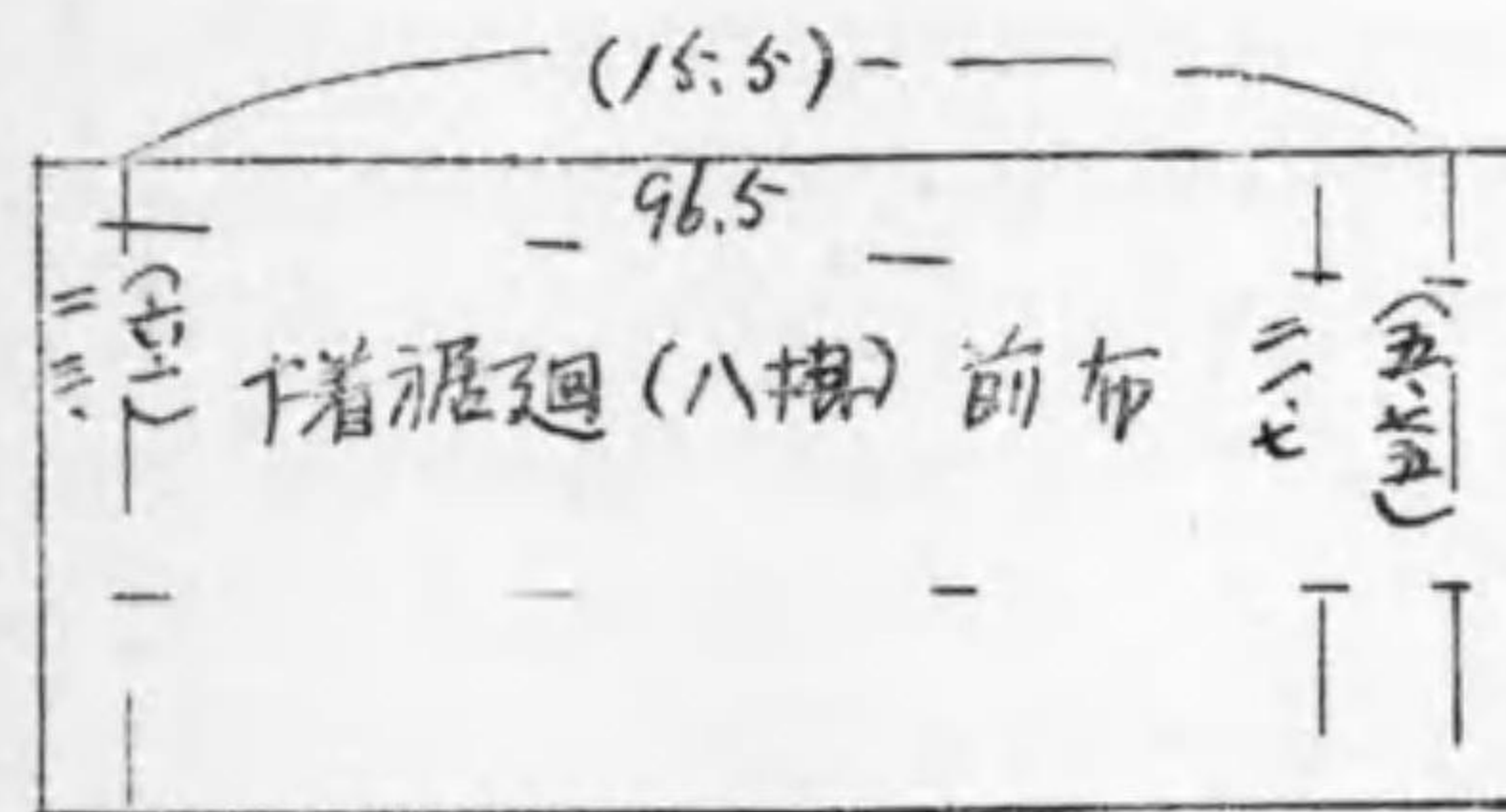
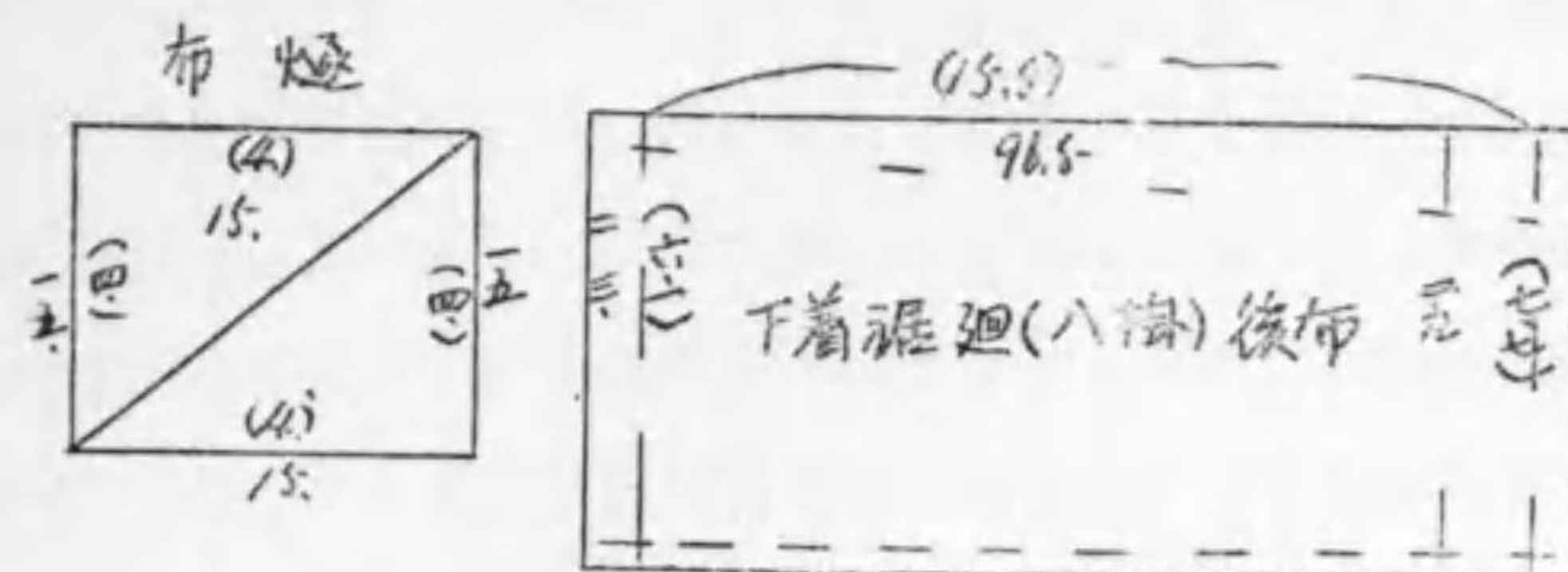
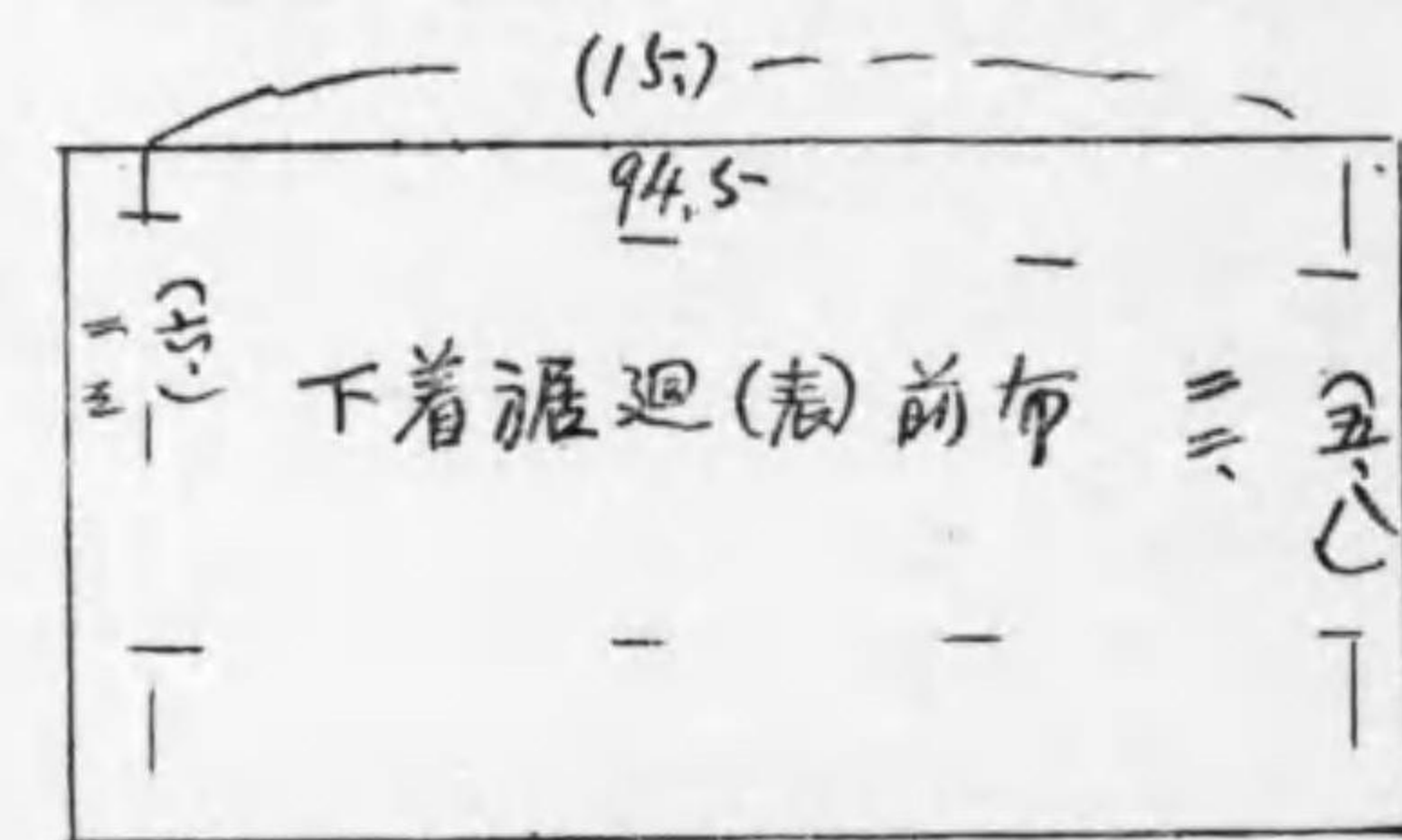
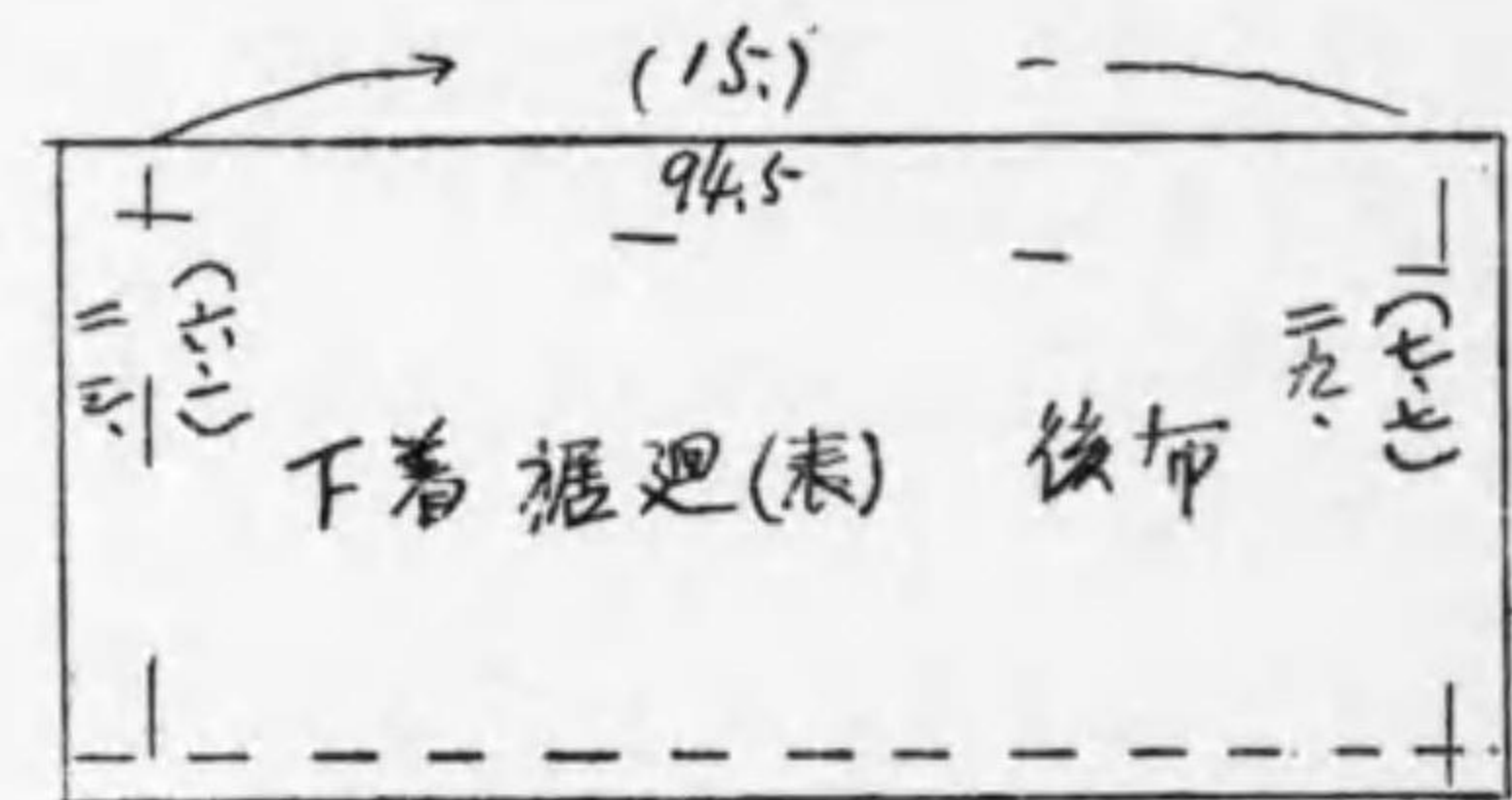
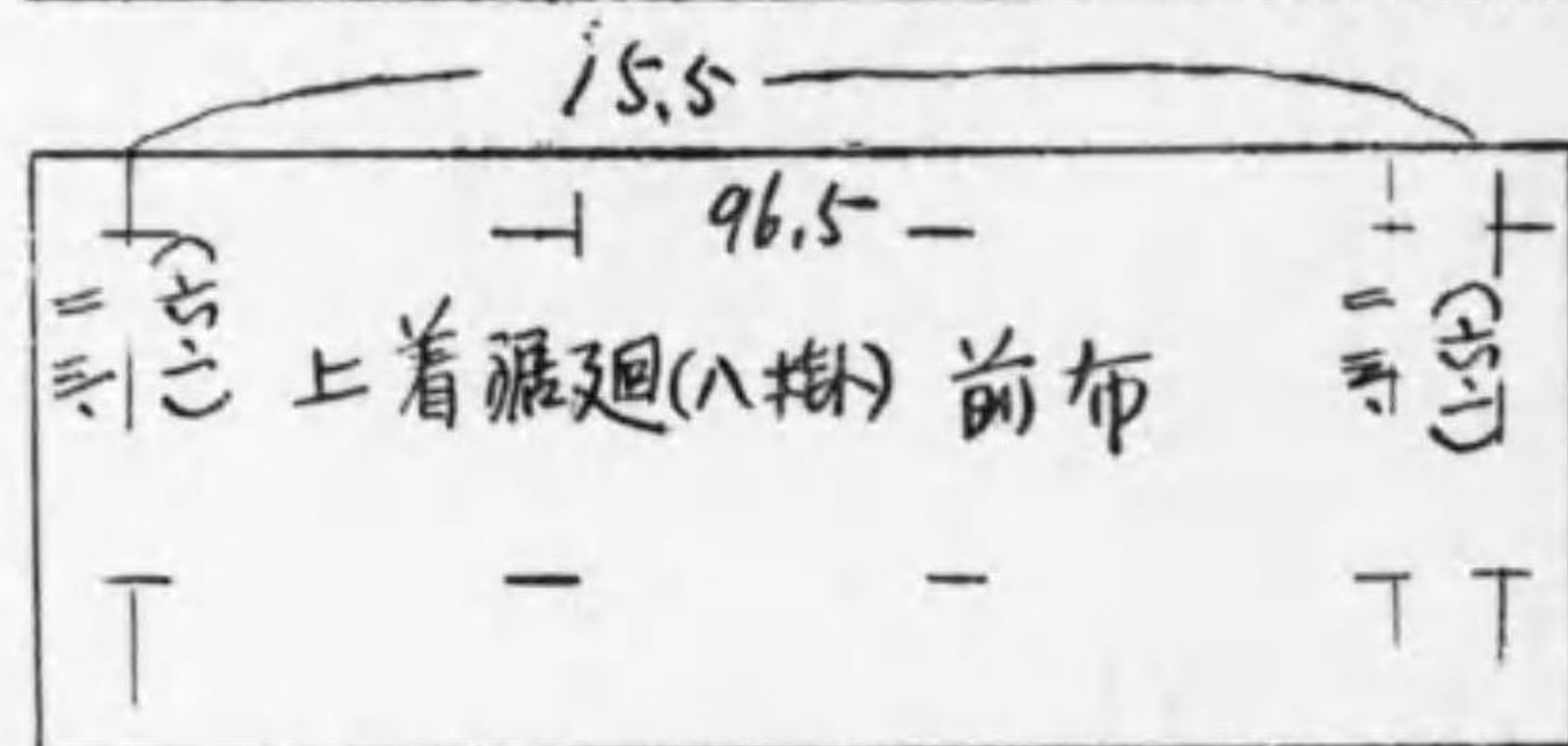
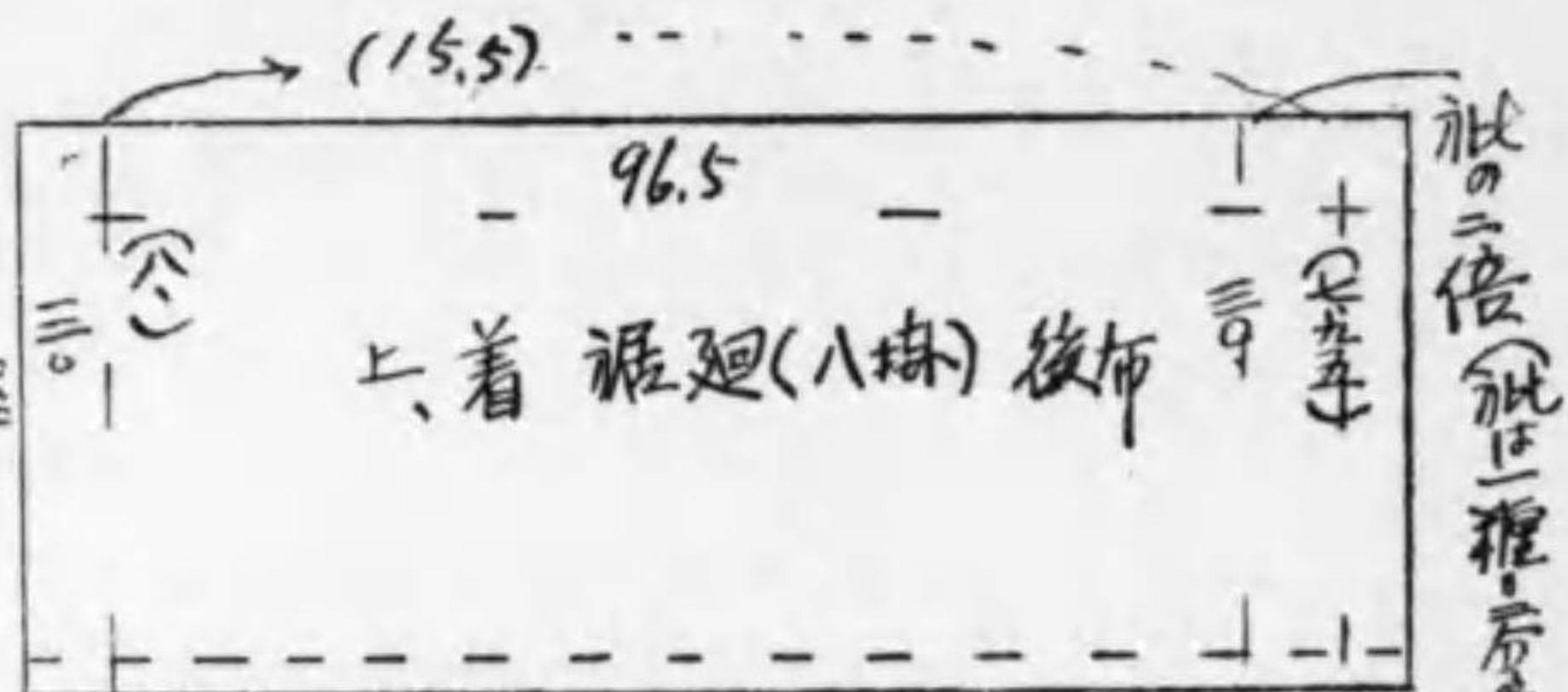
袖振口の巾より3分斜りにして下着の振口と合わせる



身頃標入

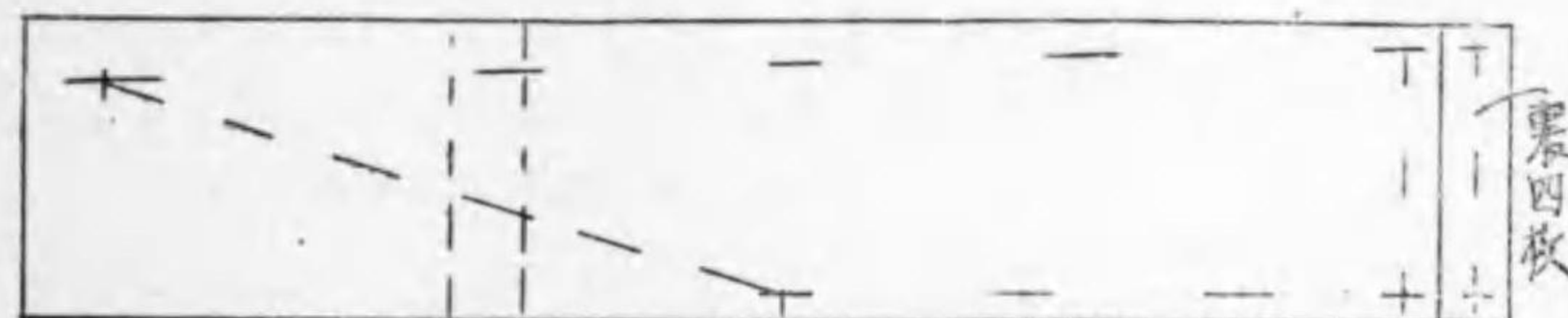
表身頃は普通女物長着に同じ。

下着の裾廻しで上着の裾通しも長さ同寸。只裏(八掛)の分は襦の二倍長くす



燧布は下着の胸拔2枚と上着の胸裏を見せる布2枚を要す。何れも15cm(4寸)方形を角違ひに三角に切る。

衿 表裏上着及下着衿8枚を重ねて標入す。



上着、下着の表裏を重ねて標す。

まづ裏衿廻と衿上を衿丈の寸法の通り待針して置き其の上を下着の衿表布2枚次に上着の衿裾廻しを置き其の上に上着衿布2枚を重ねて上下共裾廻布丈は襦の2倍丈を長く出して普通衿標入と同様にす。又地厚のものは上着下着別々に標入れるもよし。

本比翼仕立方

○袖上着の表袖口裏布を縫合せ袖口下裏袖口布の終り迄袖に四ッ留

○袖八ツ口 表は本比翼下着の表袖八ツ口と同様にて裏は奥の丈幅を表に合せ振りにて詰めること普通長着と同じ。

○後前裾廻 表の丈は上着裾廻し丈より出裾の2倍を減じ裏は上着裾廻し丈と同寸とす。

○幅 標 本比翼下着裾廻しと同様。

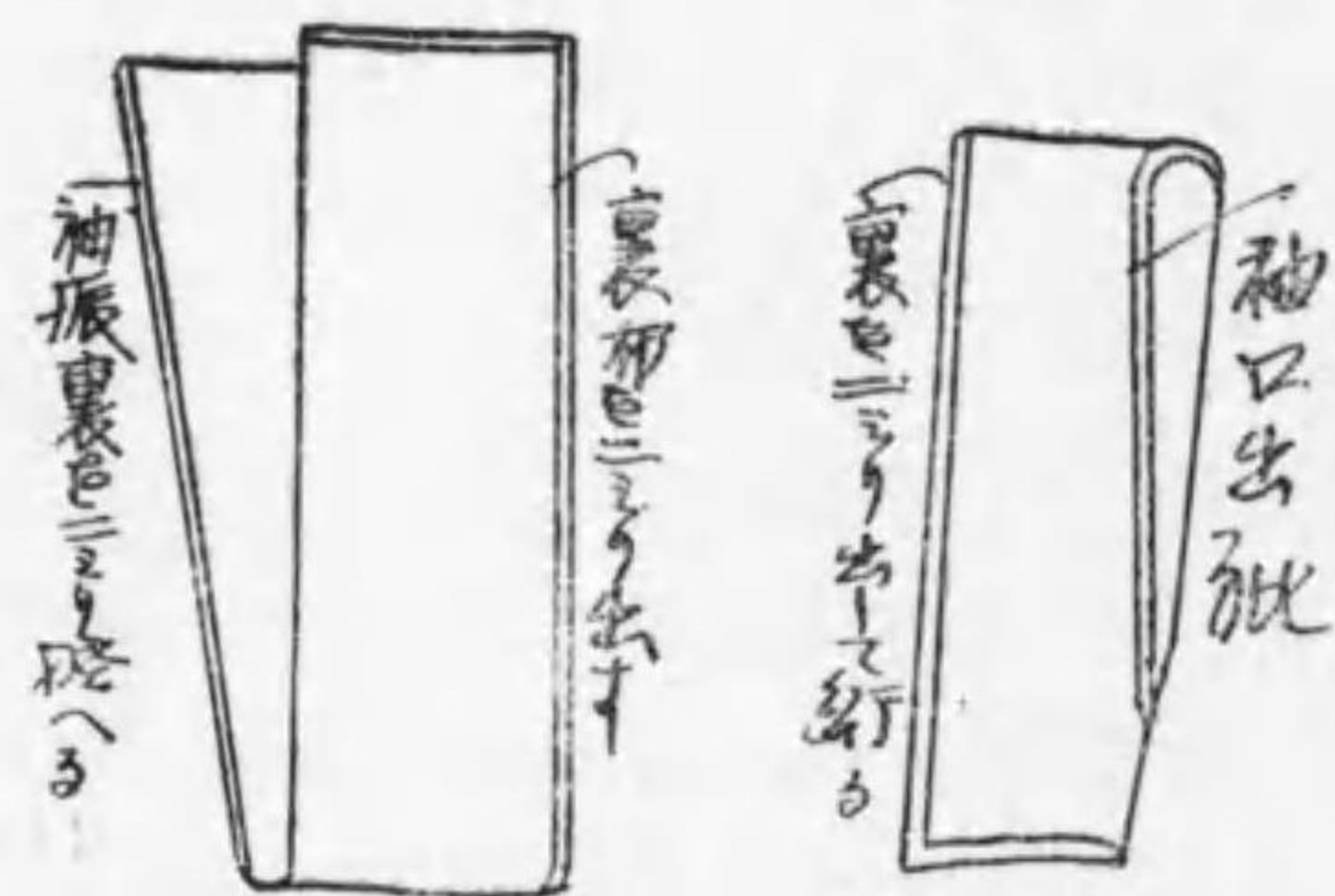
○衤 丈 表は上着裾廻し丈より出裾の2倍を減じ裏は上着衤裾廻し丈と同寸にす。

○衤 表裏共に丈は普通重物の詰方同様に上着衤丈より詰め幅は上着に合す。

仕立方

○袖口 先づ袖口を縫合せて四ツ留めをなし續いて袖口下を縫ふ次に袖口衤を定めて奥及び袖下は表布を少し控へて縫合す。

附衤翼袖振の出来上り 附衤翼出来上り



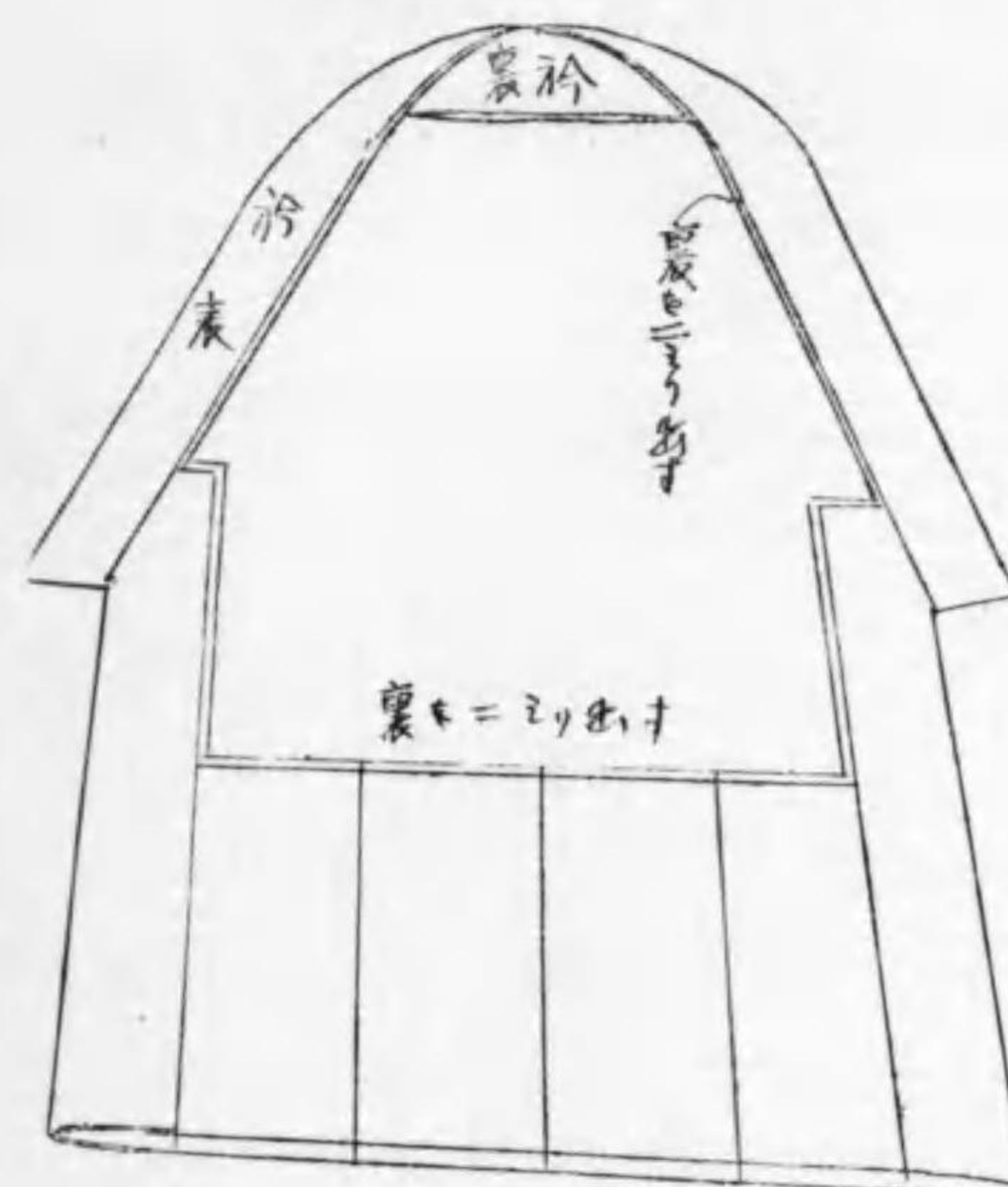
縫合す。

○裾廻し布 表裏の春縫衤附等普通長着と同じ。

裾合せ衤の縫方裾綿の入方裾綴入方裾下縫方等普通長着に同じ。

○裾廻りの上は後前衤ともに表を2mm控へ縫合す。

裾廻り及び衤出来上り



○衤 衤丈の終りまで表裏を別々につけ其より上は表裏を縫合せ表を2mm控へて衤芯も入れ衤先を作り衤幅を定めて衤衤をなすこと長着と同じ以上各部出来上りたらば一まづ仕上をなしてこれを上着の裏に縫合する。

○袖口 袖口表の折り

山と上着袖口裏の折り山とを合せ2mm 衤の様になりたる裏の布を縫合する。

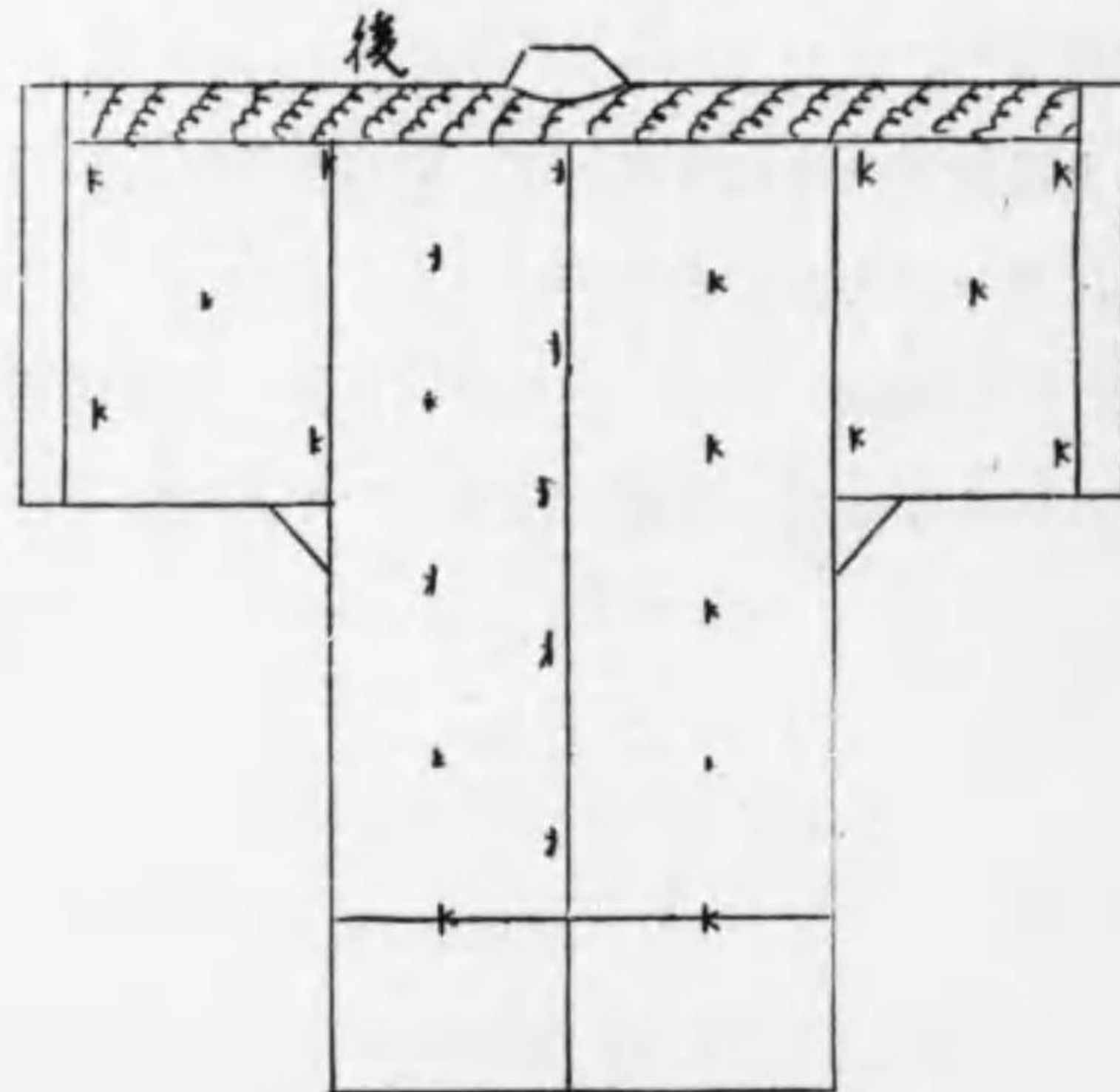
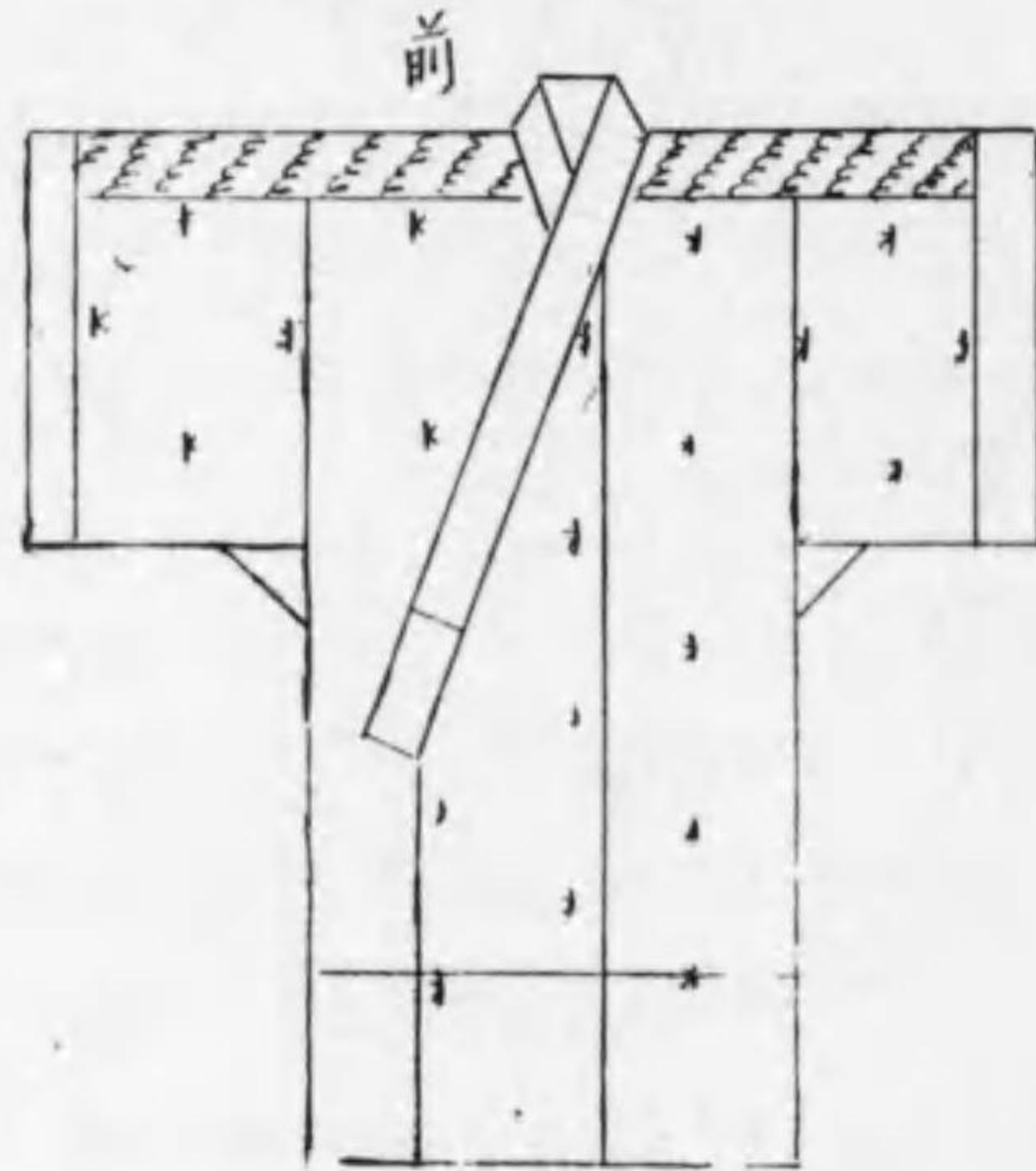
○袖振 上着袖下の縫目下着袖下の縫目を合せ待針をして奥は袖口同様の注意を以て裏袖布に縫合す。

○裾廻し及び衤の縫合 裾廻し丈及び幅を合せ上着裾廻し上の折り山に縫合衤は本比翼と同様の注意を以て裏衤附の折り山に縫合する。

第十九章 夜着 蒲團 蚊帳

第一節 小夜着中夜着大夜着及袖なし夜着

図上東出の着夜



並幅1104cm(2丈9尺2寸)の布を以て小夜着の表裁方

(15)	(20)	(57)	(57)	(57)	(57)	(57)	(57)	(57)	(57)
袖	袖	身	頃	身	頃	襟	衿	衿	衿
57	57	151	151	151	151	277	277	277	277
						136	136	136	136

袖丈×4+身丈×6-衿下り×2=用布

57×4+151×6-15×2=1104cm

並幅1498cm(3丈9尺4寸)の布を以て小夜着裏の裁方

(15)	(16)	(52)	(75)	(52)	(75)	(52)	(75)	(52)	(75)
袖	袖	身	頃	身	頃	襟	衿	衿	衿
57	57	198	198	198	198	277	277	277	277
						136	136	136	136

積方

15×6+52×6-4×2=394cm用布

袖丈 身丈 衿下り

並幅1140cm(3丈8尺2寸)の布を以て中夜着表の裁方

(16)	(41)	(55)	(55)	(55)	(55)	(55)	(55)	(55)	(55)
袖	袖	身	頃	身	頃	襟	衿	衿	衿
60	60	155	155	155	155	210	210	210	210
						140	140	140	140

積方

60×4+155×6-15×2=1140cm

並幅の布を以て同裏の裁方(衿30cmとして)

(16)	(41)	(35)	(35)	(35)	(35)	(35)	(35)	(35)	(35)
袖	袖	身	頃	身	頃	襟	衿	衿	衿
60	60	218	218	218	218	277	277	277	277
						200	200	200	200

積方

6×8+218×6-15×2=1752cm

袖丈 身丈 衿下り 用布

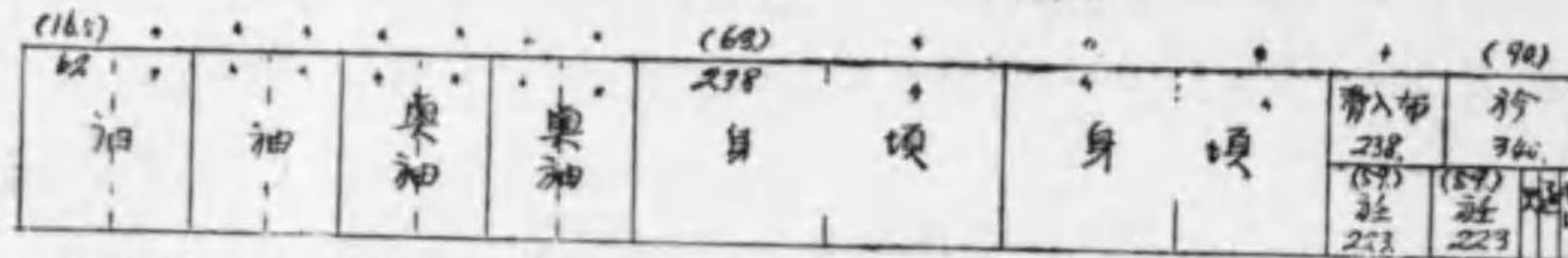
並幅1283cm(3丈3尺9寸)の布を以て大夜着の表裁方

(15)	(42)	(49)	(58)	(49)	(58)	(49)	(58)	(49)	(58)
袖	袖	身	頃	身	頃	襟	衿	衿	衿
60	60	163	163	163	163	220	220	220	220
						143	143	143	143

積方

米 $62 \times 4 + 163 \times 5 + 220 = 1283\text{cm}$

鯨 1丈6尺5寸 \times 4 + 4尺3寸 \times 5 + 5尺8寸 = 3丈3尺9寸用布
袖 身丈 衿丈

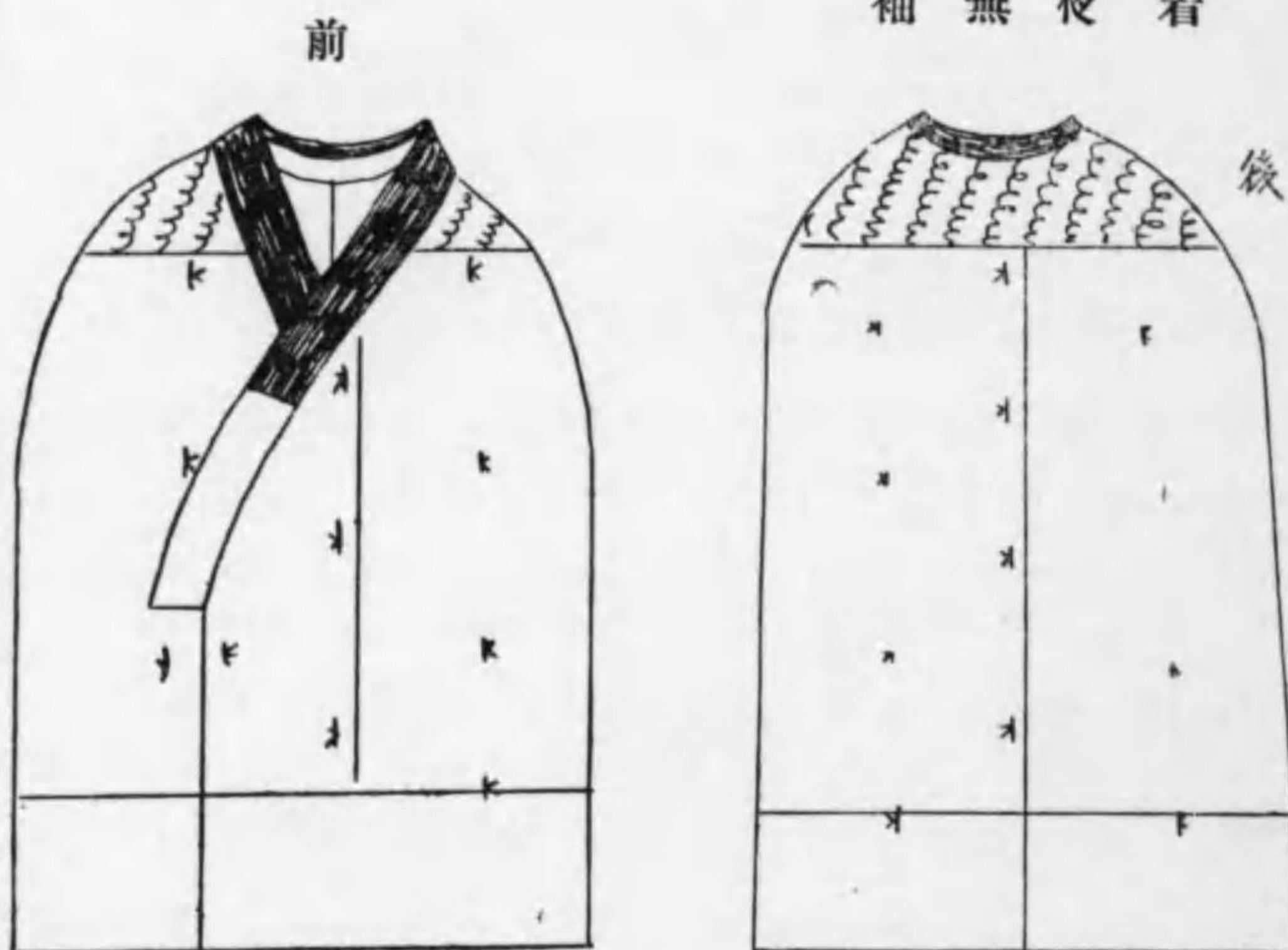
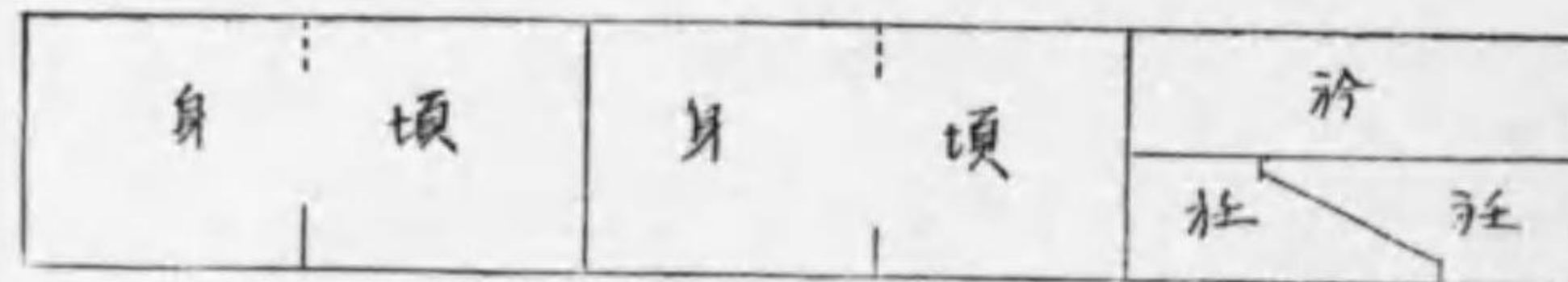


並幅を以て同じく裏の裁方 (但し衿 38cm)

積方

袖丈 \times 8 + 身丈 \times 5 + 衿丈 = 用布

並幅 537cm (2丈1尺5寸) の布を以て袖無夜着表の裁方



袖無夜着

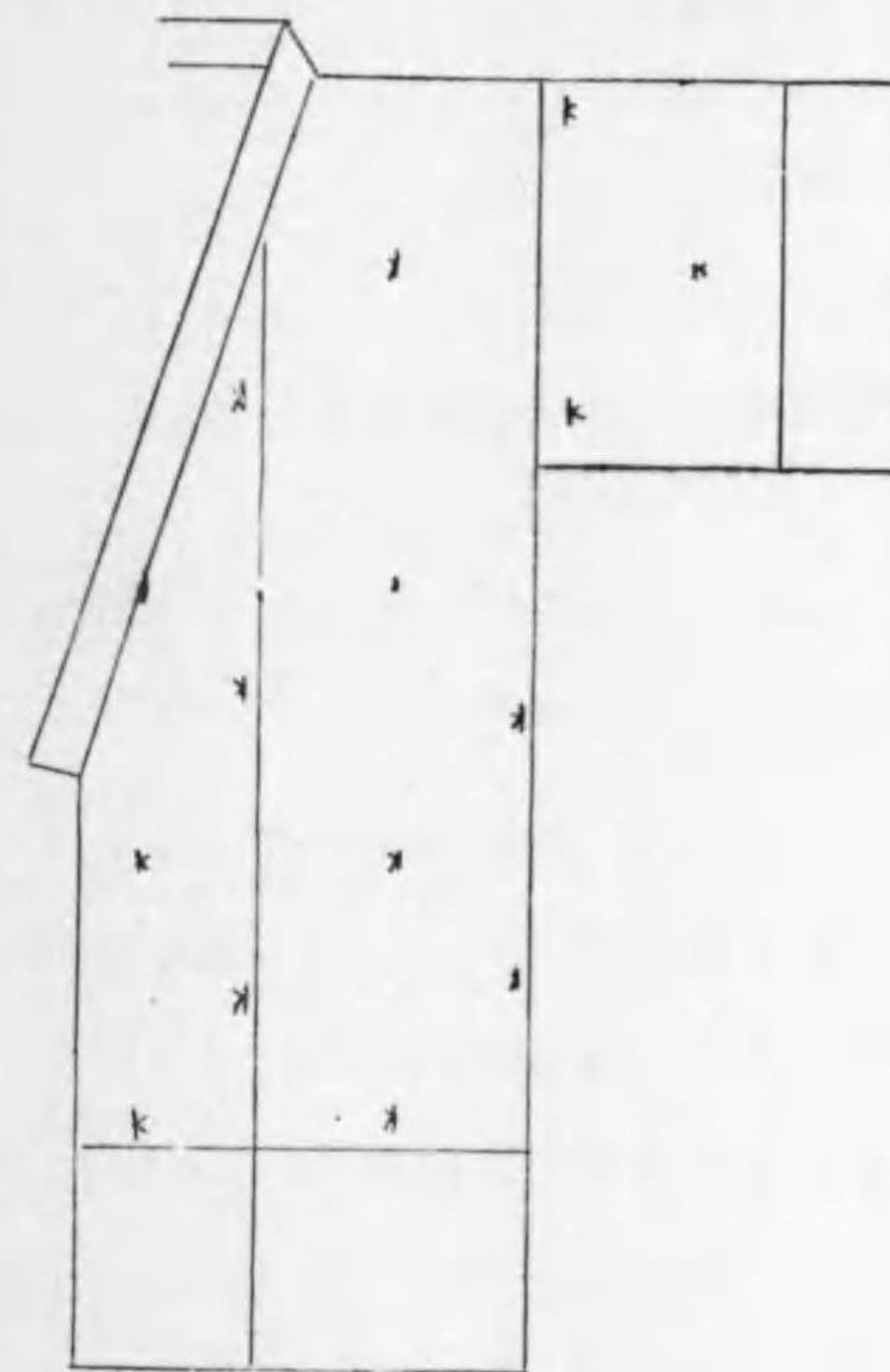
第二節 ネンネコ

ネンネコは袖夜着を小さくしたるが如きものにて1,2才の幼児を抱き又は脊負ひする時或は春先き寒からざる時の晝寝に上より被ふ等に用ふ手軽にして便利なり。

普通仕立上寸法

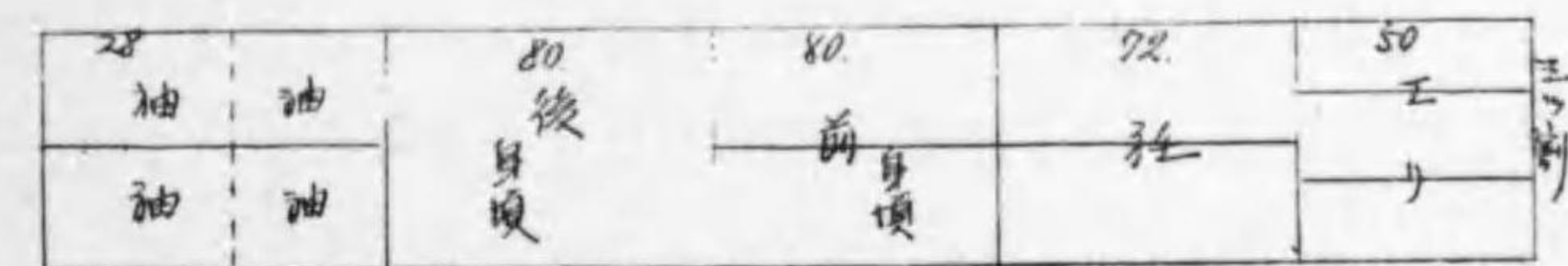
- 1. 袖丈 25cm 27cm
- 1. 袖幅 25cm内外
- 1. 衿肩明 405cm
- 1. 身丈 85cm内外此の内裾出衦 8cm内外
- 1. 身幅 1パイ
- 1. 衿下 10cm
- 1. 衿下 20cm内外
- 1. 衿幅 4cm

綿の分量 (100匁3枚作りの綿2枚通り)



裁方及び積り方

並幅 3.38cm (約8尺9寸5分) を以てネンネコの裁方



積方

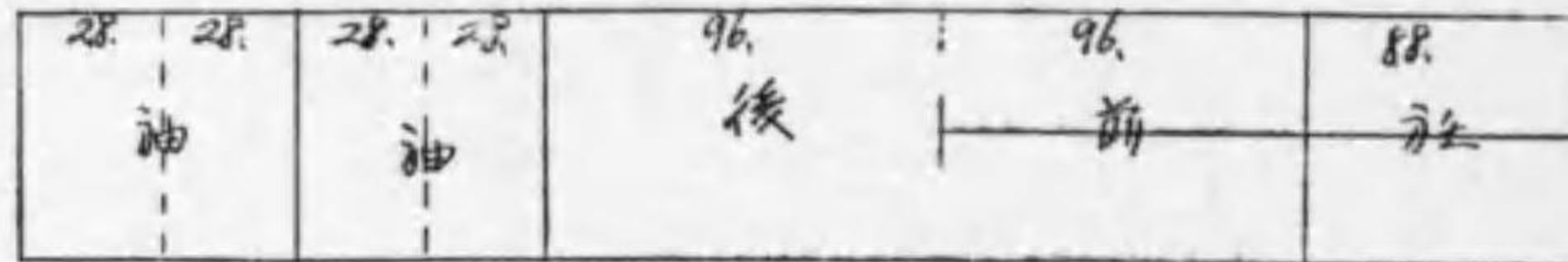
袖丈×2+身丈×3-衿下+衿布=總丈

28×2+80×3-8+50=33.8cm

同 裏の積方

表布裁切身丈+裾出襷の×2裏身丈 80+8×2=96cm

並幅の布392cm(約1丈3尺5寸)を以て裏の裁方



表布袖は半幅を用ひたれど裏は並幅なりに用ひ廣き分は出襷となす。

積方

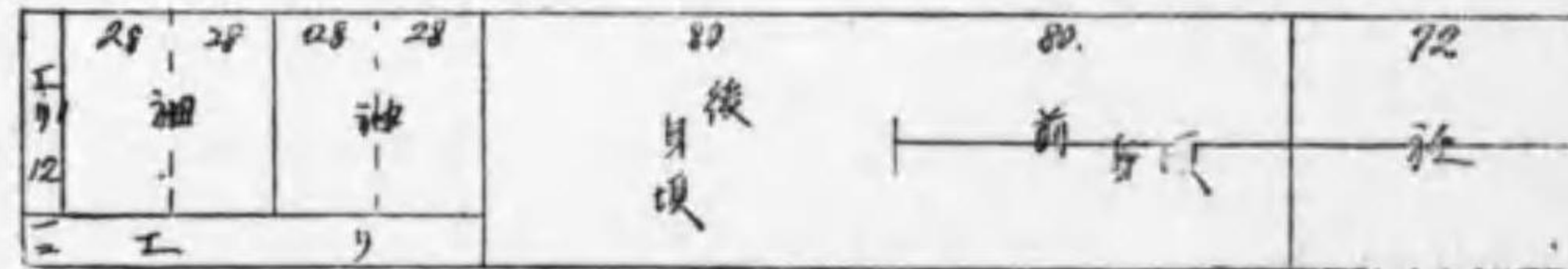
袖丈×4+身丈×3-衿下=總用布

28×4+96×3-8=392cm

(總用布-袖丈×4+衿下)÷3=身丈

(392-28×4+8cm)÷3=96cm

並幅350cm(約9尺4寸)の布を以てネンネコ表の裁方



袖丈×4+身丈×3+衿接切-衿下=總丈

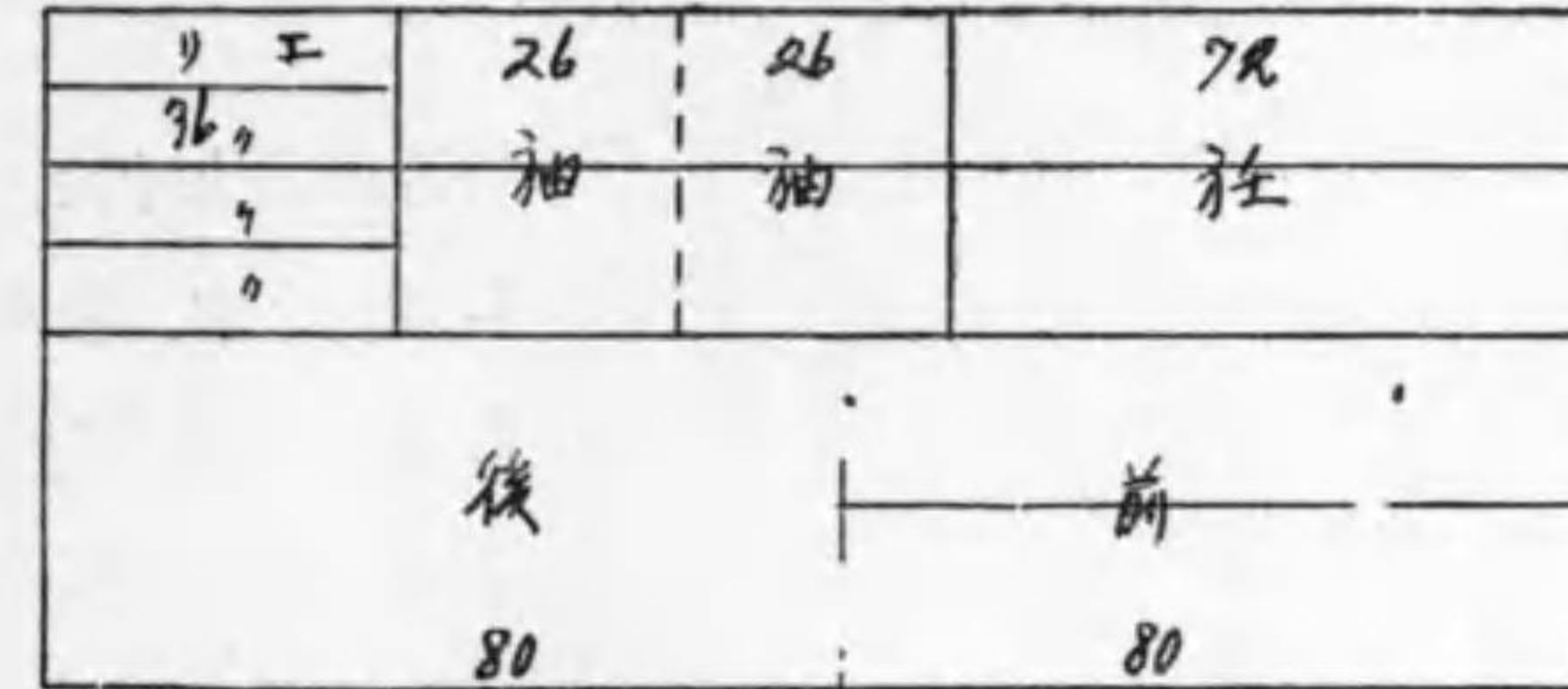
28×4+80×3+12-8=356cm

{總丈-(袖丈×4+衿の足切)+衿下}÷3=身丈

{356cm-(28×4+12cm)+8cm}÷3=80cm

此の裁方は袖幅廣く都合よろしけれど衿丈短かき故布の端より横切を取りて下前の衿先きにつぐ。

二幅物160cm(4尺2寸5分)を以てネンネコの裁方



積方

身丈+2=用布 80×2=160cm

此の裁方は掛衿にて隠れ得れども衿の接3箇所もあるが缺點なり

標入方

袖夜着に準ず縫なきを以て仕上袖丈を袖附の寸法とす。表裏袖附の差は綿を厚く入るを以て五ミリ裏を短くす。

身頃は一ツ身綿入と同様幅一ぱいになりて裏は出襷の多き丈の相違其他は一ツ身綿入と同様。

仕立方

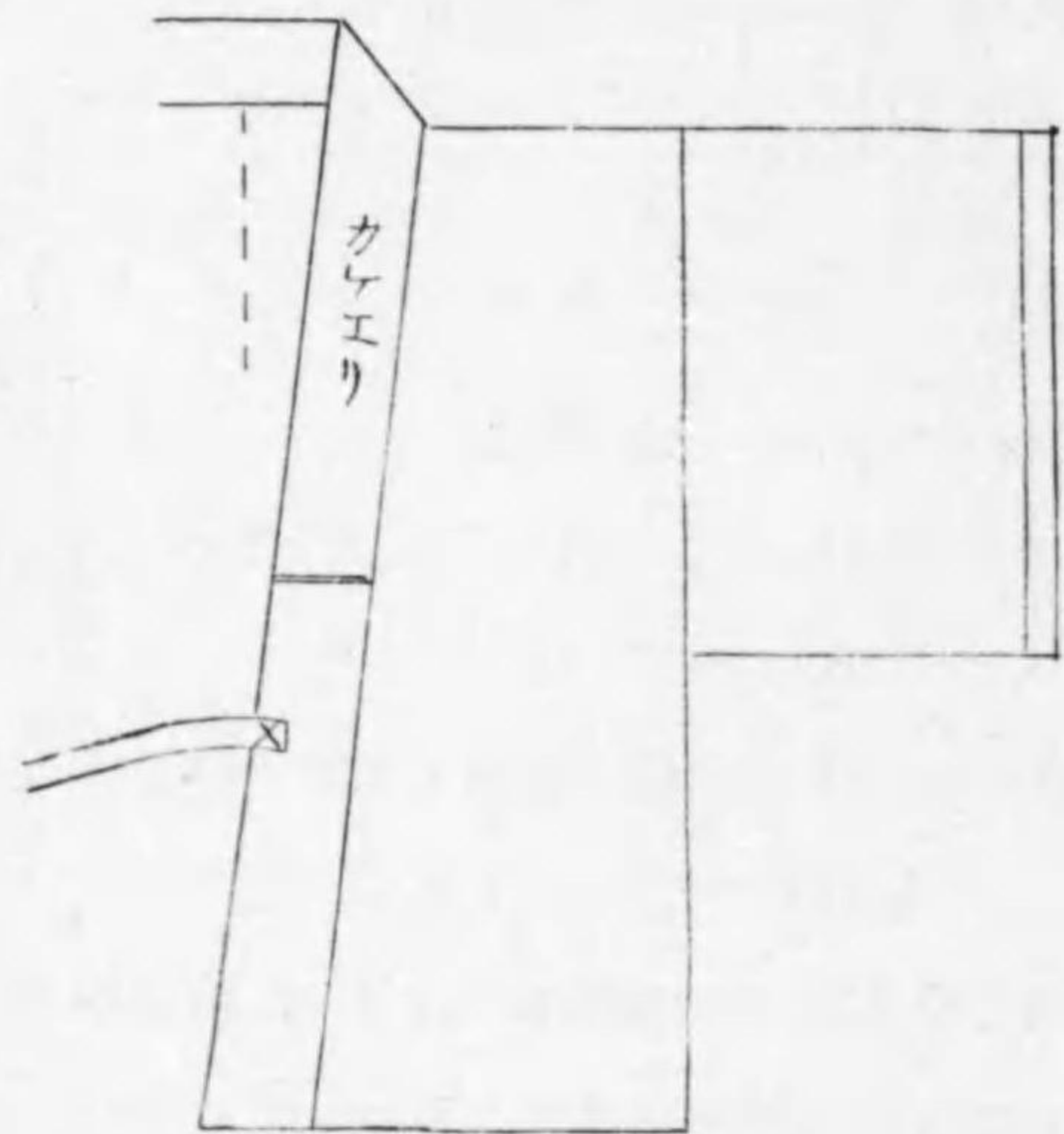
袖夜着に準ず綿の分量少なくして入れ易きを以て普通着物の如く袖は袖口を表裏縫合せ2mmのキセをかけて表に返し袖下を縫ふ。

身頃は表裏とも脇衿と順序の如く縫ひ裾を縫合せて(裾出襷多き故襷は作らず)袖附をなす折は表は袖に裏は身頃に返す。

綿の入方は一ツ身綿入方と同様故省く。

飾り綴の仕方は一定せざれども大抵綴の間は 20cm乃至 25cmにして綴目を相互に肩山より前後裾口へ向つて綴行く。

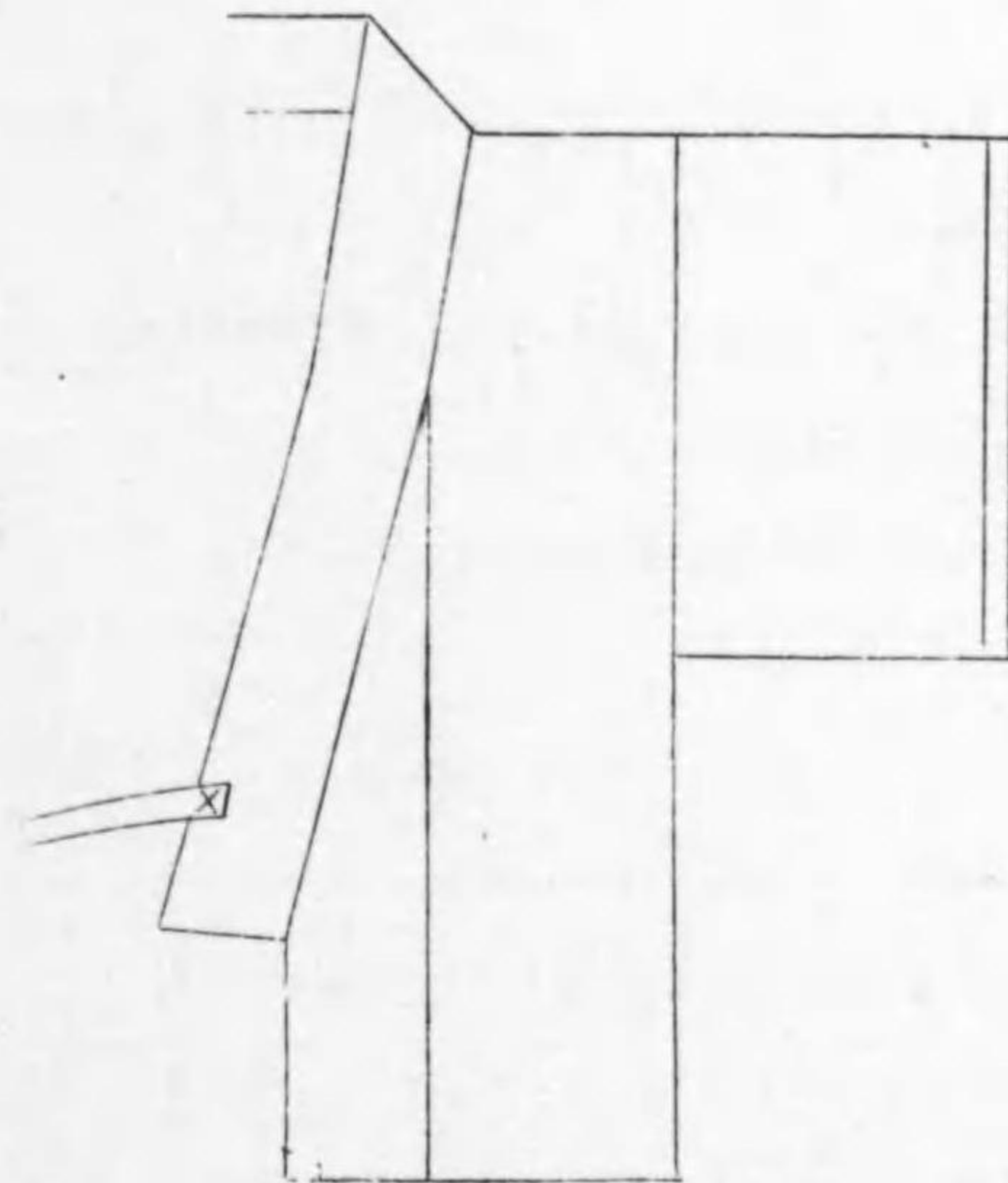
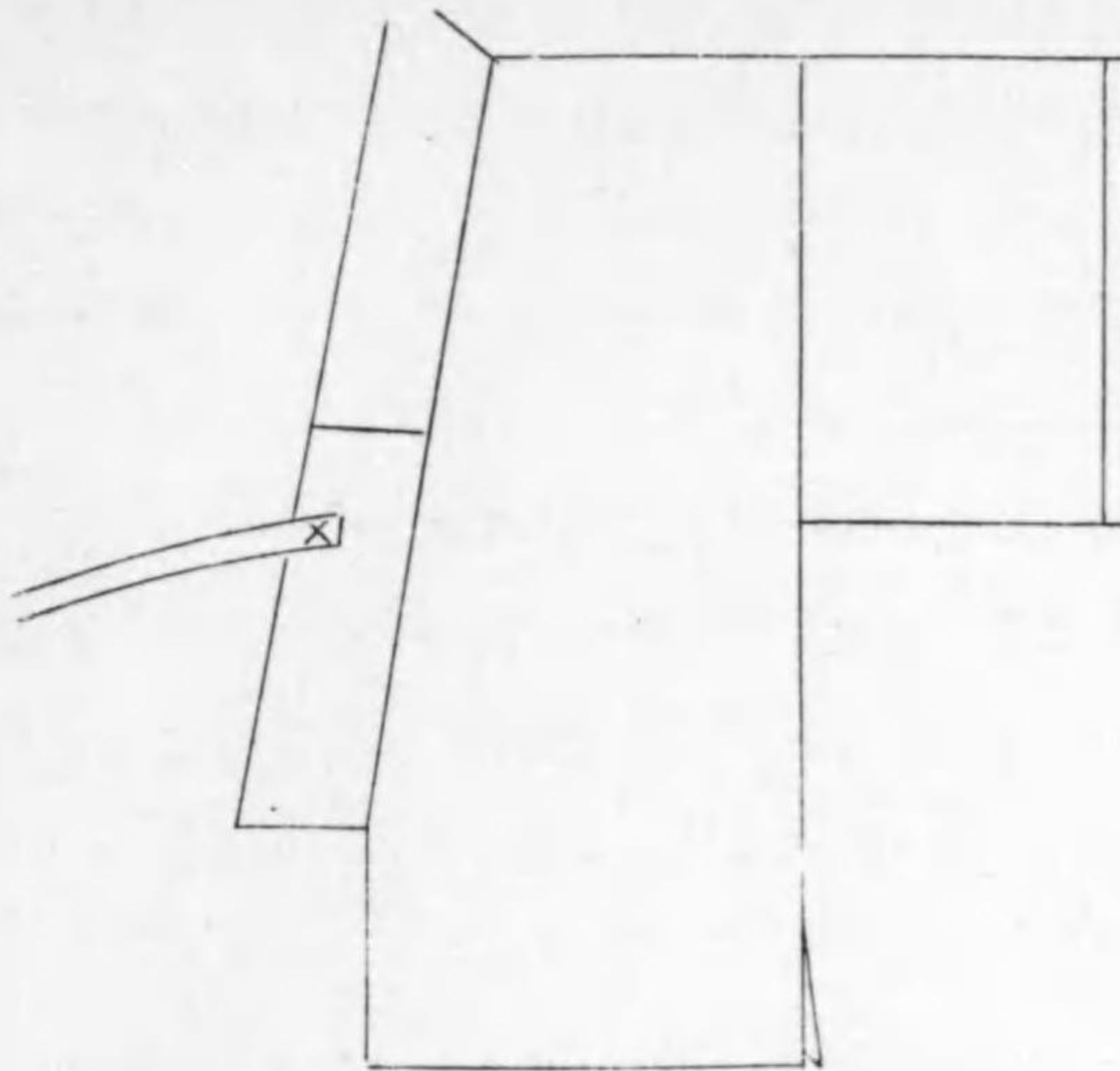
第三節 子守袴纏



普通仕立上寸法

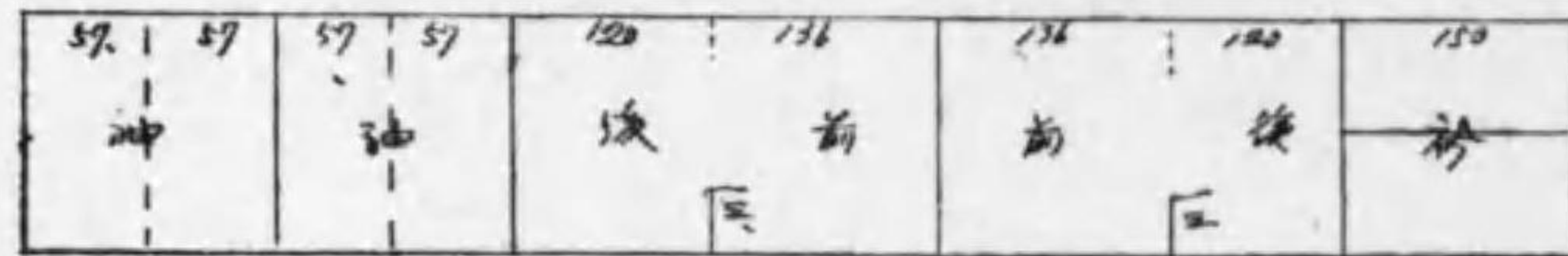
- 1. 袖 丈 52cm内外
- 1. 袖 幅 32cm
- 1. 袖口出衦 8mm
- 1. 身 丈 100cm 内外
- 1. 衿 肩 明 13cm
- 1. 身 幅 前後共一
ばい
- 1. 馬乗あける時は13cm
内外

- 1. 衤を附ける時は 衤幅15cm
- 1. 衤を附ける時は 衤下り肩明より23cm
- 1. 衤を附ける時は 衤下28cm内外
- 1. 衤 幅 11cm
- 1. 附 紐 4本 幅4cm以上丈30cm紐幅廣くする程丈長く要す
- 1. 掛衤丈 130cm内外
- 1. 綿の厚さ 100匁3枚作りのもの2枚通り



裁方及び積り方

並幅 890cm (2丈3尺5寸) の布をを以て子守袴纏の裁方



身丈標附 身丈を100cmとして計算す。

袴丈は出来上り身丈に袴肩明の寸法と袴先きの縫代と前布を後へ繰越しの分を加へたものにて春縫目にて天接ぎになす。

又は身頃裾の返りと同寸にして裏に返してもよし。

積 方

袖丈×4+後身丈×5+前後の差×3+14cm=總布丈

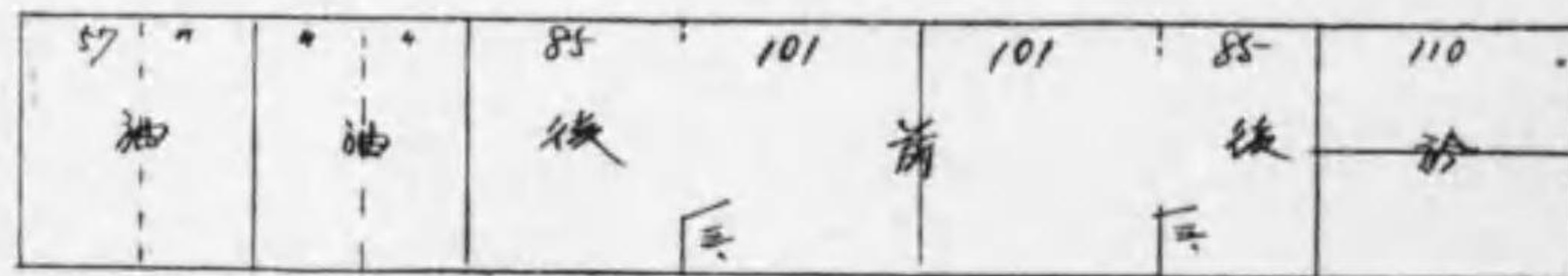
57×4+120×5+16cm×3+14=890cm

裏 の 積 方

裏袴を要する時は並布幅の3分の1幅にて足れども接目二つあるを嫌ふ時は半幅にして廣きだけ折込む。

裏袴丈は表袴の裾にて裏に返る時は返るだけ表袴丈より短かく袴先を縫ふ時は表袴丈に等し。

並幅710cm(1丈8尺7寸)を以て同上裏の裁方



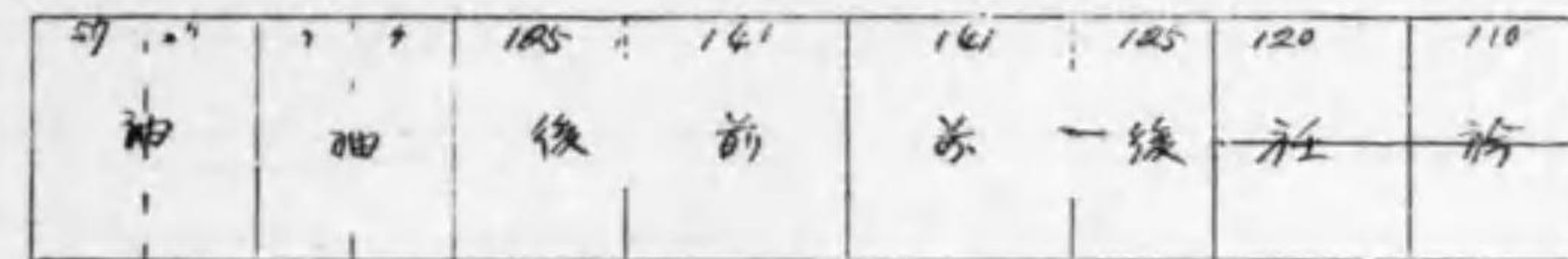
袖丈×4+身丈×4+前後の差×2+袴布=總丈

57×4+85×4+16×2+110=710cm

衤附袴纏は幅を最も多く要すれども前幅廣くなり袴下を作りて前

幅の打合せの工合よく春に負ふ子供の稍大きなる時は都合よろし

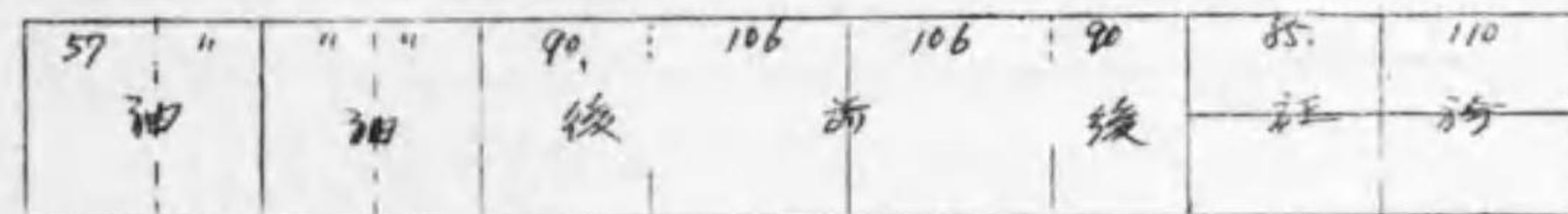
並幅 990cm(0丈0尺0寸)の布を以て衤附子守袴纏の裁方



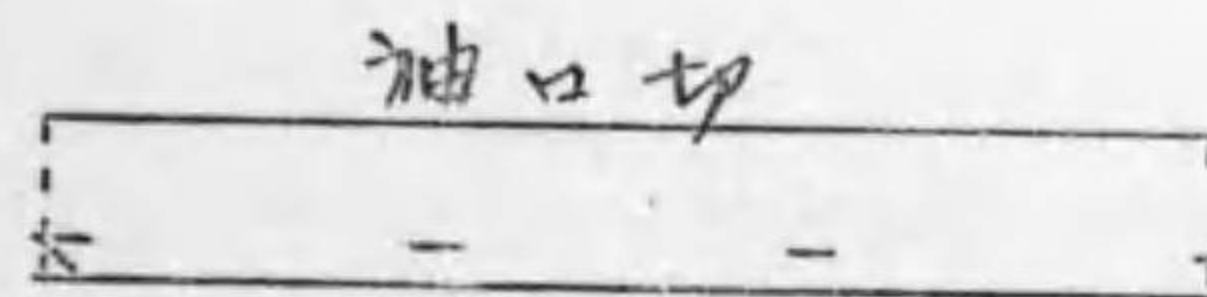
袖丈×4+裁切後布丈×5+前後の差×3-衤下り+袴丈=總布丈

57×4+125×5+16×3-21+110=990cm

並幅815cm(約2丈1尺5寸)の布を以て同上裏の裁方



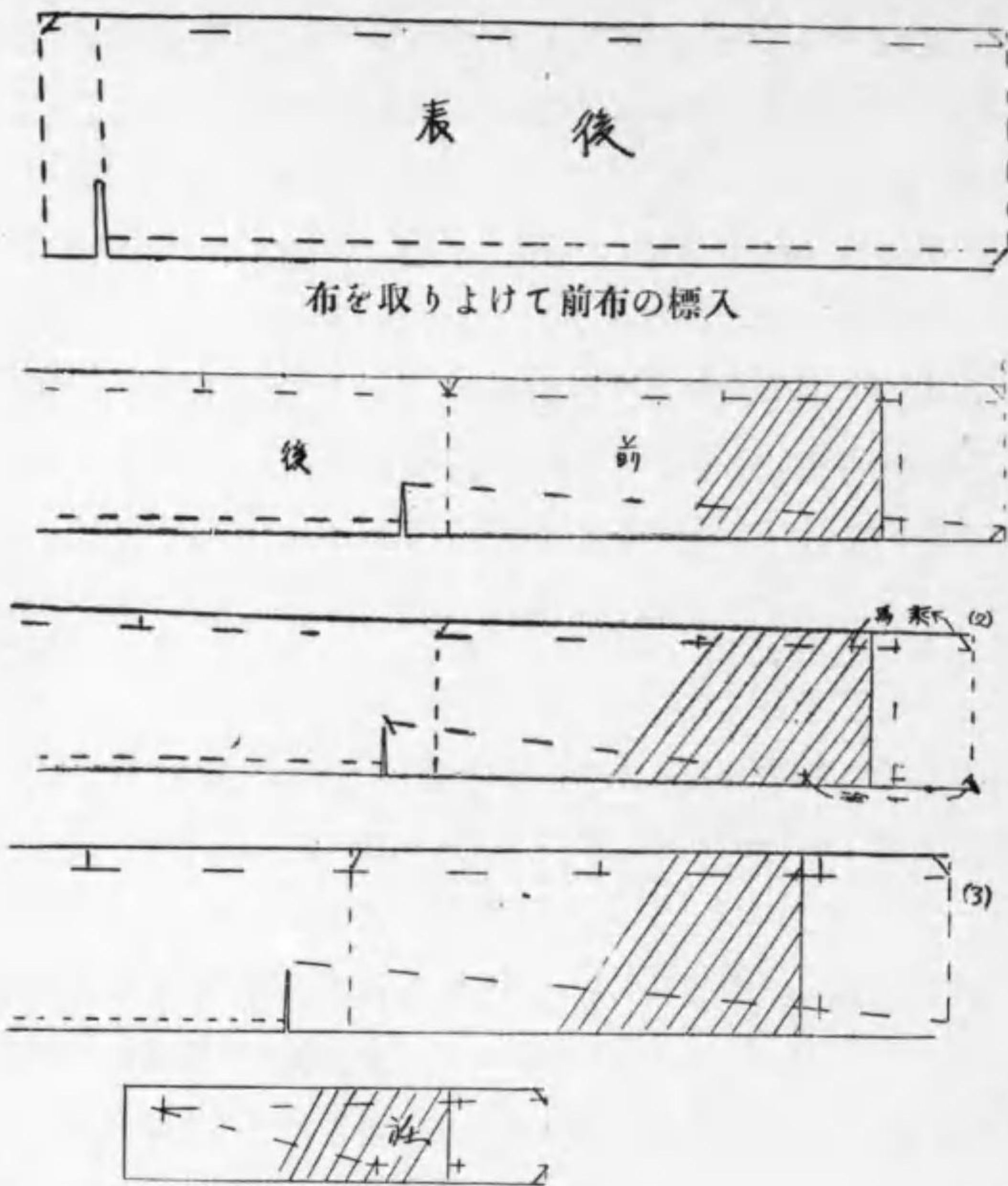
57×4+90×5+16×3-21+110=cm總布



標 入 方

裏袖丈は表袖丈より4mm詰め袖幅は表袖幅より袖口の出襷の2倍廣くなす。

身頃は下に表を置き肩山を定め身丈の標を入れ多き丈折返し其上に袴肩明きを揃へて裏をのせ針を打ち標の動かぬ様注意して最初定めたる肩山より折りて後身頃を上になす。(羽織の時と同様前裾に下りのないだけ)



仕立方

まづ標入より前に表裏共脊縫をなすはいつれの時も同様。

1. 裏袖口に袖口切を縫附 2mm のキセをかけて袖口布の方に折り布端の釣合をよくして襷をかける。袖下を表裏とも縫ひ 2mm のキセをかけ前袖に折る。
2. 袖口を表裏縫合せ 2mm のキセをかけて表布に折りをかけ裏の方より含み縫を綴ち附けて表より襷をなす。

3. 身頃表裏を合せ前後の胴接ぎをなす。(3) は衿の胴つぎもなす 2mm のキセにて裏へ返し襷をなす。
4. 表裏續けて脇縫をなす。(2) は馬乗も兩方縫ひて四ツ留めをなす。(3) は表裏續けて衿附をなす。
5. 衿附 (1) は下前裾山より脊をこえて上前の裾山まで (2) は下前衿下の標より脊を越えて上前の衿下標まで (3) は着物の如く下前衿の衿下標より縫初め剣先き經て脊をこえ上前の衿下までを縫ふ。
6. 表裏各袖附の留めをなし (2本の絲で留め1本は切り1本を續けて) 袖を附く表は袖の方に裏に身頃に折りを返す。
7. 綿入 (2) は馬乗に含み綿をなしのち全體の綿入にかゝる綿入方は男綿入羽織の綿入方に準ず。
8. 綿入終りて綿をよく落ち附かせまづ裾の假綴をなす。(2) 及 (3)



- は衿下の端を 5cm 程裏に返して縫ひ表に折りをつけて綿を含ませ表に返して衿下までよく綿を含ませて襷す
9. 衿綴をなし衿先を縫ひ衿先の留めをなし適宜衿に綿を入れて衿紵をなす。
 10. 飾綴まづ脊縫目より幅の中間さを綴目を相互にして大抵 20cm 乃至 26cm までの間隔を置きて縦横綴任意なれ

ども横綴になすこと多し綴糸の針目の大きさは2cm乃至2.5cmとす。

11. 袖口表襷より2cm入りたる處にかくし綴を入れる袖口の出襷の不揃を防ぐ爲なり。

12. 紐4本要す。

紐附の位置を定め下前の衿端と裏左脇及び上前衿端と右脇に強く體裁よく縫附後表より飾をなす。

第二十章 蒲 團

第一節 蒲團及び掛蒲團

普通仕立上寸法

敷 蒲 團

幅 並幅3布乃至4布

長さ 165cm乃至190cm(4尺3寸乃至5尺)

綿の分量 1貫200目乃至1貫500目

掛 蒲 團

幅 並幅4布半乃至5布

長さ 185cm(4尺9寸)乃至210cm(5尺5寸)

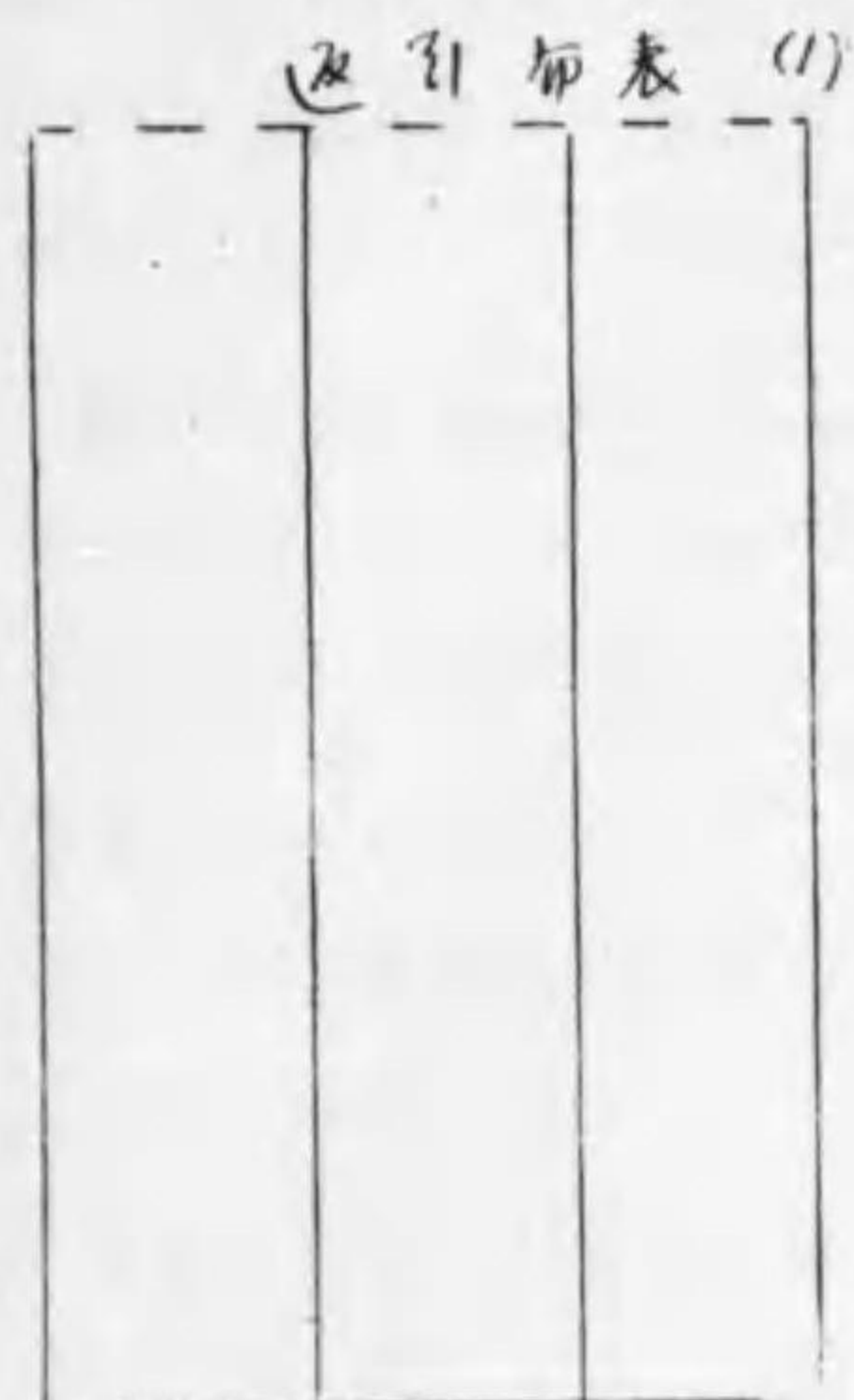
綿の分量1貫500目乃至1貫700目

綿の分量は普通の木綿綿を標準としたるものなれば絹綿バンヤ鳥の羽毛等を用ふる時はこれに依らざること勿論なり。

絹綿羽毛は軽くして温き故掛蒲團にはよろしけれど敷蒲團には用

ひず。絹綿は先づ木綿綿の6割位と見積りてよし。

羽毛は木綿綿の2割内外と見積りてよし。



用布の積方

敷蒲團には表の布を引返したるもの表裏突合はせに縫ひたるもの四方襷に縫ひたるものの3種あり。掛蒲團には表裏突合せに縫ひたるもの及び四方襷に縫ひたるものの2種あり。

何れも並幅物として計算す。

$$(仕上丈 \times 2 + 縫代 \times 2) \times 3 = 總尺$$

$$(180cm \times 2 + 2 \times 2) \times 3 = 1092cm$$

(2) 表裏共同寸

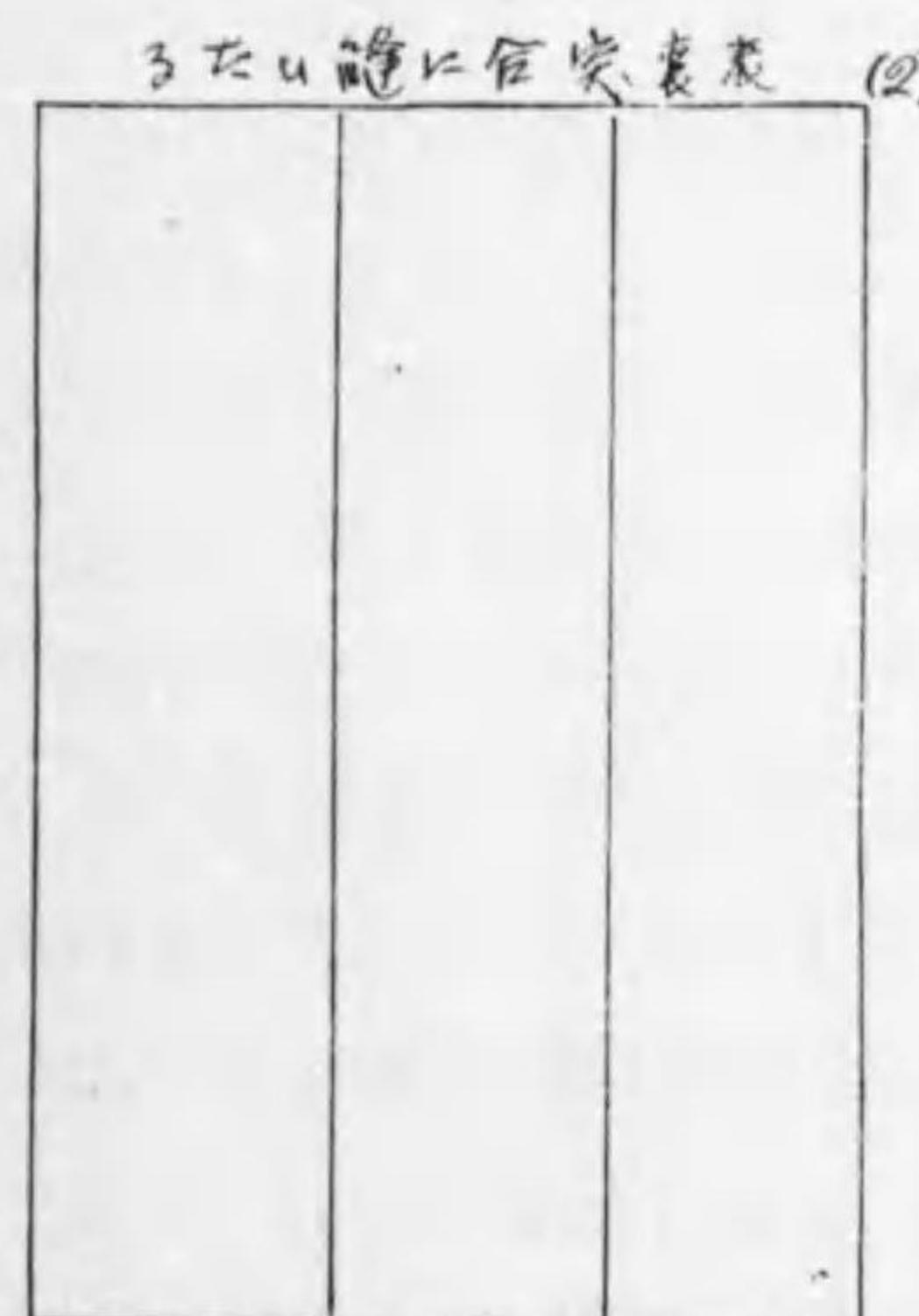
$$(仕上丈 + 縫代 \times 2) \times 3 = 總尺$$

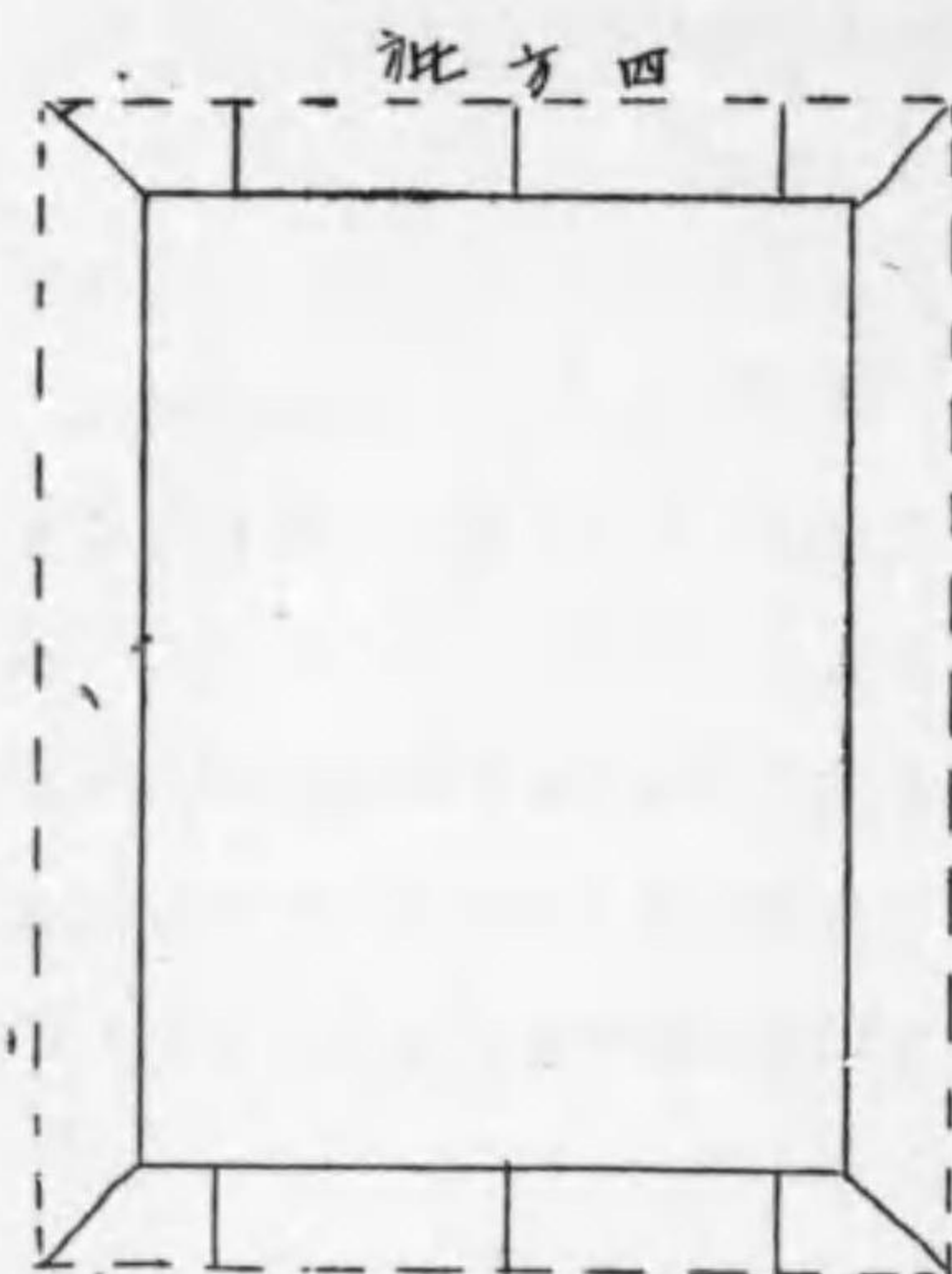
$$式(180cm + 2) \times 2 \times 3 = 552cm$$

掛蒲團は表裏共5布用ふ。

$$(205cm + 2 \times 2) \times 5 = 1045cm$$

(3) 表3布にて裏4布の時は1布の $\frac{1}{4}$ の出襷となる裏布幅表布幅より廣き時は縫合せたる總裏布幅より3布縫合せたる總表布幅を減じ残りの $\frac{1}{4}$ が出襷となるかくして幅に於ける出襷を計算し





てそれと同寸の出札を丈に出す
例へば今茲に出札を9cmとして
計算す。

$$\begin{aligned} & \text{仕上丈} - \text{出札} \times 2 \text{縫代} \times 2 \\ & \qquad \qquad \qquad \times 3 = \text{表總丈} \\ & \text{式 } (180\text{cm} - 9 \times 2 + 2 \times 2) \\ & \qquad \qquad \qquad \times 3 = 498\text{cm} \\ & (\text{仕上丈} + \text{出札} \times 2 + \text{縫代} \times 2) \\ & \qquad \qquad \qquad \times 4 = \text{裏總丈} \\ & (180 + 9 \times 2 + 2 \times 2\text{cm}) \\ & \qquad \qquad \qquad \times 4 = 808\text{cm裏} \end{aligned}$$

掛は仕上丈を 205cm内外とし布数は表 4 布或は 5 布とし裏を 5 布
或は 6 布とす。

$$\text{表 } (205 - 9 \times 2 + 2\text{cm} \times 2) \times 4 = 764\text{cm}$$

$$\text{裏 } (205 + 9 \times 2 + 2\text{cm} \times 2) \times 5 = 1145\text{cm}$$

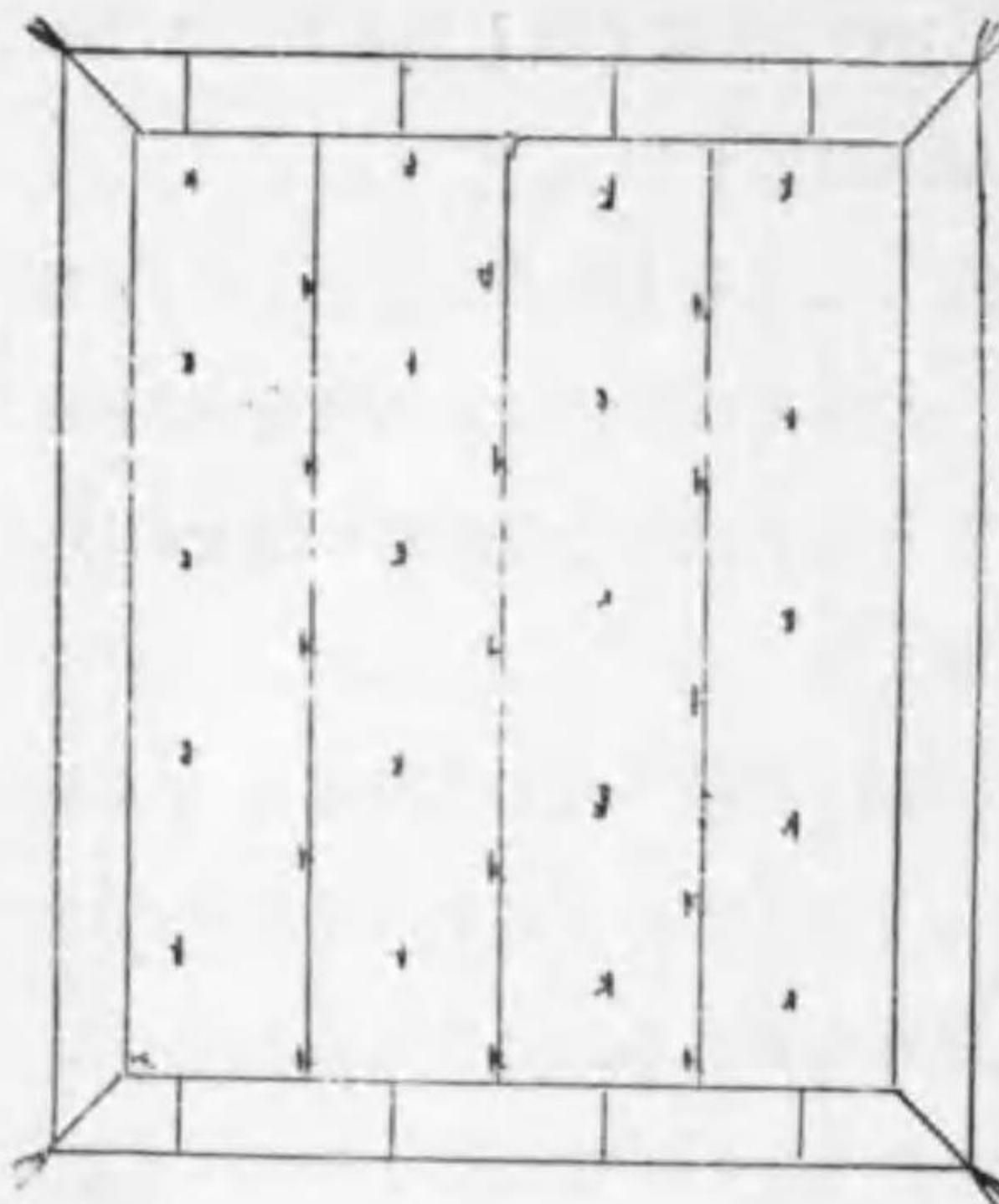
仕 立 方

(1) 表布引返及び(2)表裏突合せ縫は殆ど説明を要する所なきを
以て四方枕鏡蒲團とも云ふの縫方を記す。

1. 表各布とも丈及び幅の標をなし縫合せ 2mm のキセにて左右何れ
とも同じ方向に片返しに折りを附け縫目には襷或は隠襷をなす。
2. 裏各布の標をなし縫合せること表と同じけれど折りは表と向き合
ふ様に返す中央にて綿を入る所 130cm内外縫残り明け置く縫目
には隠襷又は襷をかく。
3. 表裏とも丈幅の中央を標しその中央同志合せ針を打ち四方を縫ふ

此の時四角の端の表の標より 2mm手前にて返し留めをなし 2mm
のキセにて表に折りをつけ隠襷又は襷をかく。

4. 裏中央明け置きて大きく假縫をして表を上になりに正しくひろげ落
付かして角を縫ふべき折りをつけ其の折りの 2mm 内を針目殊に
細かく縫ふ縦に折りをつけ縫込みを折返りして綴附け襷をなす裏
布綿入の爲に明けたる所の假縫を解く。
5. 綿入 表を上になりに廣げ最初の綿 1 枚は 4 方とも布端より 30cm
ばかり出し 2 枚目よりは布端より 5cmばかり出す (綿の厚さに依
り一定せざれども) かくして幾枚も重ね最後の 1 枚通り残して 4
方に 15cm 位幅の芯綿を布端を中央にして重ね上より壓へて綿を
落付かせ布端より少し大き目に全部綿を折返す。四角の重なる所
は程よく綿をへぎ取り他の部と原さの變らざる様整へ其上より 1
枚通り綿を重ね四角及び縫目、縫目なき所は凡そ 40cm 内外の間
隔にてその丈及び幅を等分したる所に引絲をつける綿の裏方は 1
枚毎に向をかへ縫ぎ目の同じ所にならぬ様注意を要す。
6. 四角の端よりくるくると中央に向つてまきなるべく形を小さくし
て裏の明けたる所より返す。
7. 引絲を出して全部に工合よく綿を落付かせ後明けたる所を小針に
紵ける。
8. 綴は縦綴になすの二法あり縦綴は縫目を綴ぢ得て使用の場合よき
得點あれど掛蒲團は使用の場合絲の引方同様ならず故に布の保存
上些劣る所あるらし横綴は縫目を中心として綴づるを以て表裏の
縫目正しく綴づること縦綴に劣る。使用の場合足指のひつかかる
等云へどもさしたる大いなる縫目にもなく又大抵カバーをかく



るを以て使用上不便を感じる
こと少し故に縦横何れにても
差支へなし。

綴糸は4方批にても批には出
さず 綴目の間隔は大抵 25 cm
位表の縫目と布幅の中央とを
相互針目の揃はぬ様なすを普
通とす。

表布廣物の時はその標準にし
て適宜見苦しからざる様にな

す。

四角に裝飾兼用の引糸をつくるを普通とす。

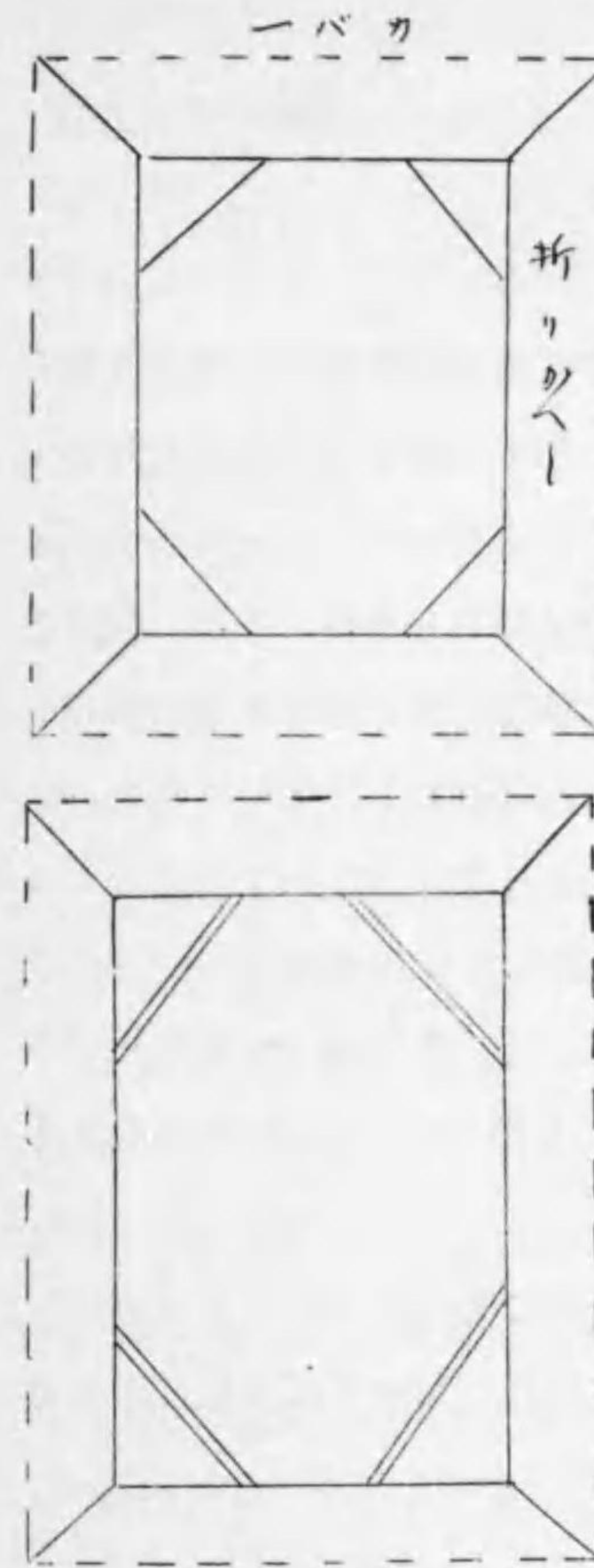
綴糸の針目は綿の厚さに依り多少差あれども 3cm内外とす。

○掛衿 冬期用には首あたり温き故を以てピロードの類を以て掛衿
となすこと多けれども衛生上好ましきにあらず。屢々洗濯なし得
て常に清潔を保ち得る白布の類をよしとす。

○3幅物の半幅(並幅物にて云へば一幅半となる)位の幅をよしとす
長さは蒲團の全部ありてもよし兩端少しづゝあきてもよし表には
20cmばかり返しあど全部裏になし表裏とも丁寧に縫つく。

第二節 附 記

○蒲團カバー敷蒲團には全面敷布を被ふを以て態々カバーの必要な
けれども掛蒲團は4方とも白布を縫すれば使用上不便なりさりと
て4方を縫附る時は取り外し稍面倒を感じ洗濯も怠り易きを以て



カバーを用ふること極めて便利な
り。

○その作り方はカバーをかけんと
する蒲團の丈幅に 40 cm 位宛長
くして廣きものを作り布の耳な
らざる時は細く三ツ折り縫にな
し蒲團の大きさより少し大き目
にして4方を揃へて裏に折返し
四角を縫ひ更に其の縫ひたる四
角に 40 cm 位を底邊とする直角
3角形の布を縫附く。此の底邊
が裁目の時は縫附るより前に三
ツ折り縫になすこと勿論なり。
此の3角形の代りに布 2cm位の
堅牢なるテープを以て渡しとす
ることあり。何れにても使用に
際し蒲團の外れ易きを防ぐにあ
り。

○夏蒲團 敷蒲團は冬用と大差なし掛蒲團は形も小さく綿も遙かに
少し。一定せる寸法なく各自好みによれど幅は表3布に裏4布長
さは 150cm(約4尺)乃至 160cm(4尺2寸)餘のもの多し。綿は
1500 グラム (400匁) 内外とす。

第二十一章 蚊 帳

第一節 蚊帳の積り方及び挽蚊帳

蚊帳は本麻にて作るをまづ上物とす。綿麻交織本綿に擬麻を旋したるもの多し。極上物には透綾、紗を以て作れども普通には用ひず近年は巧妙に綿紗を以て作られたるものもあり。

緑の布には紅麻綿更紗緋金巾を用ひ上物には紅絹、縮緬、緞子等も用ふ。従來は裾口に金巾類上物には緑布と同じ布を横布に付けしが近頃は蚊帳の丈を長くして此の裾口布は附けること殆どなし。

蚊帳の大きさは縦横の布数によりて表はす。それが丁度室の大きさに相當す。五六(1人寝の最も小さきもの)、3疊釣六八、4疊半釣七十、八十、8疊釣と云ふが如し。丈は高く釣りて尙裾に引きづる餘裕を要する故に小さきものにてても210cm(5尺5寸)大きなるものはそれ以上となさざるべからず。

縫目なしの蚊帳といふは蚊帳の丈を幅として織りたる大廣幅物にて作る故に周圍に唯1箇所の接目あり家庭にて取り扱ふ品にあらず用布の積方 八六の蚊帳につきて説明すれば

$$(6+8) \times 2 = 28\text{cm} \text{ 周圍の布數}$$

$$215\text{cm}(5\text{尺}6\text{寸}5\text{分}) \times 28 = 6020\text{cm} \text{ 周圍に要する總尺}$$

(159尺)

$$\text{天井の積方布幅}38\text{cm}(\text{約}1\text{尺}) \text{と見なして } 38\text{cm} \times 8 = 304\text{cm}$$

(約8尺)

$$304\text{cm} \times 6 = 1824\text{cm} = \text{天井の總用布}$$

周圍の總丈+天井總丈=蚊帳地總用布

$$6020\text{cm} + 1824\text{cm} = 7844\text{cm} (207\text{尺})$$

綠布 スルメ 四天 紐隠し乳等

綠布は長さ蚊帳の周圍の長さに縫代を加へたるもの

幅 9.5 cm 蚊帳1張りを作る時は組合せなし難き故に幅廣き並幅物の4分の1幅となす。

中釣紐隠し 長さ32cm内外

4角紐隠し 長さ30cm内外 幅11cm内外

中釣のスルメ 70cm内外を底邊とせる直角3角形

4角のスルメ 並幅を底邊とせる直角3角形

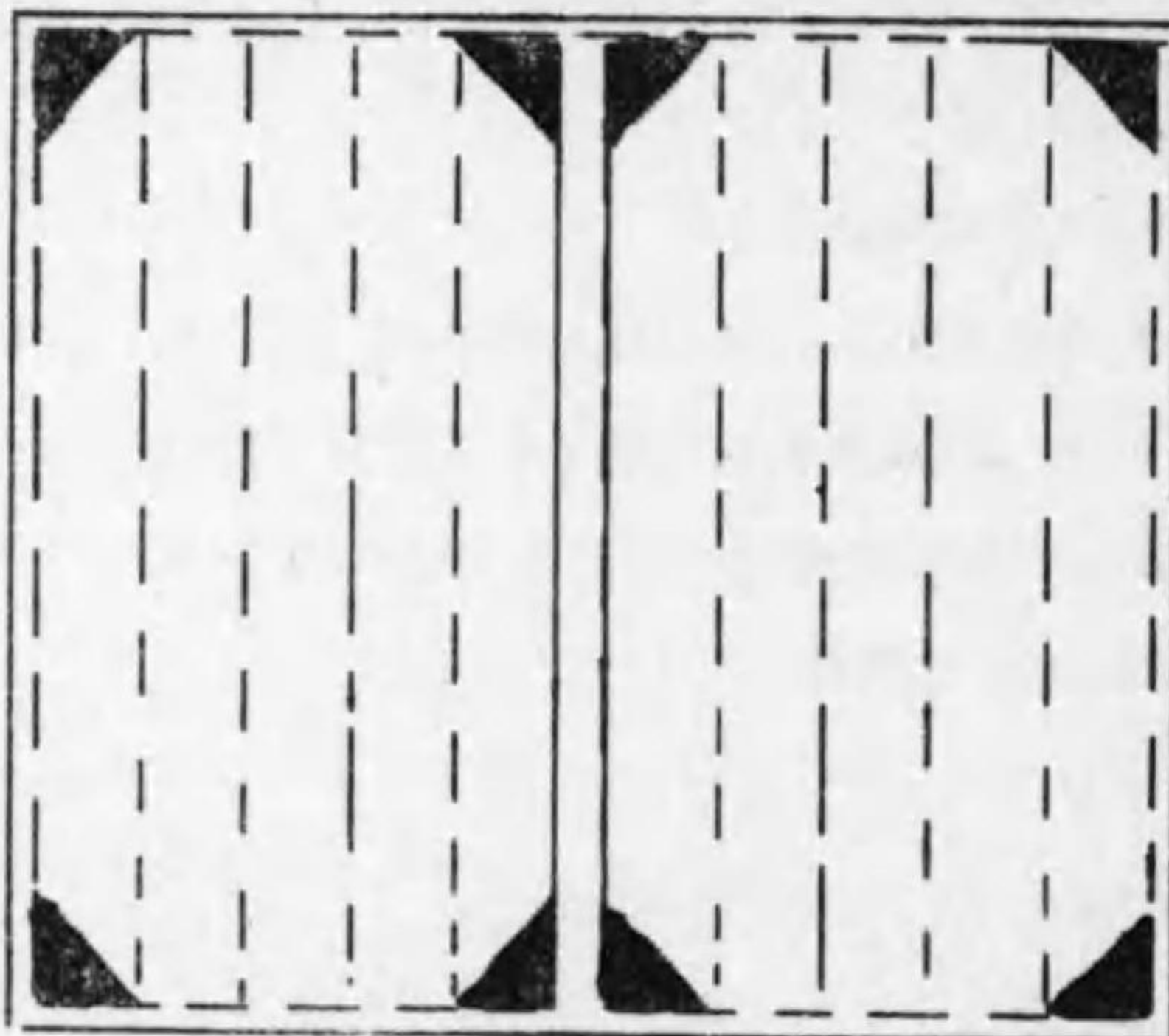
乳 長幅ともに6cm内外

仕 立 方

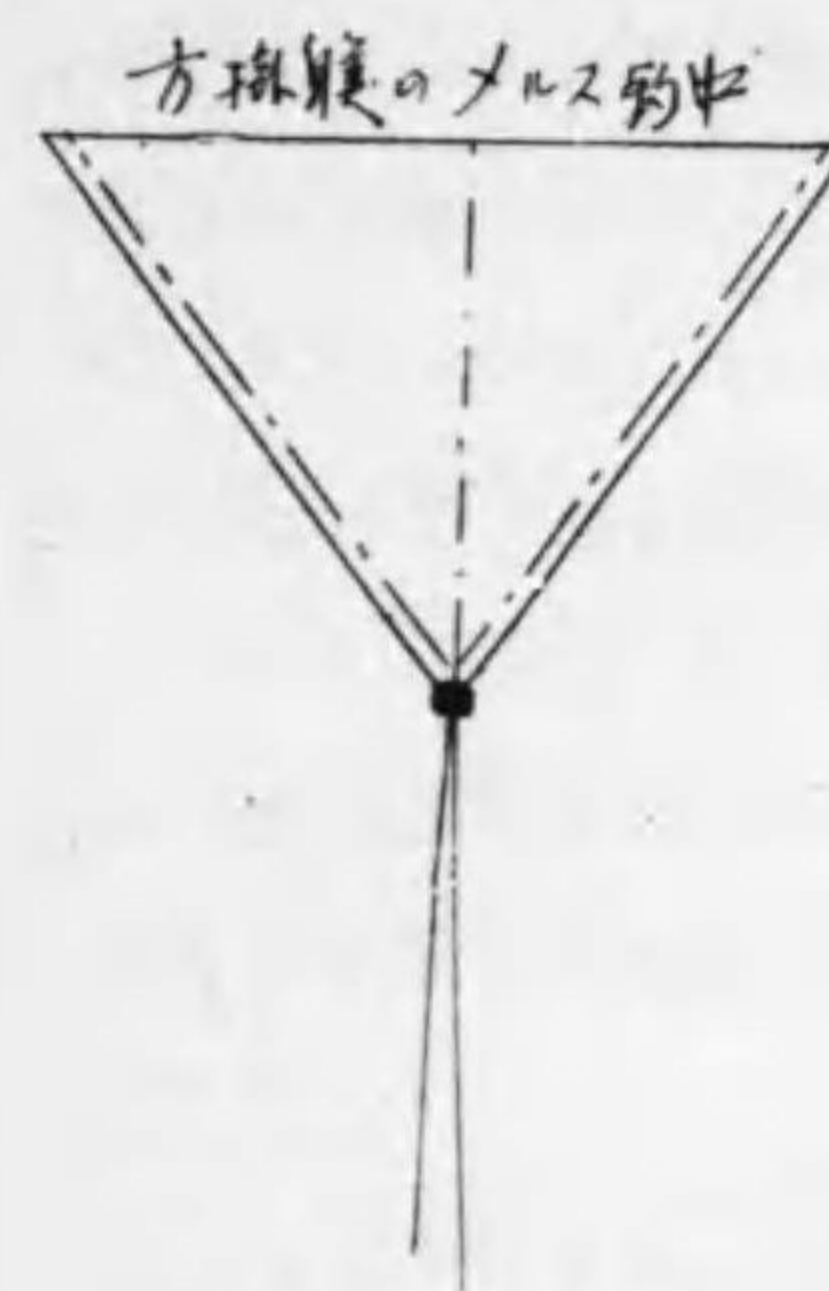
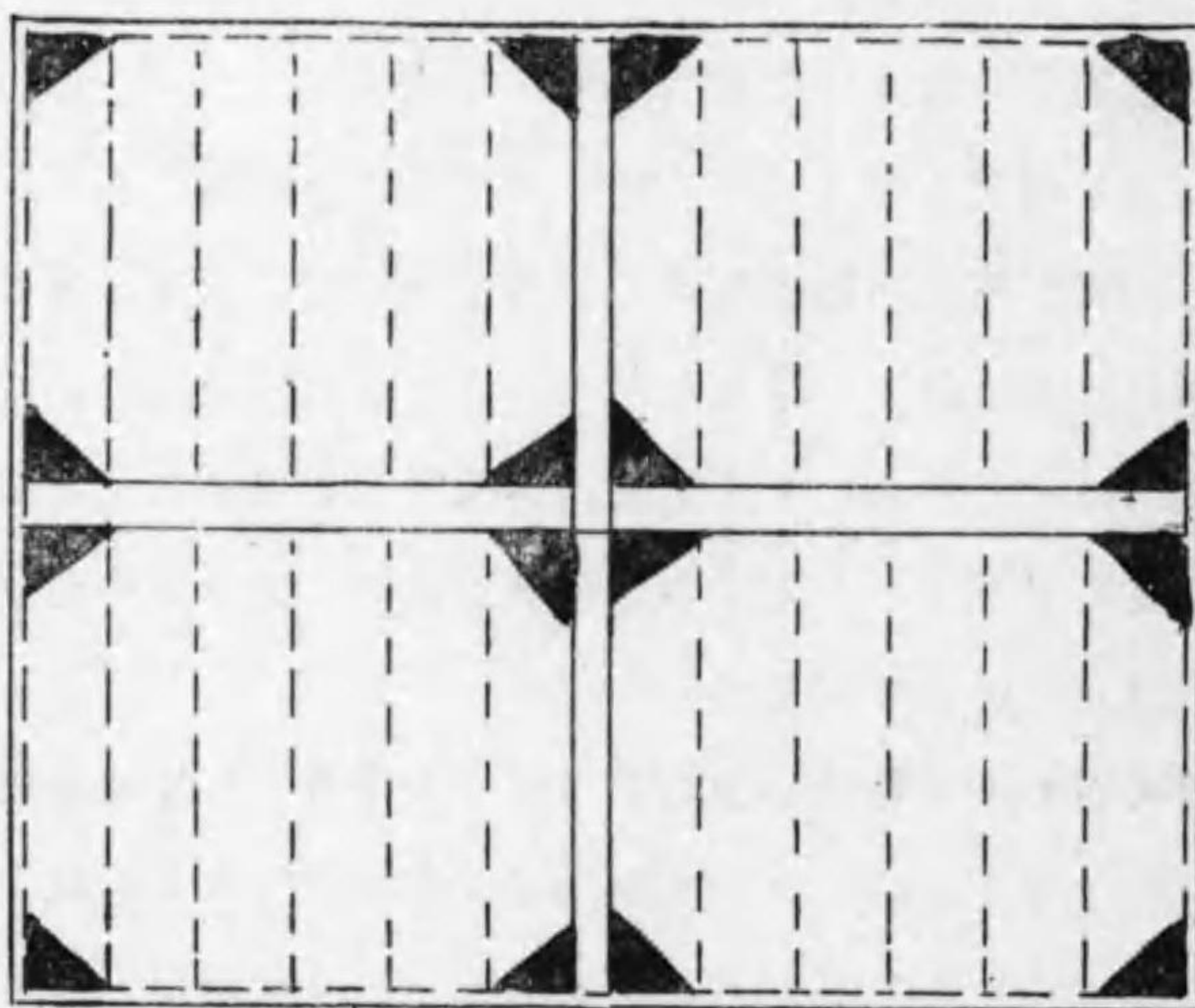
- (1) 乳を新ける仕上幅2cm長さ6cm
- (2) 周圍の布を縫合す。此の際4角に當る4箇所には仕上裾山より4cm上に乳を狭みて縫ふ折りは全部同方向につける。
- (3) 裾を三ツ折に新す。
- (4) 天井を縫合す折りは全部同方向につける。
- (5) 天井布に四天を附る 天井布にへりきれを縫附てる時要する(1.4cm程)縫代の加減を見て丁度よき位置に附る。表に返して斜邊には2本糸にて襞を直角の2邊には假襞をなす。(大なる蚊帳の時は天井布に1文字或は10文字とし並幅の三ツ割幅の布を付ることあり。1文字の時は4天を更に四ッ附10文字の時はその上更に四ッを附る。)
- (6) 周圍の布の上4角及び中釣をなすべき中央に仕上綠布幅の加減を見て丁度よき所にスルメを附る4角は表より2本糸にて襞をなし中釣は左右2邊の襞と中央の襞を合せ糸を長くして裝飾を

なす。

一文字



十文字



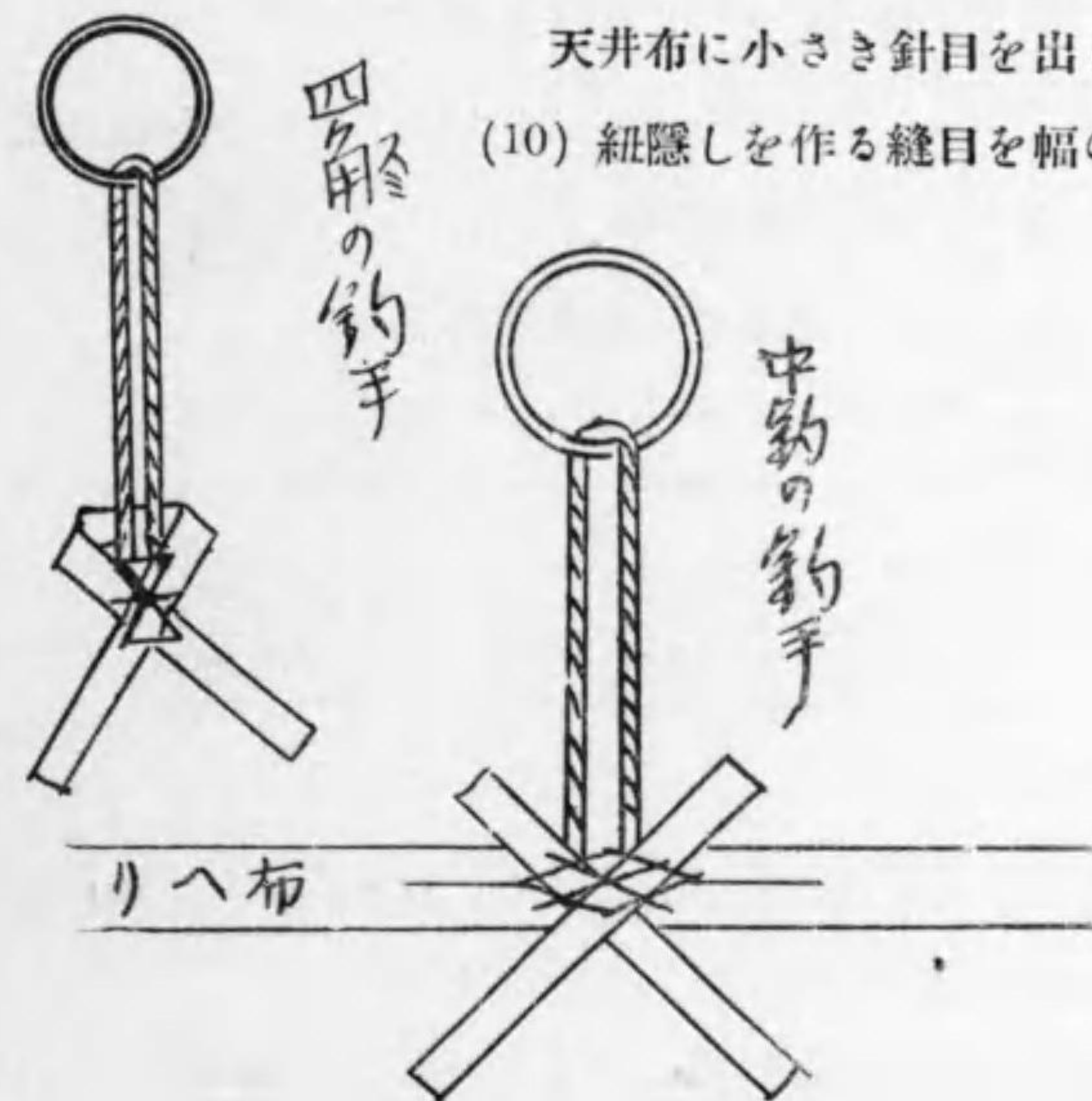
中央大針 3針
左右大針 4針



(7) 天井布に縁布を縫附く裁切縁布幅より縫代及び拵代を減じ残りの幅のみを天井にきを周囲の布となす。4角は工合よく角に縫ふ。

(8) 天井布と周囲の布との表を外にして縫合す。縫代の布端に緒紐をマツリつける。

(9) 縁布を周囲の布に拵附く。此時4角の8布の角によりたる半幅だけは周囲の布にのみ拵につくれども其他は周囲の布を通して天井布に小さき針目を出して拵け附る。



(10) 紐隠しを作る縫目を幅の中央にて開き幅の両端を輪となす。

(11) 釣手紐に金輪を通し(紐の長さ38cmその二ツ折)紐隠しにしてかくるゝ部紐隠しの上

に12cm出す故に下部6cm程の紐を2本糸にて丈夫に綴ち附更に
其の紐を紐隠しの布に綴ち附シツカリなし置くそれを4角に新
附最後表面に飾縫をなす。

幅釣も同様なれど中紐隠しを2枚にて組合す而して飾縫を丁寧
に大柄に用ふ。

(12) 蚊帳の長き方を外に狭き方を内に 畳み込み 裾の乳を揃へ正し
く引張り更に二ツに折りて乳を四ツ重ね適宜の大きさに畳む。

枕 蚊 帳

晝間小兒を寝かせる時蚊或は蠅の煩を避ける爲用ふるものにして
布数は縦を3布横を2布とす丈は50cm位にてよし天井は仕上布
幅の3倍に縫代を加へたるものを2枚要す。

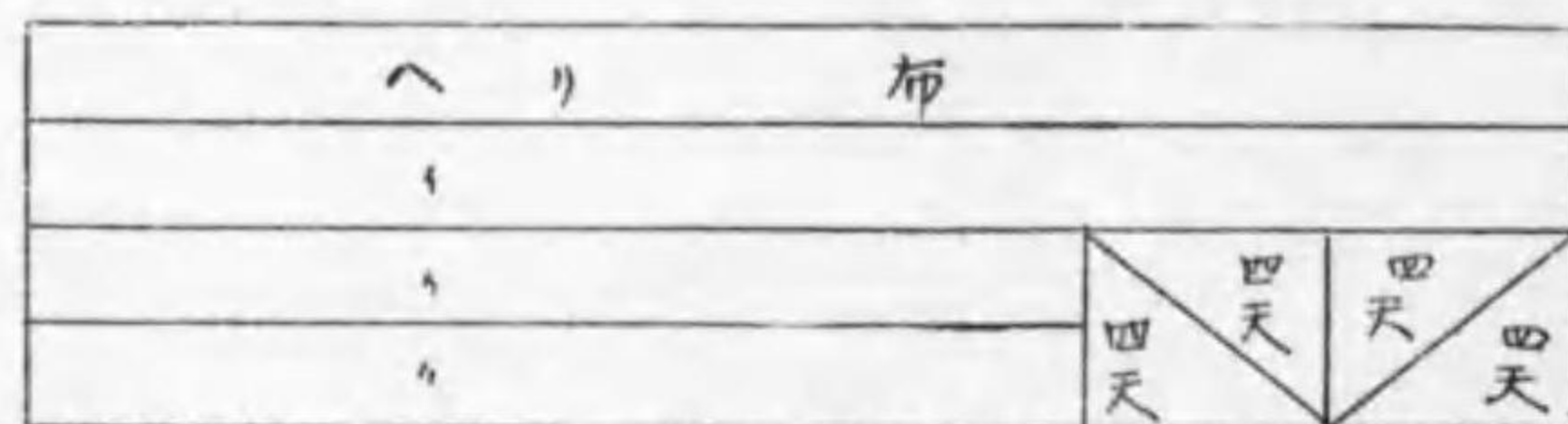
$(2布 + 3布) \times 2 = 10布$ $50cm \times 10cm = 500cm$ 周囲に要する總丈

$(34cm \times 3 + 2) \times 2 = 208cm$ 天井に要する總丈

$500cm + 208cm = 708cm$ 全部總用布

縁布幅 蚊帳に同じ。即ち裁切5.5cm

四天 同上 即ち半幅を2邊とせる直角3角形



仕 立 方

(1) 周囲の布を縫合す折りは蚊帳と同じく上を右手に持ちて前に返
す。全部同じ。

(2) 裾を三ツ折縫になす。

(3) 天上布を縫合せ折は左右何れにてもよし。

(4) 天井布に四天を附く方法は前に同じ。

(5) 天井に縁布を附く方法前と同様。

(6) 天井と周囲とを縫合せ其の端に緒紐をマツリ附く。

(7) 縁布を周囲の布に縫け附く方法前と同様。

使用の時は太き針金にても又竹を曲けてもよし高さ49cm縦102cm
橋68cmの4角に作りたるものに上よりかぶせて用ふ。

第二十二章 股 引

第一節 男 物 股 引



普通裁切寸法

脇丈80cm 裾の切上2cm

胯下55cm

裾裏丈9.5cm

胯上25cm 前腰幅23cm

裾口幅31cm 胴廻丈62cm

胴廻幅 前9cm 後32cm

腹巻きの長さ 112cm

同 幅 端15cm

中央17cm

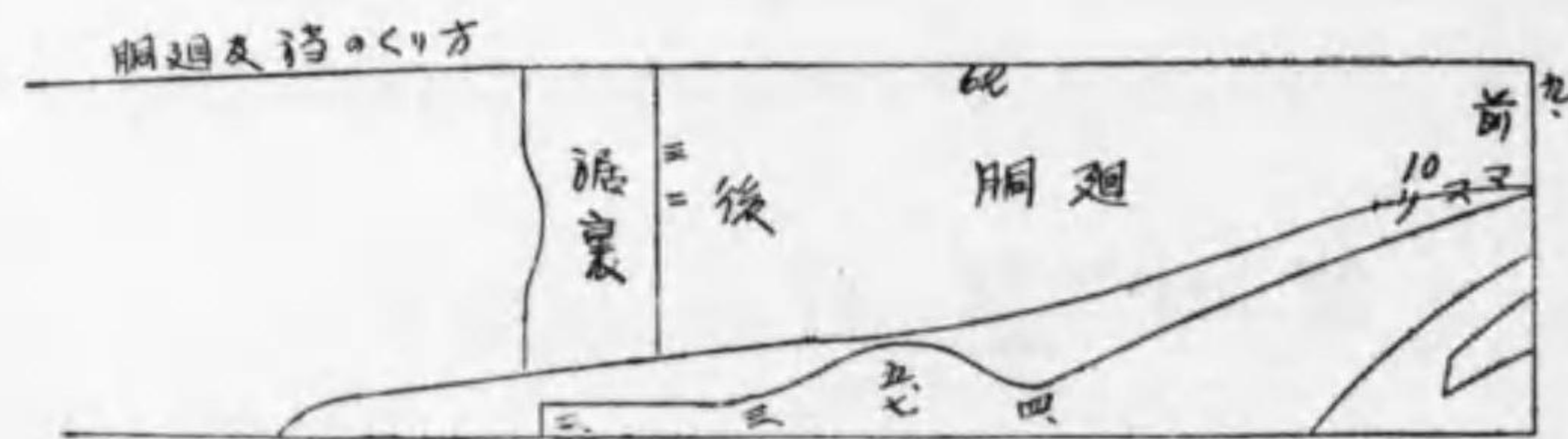
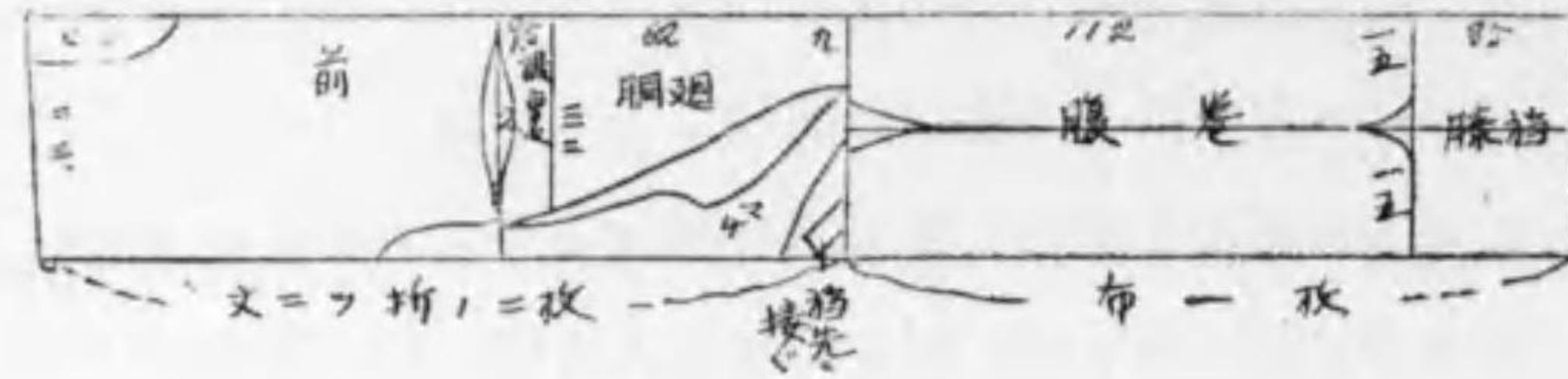
腹巻は裕とす

紐丈50cm 2本 同幅 6cm 膝當布 丈35cm 幅半幅

マチのふくらみ中央裾より 24cm幅5.7cm

裾の膝裏の中央裾より 32cm幅4cm

並幅450cm(1丈1尺8寸6分)を以て腹巻附男股引の裁方



仕立方

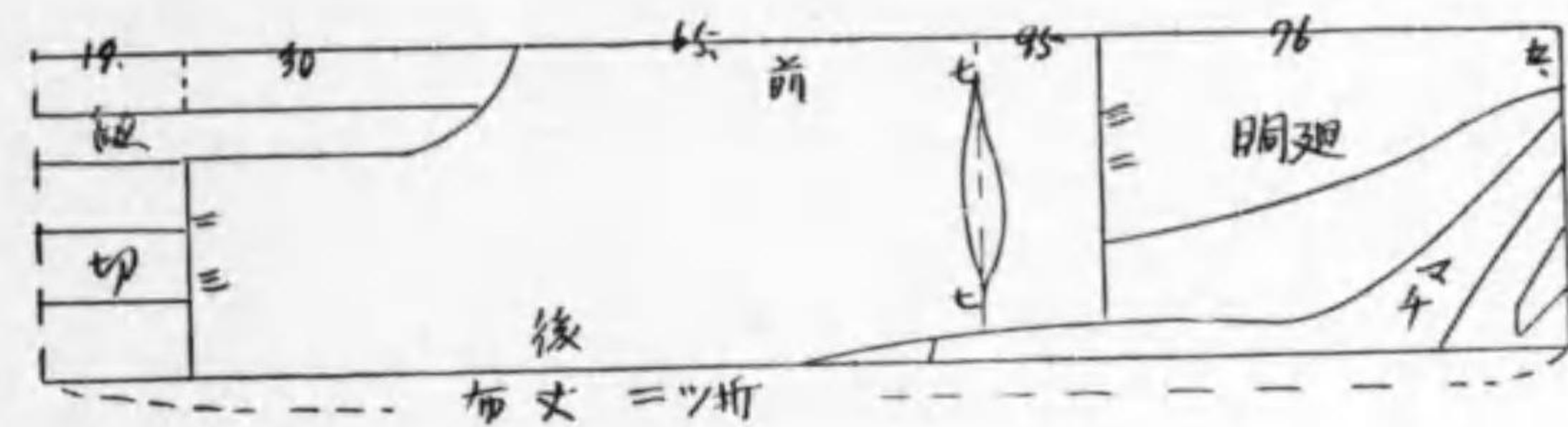
- (1) 膝に當布を附く高さの位置を定め後裾附の縫代を除きたる所より附く當布の四方端は折らずして其のまゝ小針にさし縫になす
- (2) 表裾口と裏裾口とを合せ斜の所は5針縫ひては後へ半返しつゝ縫ふ此の折りは裏に返す。
- (3) 襠丈の不足の所に襠先きを接ぎ折は上に返して折り伏縫になす
- (4) 後襠を附ける裾布の所は表と裾布を以て襠布をはさみ三ツ縫になす折は身頃の方へ返し折り伏縫をなす。
- (5) 前襠を附る裾より10cm位の間糸襠とてマチを表はさず襠幅は襠附の縫代のみなり。其他後襠附に同じ。
- (6) 裾口裏の上を小針にさし縫になす。
- (7) 胴廻附 左右とも後より針を指して釣合を見る折りは胴廻布の方に返し折附縫をなす。
- (8) 前の胴廻しを向つて右を手前に 即ち左身頃が上になる様 15cm

を重ねて假袷をかける。

- (9) 腹巻を縫附る。
- (10) 紐2本を作り腹巻の両端にシツカリと縫附る。
- (11) 上前腹巻の端より43cm内外入りたる所に縦に4cmばかり紐通しの穴をあけ穴かゝりをなす。

○腹巻なしの股引

寸法は腹巻附と殆ど同様なれど胯下を65cm胯上を30cm紐丈を220cm内外胴廻し76cm内外とす。膝當を別布にせば400cmにて裁つことを得。



仕立方 前に同じ。

唯紐附の時左身頃に27cmばかり出して表にて縫附裏にて紵ける。

昭和十一年六月十二日印刷
昭和十一年六月二十日發行

(非 賣 品)

編輯兼 西 田 信
發行人
神戸市須磨區權現町一丁目

印刷人 松 井 梅 藏
神戸市神戸區花隈町三二二

印刷所 松 井 印 刷 所
神戸市神戸區花隈町三二二

發行所 須 磨 裁 縫 學 校
神戸市須磨區權現町一丁目

360
6/2

終